

1962.4.2 (金)

# VOCALIZE

No. 61

AKCヴォーカライズ機関紙・編集

浅井幸三

母のうた

サトウ・ハチロー

ちいさい ちいさいひとでした  
ほんとに ちいさいはでした  
それより ちいさいぼくでした  
おつぱいのんでる ぼくでした  
かいぐり かいぐり とつとのめ  
おつむてんでん いないないばあ

かげえをきりぬくひとでした  
うつしてみせるははでした  
おててをたくぼくでした  
なんども せがむぼくでした  
そとはこまかい こなのゆき  
かげえのきそうなしらいみち

よなべをしているひとでした  
よくつぎをあててるははでした  
ときどきのぞく ぼくでした  
よくにらまれる ぼくでした  
こおろぎ みみずく あまざけや  
とおい チャルメラ おいなりさーん

デジタル注 原文は漢字交じり。また全文は九節ほどの長い詩で、ここにあるのは第一節、五節、六節。

Vocalize

<61号>

## 特集

会員ずいひつ

AKC38年度発表会

… もくじ …

ずいひつ …………… 2

○いとぎき …………… 2

○ボクと本 …………… 3

○佐久島のこと …………… 4

○音楽と想い出 …………… 5

○ワンワン談義 …………… 6

○ある「大根役者の廃業記」 …… 8

AKC38年度発表会 …………… 10

○だいほん・ひと・えんしゅつ …… 10

○オペラ「赤いロウソクと人魚」 …… 12

… について ……………

○旭丘高校音楽部発表会を聞いて …… 14

……………

○文化祭をおえて …………… 15

○プログラム …………… 16

○オペラキャストリング …………… 15

インベンション …………… 7

注 今回の巻頭詩は「合唱界」38号「楽譜のページ」より「母のうた」その一です。

## しゅんげん

園部 靖子 (十)

さつきから庭先の松の木の間に大きな花火がいくつもあがる。糸崎の港祭りは、関西随一だとか。夜空にとてもきれいだ。

私の家が名古屋からここに引越したのは、もう五年前の話。昨年までいた家は、同じ社宅でもずっと低い所にあつて海も何も見えなかつた。おまけに中学校の音楽室がすぐとなりであつたものだから、夏休みなど、もつとも私はお休みの時以外この家には居ませんでした。全く音楽にならない、騒音に等しき音がものすごく、こつちの頭の方がおかしくなりそうだったもので、今の家は海抜六十余米。これは私が五万分の一の地図から読んだ数字であてにはならないかもしれないけれども、大変ながめが良い。庭からダイビングすれば飛び込めそうな所に海はみえるし、右手には呉に続く半島の山なみが、目の前には、形のよい小佐木島が、少し右手に、みかんで有名は高根(こうね)島が、その向うには西日光のある生口島がみえるし、佐木島の手前左よりには、クリームの入っ

たチョコレート球の様なかつこうの oneman 島がみえる。島についての話をはじめるときりがないから、ここでは省略するが、みな一度は行ってみたいナと思う所ばかりである。陸上のバスの様に走っているあの舟に乗って。

はじめはお友達もいないし、知っている人もいないし、それに第一、町らしいところの一つもないこの田舎町に帰って来るのは、お休みの間だけとは云え、大そうつまらなく、ユーウツなことであつた。しかし、住めば都とはよく云つたものである。この家からみえる瀬戸内海の景色はすばらしく、大好きである。帰つて来てこの海をながめると、何だか懐しく思い、慰められ、安心する様になつたのだから妙である。

海の朝は、東の山から未だ陽が登らないうち、漁に出る舟か、ポンポンポンと快いエンジンの音ではじまる。海の面はもやがかかった様にかすんでいる。もやはだんだんとうすくなつてゆき、ぼんやりともやの向うにかすんでいた島のりんかくがはつきりして来る。そして陽がさし始めると海の色は青い美しい色にかわつてゆく。

お天気の良い日は波は静かだ。湖の様に波は立たない。島がよいの舟の真白なのが目にしみる。みているとずい分通る。

鏡の様な水面を漁師の舟の間をぬつて、すべる様に走ってゆく。真夏のギラギラした太陽、青い青い海の色、そして真白な舟：

夕方になつて、筆影山に陽がかたむきかけると、島の山ひだが手に取る様にみえる。木の植っている所、畑の所、山上が顔を出している所、それらのおりなす紋様が美しい。海も昼間の青い色よりはいささかくすんだちがった美しさになる。そして漁をしていた舟は、いつの間に港へ帰つたのかみえなくなる。

あたりが闇につつまれると、佐木島のはしにある燈台が時折ピカリピカリと赤く光る。空には星が一ぱい、近く、大きく手をのばせばすぐにとどきそうだ。

不気味に静まりかえつた真黒な海の上を、ちようちんをつけた納涼船が通るのがみえる位である。この船は四国の今治まで行って帰って来る。それから寝りにつくのである。

花火も終つてしまつたのか、もうしだれ柳も大きな花も星くずも五連発もあがらなくなつてしまつた。

# ボクの本

森本 進 (十)



ボクはひまがあるとよく本屋をのぞきます。そしてあれこれながめた末、ポケットからお金をさがします。そしてわくちやの板さんが見つかるとう一度本をあれこれながめて、安くねうちのある本をさがして買い求めます。そしてそれを大事に家まで持ってかえりますが、たいていそのまま本箱の中へほうりこんでよみません。そしてひまな時本屋にいつて同じことをくりかえします。本屋にいくとボクは何でもほしくなるのですが、買ってもしよまないのが多いのです。

このごろの本はどうもたちがよくないとボクは思います。ボクのほしくなるような殺し文句のタイトルをつけるからいけないと思います。『頭をよくする本』が出ればこれはボクにとつては大ショックですからどうしても買いたくし、『英語に強くなる本』とあれば横文字に弱いボクはどうでも買わなけりやなりません。それに『声のよくなる本』とくればやっぱりこれもほしくな

ります。

いつも本をよまないボクもこの三冊の本は一生ケンメイよみました。頭がよくなつて、英語が上達して、声が美しくなるためにボクは努力しました。しかし一向にききめはありそうにありません。もつともボクはこの本に書いてあるような事を心掛けませんからしかたがないのかもしれませんが、このインスタント時代ですから本をよむだけで頭がよくなつて英語もうまくなつて声もよくなつていかるべきだと思ひます。ボクはだまされたいような気がしてシヤクにさわります。まだこうした殺し文句のついた本は、『お金のもうかる本』の他いろいろあるようですが、ボクは殺されないように心掛けて、板さんや、聖ちゃんや、お岩さんを大事にしようと思つております。

ボクが一番よく買う本は岩波新書と文庫本です。こういう本は安いからボクむきです。ボクは本よりも活字がすきなのです。小さいから、小さな本でもぎつしり活字でつまつていればそれで満足なのです。だから本をよむ時も活字をながめていただけらしくて、なかなか頭の中に入つてくれなくてこまります。

よむ時はボクはたいいてい特急電車の中によみます。ボクは家でおちついて本をよむ事の出来ない人間のようなです。電車

の中のように何もすることのないところでないボクはだめなのです。ボクはいたつてオツチョコチョコイで、気分屋です。から家で机の前にすわつていると何をやつても長つづきがしないのです。そこですこし精神修養をしないとイケないと思ひましたので、この方面の本を買ひましたけどただのページもよんでありませぬ。こういうわけでボクは名古屋から岡崎まで三十三分間、往復して一時間少々を読書の時間にしてゐるのです。

ボクは本屋へ行くと出たらめに本を買ひますが、我が敬愛する先輩の浅井幸三氏は大變計画的に本を買つておられるようなので、すこし見ならおうとも思ひますが、破産しそうですから、もう少し見合せようと思ひます。それにボクは近くに立派なプレーヤーを買いこんで、レコードコレクションを始めようと思つていますので、さしあたって聖ちゃんのコレクションをしなければなりません。だから当分はやっぱり殺し文句にまいたくないように気をつけたいといけな



## 佐久島のりこ

「私の耳は貝のから  
海のひびきをなつかしむ」  
高橋 昭弘（十二）

海というと僕はすぐに佐久島を思い起す。小学校四年頃から殆ど毎年出かけて他の海へは余り行った事がないためだろう。あの泳ぐこと以外何にもする事のない辺ぴな島によく一週間も居るもんだとあきれた人もいるが、毎年夏になると思い出しどうしても行きたくなるのが佐久島なのである。それは只佐久島が親爺の生れ故郷であるという理由だけからではないと思う。今年もやっぱり行きたくなって、バイトをサボって二泊三日の予定で出かけた。午後二時半頃家を出る。金山：知立：三河一色へ着いたのが五時五分前、五時二十分頃小さな郵便船に乗り込む。船上での四十五分間空と海に見とれっぱなしだった。午後六時、ほの暗くなりかけた島に着く。舟着場の防波堤に腰かけてつりをしている多勢の子供達の中に先に来っていた弟とその友達を発見する。

折角来たのに明日まで泳がないのは野暮と考え、早速浜へ泳ぎに行く。す

っかり陽も沈んで電灯が堤防の先の方に明るく水を照らしている。いきなりどぶんと飛びこんで顔を上げると何ともいえず快い気分だ。あちこち泳ぎ回った後ふと気が付くと、手のひとかきごとに黒々とした水の中であわがばかにキラキラと光ってみえる。余りにも明るく光るので気味が悪くなったが、ははあん夜光虫だなと気が付いた。それにしても夜光虫と一緒に泳いだのはこれが初めてだった。

次の日、目をさますと弟達の寢床はもぬけのから。寢坊なやつはどこで寝てもやっぱり寢坊であるというつまらない発見をする。天気は素晴らしく良い。弟と友達二人と「白浜海水浴場」へ。僕はここへ行く道が好きだ。潮風ですっかり古くさくなつた家の間を抜け左へ折れると明るい緑の麦畑が展げ背の高いさとうきびの間から遠くに青い海が見える。お地藏さんのある角を回って墓のある森の右側の細道を下ると白浜がいきなり目の前に現われる。海水浴場とは名ばかり、無料休憩所が一つある小さな砂地の入江である。勿論泳いでいるのは僕達だけ。沖の真珠養殖の舟迄泳ぎ、S度方向を変え燈台まで泳いだ。岩の上に立つ白い無人燈台の上に登って遠くを眺めながら白秋の「海の向う」を口ずさんでいた。

その日の午後、三時頃弟達が帰った。

岩の上から麦わら帽子を振った。正直云って少々寂しかった。それからというものは、親爺のおばさんの娘の子供である二人の子分共がつきつきりで僕と遊んでくれた。僕の子分は非常に明るくて愉快だ。一体にこの島では子供は元氣だがどうも夢がないようだ。高校生（数える程しかいないけど）になるとすでに老人らしさが現われる。まして大人においてをやである。海をちっとも美しいとは思わないらしい。もつとも海即生活の彼等に、その海をロマンスの対象として考えよなどという方が馬鹿げているのかもしれない。

夜、子分共と防波堤へつりに行く。どうせつれやしネェんだとたかをくくって風に吹かれて遠く点滅する知多半島の灯を眺めていたら、両側から「くつとるくつとる」と子分の声、あわててさおを上げる。月の光に照らされて糸の先でいわしが腹を銀色に光らせてはねた時、初めてつりをする人の心境が解った。その夜の収獲はいわし二匹だった。収獲をかついで（？）子分共に手を引かれて意気揚々ともどる途中空には星がきれいだった。

次の日泳ぎおさめとばかり帰る間際まで泳ぎ、五時の船で島を後にした。又騒がしい名古屋へ帰るのかと思うとうんざりせざるを得なかった。

聞くところによると今度佐久島で牛の放牧を行うそうだ。それにより島が少しでも富める島になるのはよろこばしい。でも僕は、都会人の身勝手な願いかもしれないけど、それ以上にこの島が俗化されないように願ってやまない。

五島牛もと抱りぬ

中尾 桂二（七）

音楽というものは一種の条件反射的作用を人間に及ぼすものである。私の頭には記憶すべき能力というものが余りないらしいのに、音楽を聞くといろいろな事が想い出されてくるのである。中学校の頃、私ははじめてクラシックのレコードに接したとっていい。春日井の中学、それも戦争中軍需工場の寄宿舎を改造した相当な代物であったが：その一階の音楽室で毎日の様にSPで「未完成」や「運命」など盤が白くなってしまつて観賞に耐えなくなるほどに繰り返し返して聞いたものである。だから時々どこからともなく「未完成」が流れてくると、その頃の毎日の学校

生活が懐かしく憶い出されてくるのである。寒い学舎での補習、恐い江藤先生（現旭丘化学教官）、そして初恋のひととの楽しい毎日…。

そして私の憶い出は、チャイコフスキーのピアノ協奏曲を聞く時、初めて音楽喫茶という所へ足を踏み入れた日にとぶ。御園座裏にHIFIという小じんまりした音楽喫茶のあったのを憶えておられる方も多いだろう。あれは大学一年の春だった。学生音楽祭で名大混声合唱団に出

た私はその夜のパーティー（ミーティングと称した）までの時間つぶしにそこへ友人につれられて行った。正にコールコヒーの味もここで覚えたのであるから私は随分純情な青年だった訳である。そしてその日第一曲がピアノコンツェルトだったという次第。これには後日談があった、その日のパーティーで同席した女性が当時国際学生協会（I・S・A）の東海地区委員長黒宮さん（当時名大経済学部三年）の従妹だったので彼と知り合った私はI・S・Aで大いに活躍し、はてはそのクラブのおかげで三菱商事に入社したということになるのである。従つてチャイコフスキーのピアノコンツェルトはこの会社を思い出させてもいい訳であるが、むしろ私はあの日の冷たいコヒーとその中でカチャカチャと快い音

をたてていた氷の破片を想い出すのである。

最後に、多分私の生涯で最もロマンチックにして悲劇的であるストーリーにまつわる音楽を御紹介する。それはシグモント・ロンバーグの

「When I grow too old to dream」

「夢みる頃をすぎても」である。

その歌詞は

夢みる頃をすぎても 私は貴女を

忘れないだろう

夢みる頃をすぎても 貴女の愛は

私の心の中で生きているだろう

だからキスをしておくれ 私の恋人よ

そしてそれから別れよう

夢みる頃をすぎても そのキスを

忘れないだろう

という様なものである。

この歌のいわれを聞きたい人は、いつか機会があったら直接私がお話ししてあげましょう。



渡辺 義彦 (十一)

西瓜を買いに行つて驚いた。若い小僧、「ペスの家」と墨黒々と書き込むのである。オツムの回転の速い読者は、ハハア、こいつんところは現在ペスという犬を飼っているんだな」と推理を巡らして自らの深い洞察力に酔うている事であろうがさにあらず、ペスを飼っていたのはもう五、六年も昔の事である。何故にそのペスの名がかくも附近の人々の頭脳の浅いしわに深く刻み込まれているかと言え、これひとえに彼の勇猛果敢なる攻撃態度故である。自転車と見るや万に一つも逃さず肉薄してゆくのだから嫌われた。然し飼主も悠然たるもの、愛すべき自然の児を鎖でつなぐ様な残酷な仕打ちは断じて行わず、すべて彼の犬格を信頼しその自制に委ねておいたのである。度量の広さ、大いに讃えられるべきであろう。雑種ではあったが、コリーとエスキモー犬と狸を一緒くたにした様な風ぼうはちよいとハンサムであり、飼主と同様少しもいじけた所がないので、

嫌われながらも一種不思議な愛着の念を人々に植えつけたものと見える。フィリアにかかつてあえない最期を遂げ、今頃裏庭の土中に白骨となつてゐるだろうが、可愛い奴だった。そして今なお八百屋、魚屋は、ペスを以つて我家を象徴するのである。前記八百屋の小僧の如き、ペスの死後余程したから店にきたものである。あいつめ、土の中で白い歯をうち合せ、カラカラと笑つて自らの高名に悦に入っている事だろう。

このペスの死後間もなく親父が又どこからかまだ目も開かない小犬を手に入れた。初めは単程の大きさであつたが、長ずるに従いこれ又攻撃精神豊かとなり、玄関から飛び込みざま熟睡中の妹の鼻柱にかじりつき、男泣きに泣かせた事もある。いい子だいい子だと顔を近づけると、エヘラエヘラ笑う様な風でいきなりパクツとくる、面白い見どころのある奴であつた。この二代目ペスも幼くして頓死した。以後犬を飼っていない。

僕は人間が苦手である。皆偉そうなツラアしやがつてどうせロクでもない連中なのに勿体ぶつてゐるが、犬はそうではない。ジツと目を見つめれば信頼の念一瞬にして相通ずる次第である。ナニオツ、ガールハントと同じ要領だわ：馬鹿を言つてくれるな、こちらのは神聖なプラト

ニツクラブである。時にはひねくれていて俺様に迄気狂いみたいに吠えついたりする不逞の輩もままあるが、これはすべて飼主のひねこびた根性からくるものであると確信する。浅井会長の家の犬など良い例である。

貴様には親友があるか、本当に親友と呼べる友が居るか：と尋ねられたら返答をためらわねばならぬのは悲しいが、犬を入れても良いのならたちどころにイエスの答が出る。豆腐屋のマリあり、八百屋のテロあり、コロあり、宝塚にテピあり、阪の下宿にベルあり、すべて我が親友であり僕の顔を見ると全身喜びに震わせながらとんできてくれるのである。これ帰省第一の楽しみである。人間も顔見知りの女性ともなると、僕の顔を見るや変なうす笑いをうかべて目をそらすのがまず普通である。言語道断と云うべきであり、少しは犬に見倣い喜悅の情にうちふるえて僕にとびついてきて然るべきである。以後心してほしいものだ。

僕の祖父の雷は全く物すごいものだったという。京城で可成り成功したというが、嫌な客だと、「塩をマケーツ」一喝、祖母はそれに従わねばならなかつたという。でかい邸にはいつも数匹の名犬が飼つてあつた。或る日、その一匹が不覚に

もはしたなき犬捕りの不浄の縄に御用となつたのである。烈火の如く怒って飛び出した祖父、いきなり「バカモノツ」と浴びせかけた。犬捕りくんもびつくりしたが、男の意地で、縄を放さなかつた。頭に来た祖父は書生に命じて犬の両足をもって引つ張らせたのである。いとも珍妙なる犬ひきと相成つた。見物人がハラハラして止めようとしても祖父は頑として聞かず、「それ引けツ」と尻ごみする書生に勢をつける。このワンクン間もなく悶絶して昇天したことは言う迄もない。こうなると愛犬家というのも怪しくなる。それにしても不幸な星の下に生まれたワンテキであつたと同情にたえない。

犬とは言えど詮心をもつた生き物であり単純なだけに却って人間よりも気性がサツパリしており、こころも美しい僕には至極つき合い易い。ラッシーみたいなこざかしいヤツは御免である。雑種で結構、ケンカが少し強くて威勢のいい、話の分る奴が一匹欲しい。小うるさい女房など貰わなくてすむであろう。



## Invention

お久しぶりです。みなさんお元気ですか。61号をお贈りいたします。昨秋発行する予定だった「アカペラ」と、のびのびになつていた三十六年度AKC発表会の報告とをまとめました。「アカペラ」を発売できなかつたのは残念ですが、原稿をお寄せ下さった諸兄姉には厚くお礼申し上げます。今年こそ、会員随筆集の発刊が実現できますよう努力したいし御協力もお願いしたいと思います。

AKC音楽会についても、もっと早く皆様にお知らせしたかったのですが、例のスランプに襲われてしまつて……。でも、そんな時（編集部だけでは如何ともし難いとき）皆様のお手をほんのちよつとだけでもお借りできたらと思います。

そもそも61という数字は62という数字よりも先に出てくるのが普通なのですが、この世は常ならぬもので……。いやいやこれはひとえに僕の怠マンによるものでして（ごくごく私的な忙しさにオンブした……といつてもお見合ひなんかではありません）申し訳ありません。

新年度は、きつと、僕にかわつて新役員がすっかりやつて下さることでしょうから皆さま、御期待下さいように。

（鈴木道）

○：この欄は本当は浅井会長のためにとつてあつたのだそうですが、発行の都合上私が無断でピンチヒッターに出ましたとにかくこの号は四月二十日付けで出すのですからね。

○：どうもこの頃の「ヴォーカライズ」は変てこで62号の次に61号が出たり、その内容は半年も前のものであつたりして申し訳ないのですが、なかなかオモチヨロイではありませんかね、このぶんदैいくと62号の次は70号ぐらいになつて以下順に69, 68……ときて、内容は新しいものから古くなつて行くということにもなりかねないではないかいな。そうならますますオモチヨロイことになるぞよ。

○：例年ならば四月にはいつも十二期生と私と浅井会長らが中心となるお花見の会というものが、大変みごとな桜の木のある私の家でおこなわれるのでありますが、この桜が去年の秋について他界しましたし、私が入院したりすることもあつてついにオジャン。遊びたい私にとつては残念なことでありました。また今度桜の木を買つてきて植えることにします。その時には皆さまおさそい合せの上、お菓子をたくさん持つておいで下さい。てぶらの人はおことわり。桜の花はいつ咲くか、それは私の心に春のくる時、ケセラセラ

（森本）

## ある「大根役者」の

## 廃業記

…しろうと芝居からオペラファンへの道程…

浅井 幸二 (五)

NHKテレビの人気番組「ジェスチャー」も、私事多端で連日七時半まで帰宅したことのない私には、てんで縁遠いものになった。正直いって、私はこの「ジェスチャー」が、見るのはともかく演ずるのは大きらいなのである。

ことしの二月、わが中日速記部若手グループによる新年会(忙しいので、ここ二年ほど旧暦による新年宴会しかやれない)でも、余興にこのジェスチャーが始まった。例によって、私の演じた「ひとりものの月下氷人」「はしご酒をしながらグラマー女房が気になつてならないトレンジスター亭主」の二題がともに当たらなかつた。いや当てももらえなかつた。のち、実は小さいころにそのけちのつきはじめがあつた。

国民学校四年のとき、空襲をさけて千代田村(いま稲沢市)に集団疎開をした私たちは、暇にまかせてよく遊んだ。きょうは面会日(ああ、なんてな

つかしい言葉だ…まるで刑務所か軍隊みたい)というと、仮設ステージをつくつて準備し、わずかばかりのみやげものをあてにして、両親たちに歌ったり踊ったりしてみせる涙ぐまじき子ども心を發揮したことあれば、日曜日には朝食を節約するために昼まで床の中にもぐり込み、すきつ腹をかかえて大本堂に並んだいがぐり頭のすみっこから順に歌をうたつたりもした。そうしたある日、ジェスチャー遊びが試みられた。日ごろおとなしく目立たない(つもり)私だが、当時は軍歌係：行進中に、一人で先に一節ずつ歌ってリードする役：をしたり、四年生のくせに五年生をさしおいて班の統率者になつていたせいもあつて、早々にひっぱり出されて課されたのが「へび」という問題だった。いまならばなんとかごまかす方法も考えたろうが、当時は教科書の朗読を命ぜられてもおどおどし、むやみと涙つぽかつた私の純情ぶり？からは、とうていできない難題で、みごとにアウト。ひどく恥ずかしい思いをし、くやし

くもあり、またみじめにも感じた。だが、「大根役者」ぶりを自覚したのは、それよりのち、校内演劇大会などに出演するようになってからだ。大げさな演技をきらい、喜怒哀楽さえ一つの表情のもとに押し隠していることが美德であり男の姿であると、かたくなに、教えられたとおりで育ってきた戦時育ちの模範生にとつては、泣いたり、笑ったり、大声を出したりする「芝居」にはどうしてもなじめなかつた。ところが、皮肉なことに、いつのクラスでも必ず一役は振られるはめになつてしまつた。いまでも覚えてる、小学校六年生には「今一休さん」の脚色、演出、主役の一人三役、中学一年には「ロビンフッド」で白装束の騎士マリアン：マリアンというのはロビンフッドの恋人なのでもちろん女性だが男子ばかりの演技陣なので男役にしたものの：この白装束というのも私自身考えたいでたちだった：といったぐあいに、思いもかけない役がころげ込んだ。中学三年には人形芝居で他校を夏期巡演したり演劇部に知らぬまにひっぱり込まれて、シナリオと演出を担当させられたり(この期の傑作はデユマの「三銃士」、見せ場つくりのため剣劇ばかりやらせる)：いや応なく演劇に一步も二歩も近づかされた中学時代だった。

そして中学三年、私たちのクラスは、アンデルセンの「鐘」を劇化して上演した。当然のごとくに脚色と演出を与えられた私は、幼い知恵をしぼってシナリオを書き、演出に当たつた。くだらないことおびたらしいシナリオと、出演者が恥

ずかしがつて、いつこうに演技らしいものをしてくれず、とうとうコンクールでは「みずからシナリオを求め新しさを打ち出そうとした意図は買うが、とくに生徒側審査員の評点が悪かった」の講評つきでみごとに最下位：もつとひどいことには、演技者、演出者としての私個人への批評までつけ加えられた。自分の演技の生硬さと芝居心のなさをいやというほど思い知ったのはこのときだった。

それでもまだわたしは演劇をきらいになつたわけではなかつた。けれども旭丘一年の事件は演劇らしきものの世界から完全に私をたたき出してしまった。やはり校内の演劇コンクールのことだ。私たちは「日本名」という中学生向き程度の台本をとりあげた。好演劇技者ぞろいのHRだったので私は演出だけを担当した。もちろん好んでやったわけではなく、当時の学級委員としてやむを得なかつたからだ。このときも、自分が大根役者なので、一々手をとつてこう演技しろと指導できないもどかしさを感じながらも、とにかく毎日暗くなるまで練習をやつた。その成果はあがつて初日に出演した私たちの評判は最高に近かつた。HR担当M先生（家庭科）も、事前に衣装のこ

となどで相談をしなかつたのを不満に思われていたようだが、翌日私の顔を見ると「きのうの中では一番評点がよかつたということよ、本選ではしつかりやりなさいね」といつてくれたのに：意外にも私たちは予選で落ちてしまつた。しかも初日の採点で私たちより評点の悪かつた組がいくつも通過してのことだから、私は屈辱の念を押えられなかつた。「演技などはよかつたが、シナリオに決定的な欠陥がある」ためだと聞いたとき暗然とした気持だつた。台本が中学生向きだとしても、なんだろクな高校生がやつて悪かつた。シナリオもよんでいなくせに：と大声でどなつてやりたかつた。が、とにかく予選で落ちた。記念写真は抹殺されてしまつた。（当然もう一度この衣装をつけて本舞台へ出られると思つていたから）。私はただ悄然と級友に向つて「きみたちの演技はすばらしかつたのにぼくの選んだシナリオが悪かつたばかりにこんなことになつて：」と頭をさげただけだつた。

その日以来、私は演劇を見るためにホールへ通おうと思わなくなつた。オペラとバレエへの行脚が始まつたのは、あるいはその埋め合わせからだつたからかも知れない。

（注）私たち（昭和二十五年HR一〇七）の「日本名」が落ちた理由はこうだ：HR中に演劇部員がいたのにスタッフ、キヤストの中に一人も入れず、またシナリオその他いっさいを演劇部員に相談しなかつたうえ、演技指導者として私の中学の恩師を招いて、二度ほどみてもらったことが、演劇部員をひどく刺激したらしい。よそのHRはすべて演劇部員がインシアチブをとつてゐるのに、一年生のくせに生意気だ：というわけだつたのだらう。予選終了後の審査会で、生徒側審査員（演劇部員）が一同して私たちを落としにかかり、だれの目にもわかる演技、衣装、装置などでは言いがかりをつけられないため、シナリオで難点をつけたのだという。それ以来私はこうした不正の立ち入る余地のあるコンクールに興味をなくした。私はいまよりずっと潔癖で正義感に富んでいたので：



## 特集 36年度AKC発表会

きいた人から、うたった人から…

なにはともあれ、眠っていた原稿が半年ぶりにヒノメを見ることにあいなつたことは、まことにめでたい。しかし、昨年十一月に特集されるべきであったのだから、このようにオツにすましてはいけないのだが…。

「やつぱり僕がゆかなくちやだめか」と浅井先輩が嘆いたのは、昨年十一月のこと。僕がこれをまとめることになつたときのこと。とにかく初めてのことでだからどういうぐあいにしたらいいのかさっぱり見当がつかない。原稿を集めてみたものの、どうにもならず、原稿もろとも、この役を返上、先輩の嘆くのも無理からぬこと。

さて、AKCの発表会もツツガナク行なわれ、そのときのことをもれなくお伝えしたいのだが、編集の不ゆきとどきで、いささかダイジェスト的？になつてしまった。以下は「オペラそのテンマツ記」「合唱についての意見」など、歌った人、聞いた人、演出した人、見た人などの感想である。尚、当日訪れた卒業生は、商売繁盛の永井充君(七)ひまをもてあましている鈴木道郎・横橋貞雄両君(十二)試験中の高橋昭弘・安田軍二・水野公子君(十三)の六名。

だいほん・ひと・えんしゅつ

福田 常彦 (15)



多分六月の終りか七月の初め、ことしもオペラをやることに決まり、「演出者」と称する者に僕たち四人が決まった。でさつそく日本楽器へ台本を選びに…。ところが僕らに適したのはなかなかない。小学校や中学校向きではおもしろくないし、高校向きというのもあったけど「さるかに合戦」では何だかやる気もしない。もうすこし高級？になると「手古廻」奈などといった及びもつかない？しるものだ。(クラブでやるのだから出演者もなるべく多いのがいいし、少数の人にあまり負担のかかりすぎるともよくない)さんさんねばつたあげく東新町の某楽器店へ。しかしそこにもいいのがない。おまけに店員のカンジが悪い。しかたがないので学校へ退却、学校であれやこれやいったあげく、「赤いろうそくと人魚」に決定。そのおもなる理由は、どうも「題名が口

マンチックでよいから」ということにならうらしい…そしてそれが小学校、中学校アンドン最後に「高等学校向き」とあるのがせめてもの慰め？…

ここまではまあまあ順調にいった。ところが、その台本を日本楽器に注文したが、全然手持ちがないとのこと、出版社の在庫品だといって四冊ばかり渡してくれた。部室に一冊あつたと加えて合計五冊、これでは練習もできない。出版社になくはどうかにもならない。それから涙ぐましい努力が始まった。名古屋じゅうのおもな楽器屋の手持ちを集めようと思つて電話をかけた、歩いたり、岡崎の楽器店も調べ、豊橋へも友だちに調べてくれるよう頼んだがありがたい。万事休す！しかし不思議なこともあるものだ。八月七、八日ごろ、学校へ行つてみると部室にその台本が三十冊ばかりある。その理由は簡単、出版社が最近再版したので。初めの予算は十五冊くらい買うつもりだったのが、そこらじゅうの楽器店に頼んでおいたので、そこからみんな集まつてきてこんな現象になつたらしい。こんどはより深刻な経済問題へと移つたわけだが、会計の手腕がものをいって、出演者全員に一冊ずつわたるようすませた。

次は、配役その他の人事……。男子の方はさておいて、女子の方は聞くところによるとほとんどが人魚になりたいらしい。その熱意は買うとしても、少なくとも僕にとってはこんな珍現象？は初めてなので当惑した。むしろ、「いやだなあ」といつてくれた方が、実をいえば「無理にやらせちゃえ」ということになってつごうがいいのだがなあ、などと思ったりもした。しかし指揮者らの技術的（声質声域など）意見や、他の役割との比重を考慮に入れて一応決定した。子供が全部女声になってしまったたり、人魚の娘より大きな子供ができてしまったり、問題がないわけではない、しかしヒロインや伴奏者の負担を考えて、これを二分したことや、漁師、香具師の人数をふやして出演者を多くしたことは、技術的には問題があったが、クラブ活動そのものとしての面では良策だったと思う。また二年生の男子の舞台上の役割を軽くして一年生を起用したことは、のちに道具を作ったり照明その他細かいやつかいな仕事をするのにあたってかなり成果を収めたのだと思う。

こして人事は決まり、いよいよ実質的活動にはいることができるはずなのだ、なかなか思うようにいかない。

初めの予定では夏休みの終りまでに全員自分の役を歌えるようにしておくということだったが、暑さのせい、譜をみてなら一応歌えるという段階にはなったが、伴奏と合せたり暗譜するということろまではないかない。夏休みのクラブの出席率も予想よりはかなりよかったのだから、もっと休み中にまとまって練習しておいてもよかつたと思う。個人でそれぞれが歌えるようにしておくという方法をとったのがいけなかつた。

さて夏休みも終つたが、それから九月十日のNHKコンクールに備えて、タヌキ先生もご来場のうえで、モウ練習で、オペラの練習はおあずけ。九日以後二週間はテスト期間で活動中止、九月二十一日から活動開始。その日に先輩もまじえてバックの風景を書いたり家を作ったり。そのころから本職の演出をしようと思つたが、まだまだ台本を手を持ってやっどひととおりで通してやれるくらいなので、とても動作までつけることができない。それで指揮者から翌日までに完全マスターするようにと厳命、これがかなり効果があつて、それからあとは台本とり上げでリハーサル、放課後という時間的制限と鯨光館を演劇、器楽、英語と割り当て使用なのでステージ練習ができないのが大きな悩みのタネだった。しかもステー

ジ使用の日でも館内はバスケットのドリブルの音でピアノもうまく聞こえないほどで、音楽室でやった方がましなくらい。演出にあたって、原作と台本を読んで、まず ①こじんまりしていること ②あまりに現実的にならないこと ③土くさいということ ④どの場面でも音楽的リズムにのつたスムーズな動きをつくること……を目標にした。実際にいってこれだけではまだまだ不十分である。たとえば台本には登場人物（とくにおじいさんとおばあさん）の性格をはっきり打ち出すようにと書かれていた、が、少なくとも僕の能力では残念ながらあれだけの台本からは両者の性格を固定する根拠がほとんどつかめなかつた。小川未明の原作を読めば、それらの性格はかなりはっきりつかめるのであるが、原作にある登場人物の性格は、原作におけるきびしさというか、人間社会を批判する立場に立つたシャープな描写をもっていない（僕にはそう感じられた）台本の中で、ただ少しの香具師とのやりとりで金のために心がゆらぐという場面だけで表現しようとするには、あまりにも歌の内容が乏しすぎると思われた。しかたがないから、原作から僕なりに感じた原作者の精神は無視せざるをえなかつた。そのために上演した

ものの中に、何か一本の明快なものを打ち出すこともできずにもやもやとしたものになってしまったことは否定できないう。けれども、全体的にみて、この台本を選んでよかつたと思う。前記のような不足は感じたが、一つのストーリーとしてのロマンチックな美しさは十分にあつたと思う。とくに人魚が香具師に連れていかれる前のアリアなどは実に美しいと思つた。最初に掲げた四つの目標は、このような「美しさ」をかもし出すために考えたものだが、基本として、各人の動作はなるべくおのおので考えたようにやるようにした。こちらがとやかくいうより、その歌を歌うのは登場人物であり、その歌に従つた自然の動きがほしかつたからである。しかし舞台上では常に歌えるような姿勢でなくてはならないので、かなり不自然なところもあつたかもしれない。またそのようなことから動作が一般に消極的すぎた感があつたことは考える余地がまだあつた。

まあだいたい以上のようなことだが、四つの目標がどの程度達成されたかは見た人たちの批判にまかせたいと思う。声が小さいというのがもつとも一般的な批判のようだが、それは認めるとしても、その技術的解決方法は僕

にはわからない。(要するにもつとよく通る大きな声を出せばよいのだらうけれども)。全体的にいつて上演のステージに対する評価は別として、僕としてはクラブ活動という面からみて、このオペラを中心とする一連の文化祭までの過程(とく

## オペラ「赤いろうそくと人魚」

### について

鈴木 道郎

はじめに：「今年はおペラをするんだ」という在校生の言葉に、現役時代オペラ熱にうなされていた一人として、実現できなかつた夢を彼らが実現してくれるという満足と期待で、私も何か落ち着かなかつたのだが、気のついたことが一つ。それは彼らの文化祭に対する考え方、何かに取り組もうとする者の考え方である。皆が皆そうであるとは言いたくないが「仕方がないから」というきわめて義務的・消極的な考え方、「なるようになる」という意欲のない甘えた考え方が、彼らのどこかにありはしなかつたか、という

に文化祭に至る十日間)では、各個人それぞれいろいろな面での負担はかなり大きかつたかもしれないが、とにかくよくまとまつてできたと思う。そういつた面で、僕自身得るところ大であつたし、また皆がそうであつたらうと思う。

ことである。とくに「なぜ、これを取りあげねばならなかつたのか」「何を訴えようとするのか」という演出の意図が明確さを欠いたこと、「製作する」「芸術を生む」という意気込みを感じ得なかつたことは残念である。もちろん、現在のクラブ活動のあり方にも難はあるが、それを云々する前に考えてみなくてはならない問題があるような気がする。事情がどんなであるにせよ、トコトンまでやつてみるだけの熱意がほしかつた。そして毎年のことながら、年に一度の演奏会がおざなりの、間に合わせになりがちなこと、は、こころさびしい。

開幕、そして：今度の場合、演出家を四人もおいたことは、どうも解せない。また、そのせいも、舞台が、つかみどころのないものになつてしまつた。台本の注意書きはロマンチックで云々Vにこだわりのすぎたのではないか。ロマンチックと

いうのは、舞台の終わったとき、観客の胸にふと浮かぶもの（雰囲気）がそうであるので、舞台そのもの（演技）はあくまでリアリティを欠いてはならない。ロマンチックというのには、お祭りがお通夜のようにであったり、村人の嵐に逃げまどうのがネズミの運動会のようにであったりすることではない。舞台と雰囲気という点で、酷な言い方かもしれないが、彼らは間違っていたのではないか。また、当日の舞台を見て、△練習風景をそのまま舞台にのつけた▽ような感じさえ受けた。立稽古不足も目についたが、日ごろの練習を一つのステージとしてまとめあげて忘れているようにある。

個人的にみれば、われわれのころよりも、歌はうまくなっている。にもかかわらず、コーラスとなるとうまくゆかないのは、どういうわけだろう。ヒロインの前半の高田さん、澄んだ声もよかったが、もう少し音量がほしかった。後半の津坂さん、このオペラのやまともいべきアリアをみごとに歌いあげた。爺さんの野地君、よくこの役をこなした。来年のバス・ソロを期待しよう。婆さんの大沢さん、日ごろの力が出しきれなかった。香具師の笠間・島田両君、よく歌えていた。性格

描写も最良。村人の合唱は、アンサンブルとボリウムの点で難があった。漁師の合唱、曲のもつ躍動性に完全に引っかけまわされていた。子供たちは、声はかわいらしかったが、装置のミスもあって動作との調和がとれていなかった。

不思議に思ったのは、二年生にとつては最後の舞台であるのに、男子の大半が裏方へまわってしまったことである。彼らは彼らなりに忙しがっていたが、それは彼らの自己満足の材料になるだけであつて、出て来た指揮者にスポットするのを忘れて、御自慢の稲妻を忘れていてあわてて駆け込んだり、といった例によつての失敗と、合唱陣が手薄になるということ以外、あまり効果はなかったようだ。

装置はこじんまりしすぎていたよう、だが、岩の配置が、あまりにおあつらえ向きで、演技が不自然になるきらいがあった。照明については別にいうことはない。嵐の場面で効果を使ったことは良策。指揮の三輪君、うまくなっているが、間（ま）をおきすぎた。伴奏の加藤郁さん、宮部さん、よくやってくれた。陰の功労者というところ。

おわりに：今度のオペラをみて、音によつてストーリーをつなぐのがいかにむずかしいか、僕なりに感じたのだが、ピ

アノだけの部分においては、ほとんどの場合、舞台は空白状態にあった。台本そのものも、妙にブツ切れになっていて、演出上ずいぶん困ったのではないかと思うが、一つのお芝居としての連関性を考えた場合、大きく切れるところ、つないでおかなくてはならないところ、という点で、台本に忠実すぎたと思うし、工夫してほしかったとも思う。

オペラ上演によつて、クラブの停滞した機運を刷新するのは、悪いことではないが、複雑な仕事であるだけに、確固たる何かを持って、綿密な計画の下に進んでもらいたいと思う。そして、一年生諸君が、今年の経験をどのように生かして来年の演奏会を持ってくれるか、大いに期待したい。

編集部ただし書き  
 今月の巻頭詩「母のうた」  
 五月十三日は「母の日」です。だからという訳ではありませんが、何かないかなアと思つてそこいらじゆうをひっくりかえして、やつと見つけたのがこの詩です。詩を解せない僕でもオフクロのことだけには、しんみりしてしまします。自称オフクロツ子な僕ですから  
 △みちお▽

## 音楽部発表会を聞いて

高橋 昭弘 (十三)

一ヶ月もたつちまつてから文化祭の感想を書くことになったので、ずいぶん記憶が薄くなつてしまつている。特にあのときは試験中だったので合唱部門しか聞いてないが、思い出すことを少々書いてみようと思う。

まず最初の混声だが、やはり急造の感はまだぬがれない。まあまあやつと仕上げたという感じであつた。要するに今考えてみても何をやったかなあという印象の薄いステージであつた。

次にカルテット、トリオだが、このステージは(ことにカルテットは)はつきりいつて「ひどい」の一語につきるようだ。カルテットについてはその生命であるハーモニーの片鱗さえもみられなかつたのはまったく残念であつた。まずメンバーの組み方に難があつたようだ。ハイバトンがバスをやつていたり、トップが完全に遊離していた。それにしてもメンバーが selected member であるだけに、ハーモニーの出なかつたのは重大なショックであつた。Selected member のハーモニー感があればであるとすると問題は深刻である。

もちろん練習予定とかアガつていたとかいろいろ障害はあつただろうが、それにしても四曲のうちただの一度もハモらないと言ふのは、やはりハーモニー感というものに欠けていたと結論せざるを得ない。このことはとりもなおさず音楽部全体についてハーモニー感がないということなのであり、合唱の生命であるハーモニーを軽視しすぎていたということがいえるのではないだろうか。この点今後の練習の一つの課題ではないかと思う。ついでにいっておくと全体に発声の悪さが目立つた。ハーモニーとともに今後の練習に期待したい。

次に同声合唱だが、これも練習不足が目立っていた。女声はたとえ「美しく青きドナウ」がずいぶんスローテンポで演奏されたように、やや少女趣味的すぎたきらいがある。美しい旋律をきれいに歌うことが、必ずしもその曲を歌つたことにはならないのに気をつけてほしい。かなりよくまとまつていただけにその点おしまれたステージであつた。毎年女声に比べて不評の男性はバランスの点では近年では最も充実していただだけに、もう少しいいハーモニーを聞かせてほしかった。歌い方もずいぶん粗雑だつた。このステージで印象に残つたのは「二人の擲弾兵」である。粗雑さの点では他に劣ら

ず粗雑であり問題はあつたが、全ステージを通じて、うまく歌おう、きれいに歌おうという意識が先走つて、自分たちが歌いたいという気持があまり感じられない中で、この歌だけは皆が力一杯歌つたというところで僕は最も感激した。曲が終つたときの歌い切つたという感じの表情を見たときはうれしい気がした。演奏としては確かにガナつただけのものだったかもしれないが、僕はそれより歌おうという気持の方が貴重だと思う。最後の混声は非常によくまとめていたように思う。バランスの点ではほとんど問題はないようだ。ただ気になるのは、どの歌もみんな同じように歌われたことだ。もちろんロシア民謡の「ボルガ下り」と朝鮮民謡の「アリラン」の相違は旋律を歌つていればおのずとある程度出てくるかもしれないが、前者に力強さが不足し、後者に哀愁味が乏しかったのは、一人一人が(あるいは指揮者も)その本質的な違いをほとんど意識しないで歌つているところから来たように思われる。もっと細かくいえば、一つの(フォルテ)、一つの(ピアノ)、cresc.、そして休符も、必然的な意味を当然持つていなくてはならない。その意味を考へることなしにただ指示された通り歌つていたのではないだろうか。もしそうだとすれば、そこに根本的な問題

があるように思う。こういう面を少しでも考えてみれば今後もっともっと人を感じさせる歌を歌うことができるように思うのだが…。

最後にもう一言、とにかく在校生の人たちが元氣一杯に、しかも楽しそうにやっている姿をみて非常にうれしく思ったことをつけ加えておきたい。

### 文化祭をおえて

内藤 毅 (十五)  
(三十六年度AKC部長)

僕は今文化祭のことを思い出している。もう何ヶ月も何年も前のことのように思える。

第一日合唱の部、何かみなおちつかないようすでそわそわしている。僕はそのときになって文化祭の発表を二日に分けたことを、たいへんよかったと思つた。そのときの状態では、もしオペラをやっていたら、大変な間違いをしたように思う。終りの方にあまり練習をしすぎたので、皆声の調子がおかしい。のどの使いすぎだ。健全なのは僕たちオペラ演出、照明になつた者だ。

朝から大きな声を出して、はりきつていた。この連中、あまりオペラの方に一生懸命になりすぎたため、自分たちの行なうカルテットが全然やつてない始末、その日になって練習するとうい(今の言葉でいうならインスタント・カルテット)になつてしまった。さて、発表会の方は、大した失敗もなくすることができたが、ただ、男声合唱の一部に変なところがあつたことと、そのときになつて楽譜とじがなくなつてしまったこと以外、僕としては、満足している。

去年の文化祭を見た僕は、今年の文化祭のことについて、少しは考えていたつもりだったが、全然自分の考えが甘かつたことを、深く反省している。またその当日のことに返るが、毎年のことだが、今年も幕に苦しめられた。前日しまつていた幕が全然しまらない。やつこのことで、幕をしめ、一度あけたらしめることができない。ついに幕を一度もしめずに行つてしまった。あまり練習におわれていてその他まで手がまわらなかつた。しかし、僕はこの文化祭で、いろいろな勉強をした。将来何かの役に立つことができるだろう。しかしこんな経験は一度でよいとつくづく思つた。

### AKCオペラ・ 上演記録

小山章三 作曲 「赤いロウソクと人魚」(1幕2場)

とき 昭和36年十月五日(木)  
ところ 旭丘高校・鯨光館

#### スタッフ

演出 福田 常彦(二)  
装置 内藤 毅(二)  
衣装 鈴木由紀子(二)  
証明 石原 治(二)

指揮 三輪 貞寛(二)  
ピアノ 前加藤郁子(二)  
後宮部杏子(二)

#### キャスト

人魚 前高田幹子(二)  
後津坂絢子(二)  
おじいさん 野地 裕(一)  
おばあさん 大沢尚子(二)  
香具師 島田 彰士(二)  
笠間 茂樹(一)  
村人・漁師・子供たち大勢

合唱 AKC合唱団

△注V 演出は選ばれた四人の合議制で行なわれたが、福田君を代表者として記録する。(一)は当時の学年。

1961.10.4 AM 11.30～ 昭和 36 年度 於・旭丘高校鯉光館  
旭丘高校音楽部発表会（第一部）

- |            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| 1. 混声合唱    | 森の教会堂<br>ネリブリー<br>主人は冷たい土の中に<br>サリマライズ<br>もろびとこぞりて | ピッツ<br>フォスター<br>フォスター<br>オランダ民謡<br>さんびか        | 指揮 三輪 貞寛                                   |
| 2. ピアノ独奏   | ソナタ K333   | モーツアルト   | 宮部 杏子                                      |
| 3. 女声合唱    | 禁じられた遊び<br>夏の思い出<br>美しく青きドナウ                       | スペイン民謡<br>中田喜直<br>J. シュトラウス                    | 指揮 加藤 郁子<br>ピアノ                            |
| 4. 男声四重唱   | メダカの学校<br>収穫の秋<br>ふたごのジャック                         | 中田喜直<br>ロシア民謡<br>フランス童謡                        | T1 三輪 貞寛<br>T2 石原 治<br>B1 大里 斉<br>B2 水野 恭佑 |
| 5. 女性三重唱   | お江戸日本橋<br>草原情歌<br>子守歌                              | 日本古謡<br>中国民謡<br>モーツアルト                         | S 今津 久代<br>Ms 渡瀬 陽子<br>A 伊藤紀代子             |
| 6. シロフォン独奏 | 「白鳥の湖」より「白鳥の踊り」<br>ウィリアムテル幻想曲                      | 「アイーダ」より 勝利の行進<br>ロッシーニ                        | チャイコフスキー 太田岸子<br>ピアノ 加藤久美子                 |
| 7. ピアノ独奏   | 無言歌  |  | 長縄 栄子                                      |
| 8. バリトン独唱  | 荒城の月<br>「アイーダ」より<br>草競馬<br>ほととぎす                   | 滝 廉太郎<br>勝利の行進 ヴェルディ<br>フォスター                  | 伊莉 和弘<br>ピアノ 津坂 絢子                         |
| 9. 男声合唱    | たかね<br>バイカル湖のほとり<br>まことの愛<br>二人のてき弾兵               | マラン<br>ロシア民謡<br>ドイツ民謡<br>シューマン                 | 指揮 水野 恭佑<br>ピアノ 加藤久美子                      |
| 10. ピアノ独奏  | ザ・バタフライ<br>ロシア舞曲                                   | ラベル<br>チャイコフスキー                                | 白木 倭子                                      |
| 11. 混声合唱   | 海はこころ<br>うぐいす<br>アリラン<br>ボルガ下り<br>□れ<br>流浪の民       | メンデルスゾーン<br>朝鮮民謡<br>ロシア民謡<br>メンデルスゾーン<br>シューマン | 指揮 石原 治<br>ピアノ                             |

<注>当日は、定刻をやや過ぎて開演。尚6と7との間に30分間の休憩があった。

1967.4.20 (金)

# VOCALIZE

## No.62

AKCヴォーカライズ機関紙 編集 浅井幸三

### 歌ひとつ

―暗い心の夕ぐれに

立原 道造

そして 私は だれに  
 そのあと めぐりあつたのだらう？  
 やさしく私はよびかけ 答へるやうに  
 やわらかな瞳は私にささやいた  
 知つた いくつの おそれとをののきと  
 私はもうひとりではゐなかつた！  
 とほつて行つた たそがればかりの  
 とほい町々―私の心はうたつてゐた  
 来る日々の 夢とにほひと夜々とを  
 よろこびとかなしみとのしらべで……  
 時は しづかに ながれて過ぎた  
 そして 私は だれに  
 そのあと別れたのだらう？  
 なぐさめもなく あきらめもなく！  
 「立原道造詩集」より

### Vocalize <62号>

- ◇役員選挙告示と投票心得……………2
- ◇ニュース必読のこと……………4
- ◇CHORUS (会員近況) 二十人……………6
- ◇役員一年の反省三編……………10
- ◇会員ずいひつ二編……………12
- ◇浜名湖の旅報告記六編……………14
- ◇修学旅行記二編……………18

### 4・5月の演奏会

名古屋

- ◇クラシック◆ポピュラー■ステージ
- ◆ジョルジュ・エルメール シャンソン リサイタル  
6日 6:30 市公会堂 (友の会B)
- ◇東京芸術大学吹奏楽団演奏会  
7日 6:30, 8日 1:00 市公会堂 (労音B)
- ◆東京キューバンボーイズ演奏会 8日 4:00  
14日 6:30, 15日 1:00 市公会堂 (労音C)
- ◇一九六二年新人演奏会  
12日 6:00 文化講堂
- ◇コミタス弦楽四重奏団演奏会  
15日 5:00 市公会堂 (労音A)
- ◇水野与旨久 マリンバ演奏会  
20日 6:30 文化講堂
- ◇アムステルダム・コンセルト・ヘボール  
オーケストラ演奏会 21日 6:30 市公会堂
- ◇ノイエ・シュタット弦楽四重奏団演奏会  
23日 1:30 市公会堂
- ◇ローマ合奏団演奏会  
25日 6:30 市公会堂
- 下・ラバラー・ド・エーリー 舞踏団公演  
30日 6:30 文化講堂

- 5月
- ・芦野宏・中原美紗緒 1日・公 芸文
- ・ルティルデ・ベッシェ (ソフラン) 9日・公 労音B
- ・イブ・モンタン (ジャンソン) 14, 15日・公
- ・加藤恵美子・岩佐伝 (Sp Br) 18日・文
- ・植野豊子・安川加寿子 (VIP) 18日・公 労音A
- ・芹内澄子 (ピアン) 21日・公 労音A
- ・アルマ・コーガン (ヴォーカル) 24日・公 友の会B
- ・リリオ・リズム・エアーズ 26, 27日・公 労音C

昭和三十七年度 役員選挙

告 示

昭和三十七年度役員選挙を、つぎのとおり行ないます。所定の用紙、方法に従い必ずご投票ねがいます。

記

一、 選任委員 十一名 (名古屋九)

会 長 (一名)

副会長 (二名) 以上全体投票

委 員 (六名) ブロック投票

支部長 (二名) 支部投票

一、 投票方法

全会員名を記載した投票用紙(本号同封のはがき)に、つぎのように記入して、期日までに郵送してください。

・ 会長・副会長を全体から三名

○印を三人につけてください

・ 委員を自分のブロックから一名

△印を一人につけてください

一、 投票締切

四月二十九日(日)〓消印有効〓

以上

昭和三十七年四月二十日

AKCヴォーカライズ

役員選挙はこういうしくみ：

投票のまえに

：必ずお読みください

〔投票者の氏名を記入する必要はありません〕  
今年度は無記名投票になりましたので、投票用紙にあなたの氏名を記入する必要はありません。ただし集計の必要上、はがき裏面に期、ブロック、支部がしるしてありますが、これは投票者を判断するために用いるものではありません。投票の内容はもちろんもらしません。

〔名古屋地区の会員の方へ〕 表面の東京・大阪支部欄にはいっさい記入しないで下さい。裏面の名古屋地区欄から会長、副会長として三人、あなたの属するブロックから委員を一人選んでください。

〔東京・大阪地区の方へ〕 まず裏面の名古屋地区欄から会長、副会長として三人、ブロック委員一人(表面の支部欄と裏面のブロック指定欄にあなたの投票すべきブロックが記入してあります)を選んでください。そして支部長として表面のあなたの属する支部から一人に△印をつけてください。

〔会長・副会長の決め方〕 名古屋地区に住む会員から選ばれます。投票方法としては三人に○印をつけることになり、投票数の順に会長一名、副会長二名を決定します。

〔ブロック委員の決め方〕 やはり名古屋地区の会員から選ばれます。ブロック割りはずぎのとおりです。

ブロック (期)	名古屋〓会員計〓
名古屋 A (5・6・7期)	13人〓20人〓
名古屋 B (8・11期)	12人〓15人〓
名古屋 C (12期)	1人〓12人〓
名古屋 D (13期)	1人〓12人〓
名古屋 E (14期)	4人〓9人〓
名古屋 F (15期)	8名〓8人〓
計	54人〓76人〓

〓内は東京、大阪両地区会員を含めた人員です。つまり上段が被選挙人、下段は選挙人の数を示します。△印で投票してください。

〔支部長の決め方〕 これはいままで支部委員と呼んでいたものを、支部会員の増加によって支部長とするものです。東京、大阪地区の方が、それぞれの地区から一人を△印で選んでください。

東京地区 (関東在住者) 14人

大阪地区 (関西在住者) 8人

〔必要以上の○、△をつけないでください〕  
できるだけ、規定どおり四人〓東京、大阪支部会員は五人〓を選んでください。そのうち一部について棄権されるのはやむをえません。規定以上に欲ばって○、△を記入すると無効になりますから、ご注意ください。

〔任期は一年です〕 各役員の任期は一年で、再選は妨げません。また十六期以後で新会員がふえたときには、委員を増員することもあります。なお、原則として当選者の辞退は認められません。

いつも投票率は芳しくありません。  
今年度こそ一〇〇%となるよう、  
必ず投票してください。

AKC ヴォーカライズ 会員便覧 -1962.4.15-

期	氏名	地区	プロフィール	-会員・役員-						-CHORUS-						
				31	32	33	34	35	36	①	②	③	④	⑤		
5	浅井 幸三		50	◎◎◎◎◎◎◎								54	55	57	59	62
	加藤幽香子		40	・△△・								54	55	58		
	毛利 豊		49	・								55				
	若林 延昌		9	○ / / / / △								54	56	58		
	足立 孝子		44	・ / / /												
6	鈴木 寛			・ / / / /								○				
	世古伊都子			・ / / / /												62
	原 まき子	大		・								54				
	藤井 蓉子	大	33	・								54	56	58	59	62
	松沢 暢夫	大	38	・								54	56	57	59	62
	水野 俊彦		25	・												
	安田 良江		36	・ / / / /												
	安藤 陽子		39	・								○				
	佐々木比呂子			-												
	佐々 知子		53	・												
8	中尾 桂二	大	29	・								54				59
	船木 弥子	東		△												58
	溝上 崇子	東	41	・								54	56		59	62
	横山二三子		45	・												
	渡辺恵津子	東	49	-												○
	上前 佳子		11	・								54	56	58		
	永井 充		41	・								54	○	56	59	
	水野 令子		14	△								55	57			
9	石井よし子	東	13	・												
	上前昌三郎		32	・												62
	金谷 京子	東		-												
	竹内 英子			-												
	大川由美子			-												
10	大橋 佑子		50	・								54	55		59	
	千本木宣子		28	-								54				
	園部 靖子	東	59	-								54	56	58	59	62
	森 泉		60	-								55				
	森本 進		34	・								54	55	58	62	
11	佐藤 治江			-								○	○	59		
	渡辺 義彦	大	27	-								54	56		59	○
12	石黒 録子		56	-								54	55	58	59	62
	泉谷美紗子	大		-												
	加藤 厚子	東	57	-								56		59		
	加藤千鶴子			-												

期	氏名	地区	プロフィール	-会員・役員-						-CHORUS-							
				31	32	33	34	35	36	①	②	③	④	⑤			
12	神藤 敏子		25	-								○	○				
	小出 幸子	東		-								54			62		
	鈴木 茂	大	30	-								○	56	58	○	62	
	鈴木 道郎		26	-								○	54	55	58	59	62
	高橋 洋子		49	-								○				62	
	服部 修			-												54	
	安井 邦夫	大	24	-													
	横橋 貞雄		44	-													
	上田 勤			-													○
	岡嶋 孝	東	54	-								54		58			
13	川村 朋子		40	-								54	○		59		
	近藤 譲子			-								54					
	志水 照代		43	-								54		58	59	○	
	高橋 昭弘		54	-								54	55	57	59		
	野村 圭子		55	-													
	林 茂樹			-								54	55	58			
	藤野 絢子		56	-								54	55	58	59	62	
	増田 禮		30	-								54	55	58	62		
	水野 公子		26	-								54	55	57			
	安田 軍二		39	-								○	55	58	59	62	
14	朝日 裕昌		58	-								○					
	池谷 芳子	東		-												57	
	伊藤真知子		53	-												58	
	佐藤 征夫		51	-													
	谷 美保子	東	45	-								○	56	58	62		
	平山 葉子	東	48	-								54	57	62			
	二井真智子	東	47	-								54					
	矢野 公子		52	-												58	
	山崎満寿枝	東	46	-								54					
	15	足立 靖子			-												
磯貝 文江			58	-								54	55	58	59	62	
太田 岸子				-								54				62	
加藤久美子			51	-													
白木 倭子			56	-												○	
津坂 絢子				-													
内藤 毅			55	-													
宮部 杏子			-														

この表の見方は5ページを参照してください



この欄はAKC関係者  
みんなの近況を知らせ  
合うためのものです。だ  
れのことでも、どんなこ  
とでも、ぜひお知らせ下  
さい。

◇：都築健太郎先生（顧問） 学制改  
革によって旭丘高校が発足して以来、  
十三年半もの長きにわたって音楽科担  
当として、またAKC、ヴォーカライ  
ズにも尽力、指導を惜しまれなかつた  
都築先生は、四月一日付けで明和高校  
へ転任された。

◇：水野俊彦君（六） 四月一日付け  
で明和高校教諭として音楽科を担当す  
ることになった。（これまでは講師だっ  
たので、今回の県教委人事では「新任  
」として扱われている）これで旭丘の音  
楽科担当は師弟ともに明和へ同時に移  
ることになった。

◇：若林延昌君（五） 中学校教員と  
して社会へ出るはずだったところ、弟  
さんの不慮の死で家業「若林商会」に  
つかれる。幾度目かの思わぬ方向転換  
で、若林君は不遇な人だと、いまさら  
ながらに思われる。

◇：世古伊都子さん（六）は滝定を、  
また上前佳子さん（八）は稲葉地小学  
校を、それぞれ三月三十一日付けで退

職した。  
◇：AKC関係者の進学先はつぎのとおり。

岡嶋 孝（十三） 名古屋大学  
近藤 譲子（十三） 名古屋大学  
林 茂樹（十三） 名古屋大学  
池谷 芳子（十四） 東京女子大学  
伊藤真知子（十四） 愛知学芸大学  
谷 美保子（十四） 東京女子大学  
平山 葉子（十四） フェリス女学院  
二井真智子（十四） 杉野ドレメ  
矢野 公子（十四） 愛知県立女子大学  
余座 栄一（十二） 同志社大学  
伊藤 光子（十四） 名古屋市立短大  
鬼頭香糸子（十四） 名古屋市立大学  
三浦 静（十四） 名古屋市立短大  
◇：森本進君（十） 盲腸炎手術のため  
三月二十四日、守山市の鬼頭外科病院に  
入院、順調な経過をたどり四月二日に退  
院した。なお、四月一日付けの県教委人  
事で、守山西中学へ勤めることになった。  
◇：鈴木茂君（十二） このほど京都で  
の止宿先をつぎのとおり移った。  
京都市左京区上高野×××  
◇：横橋貞雄君（十二） 昨年一年間、  
ヴォーカライズから退いていたが、四月  
から会員として復会した。

◇：四月から東京の大学へ進む人たちの  
新しい住所はつぎのとおり。

池谷 芳子（十四）  
東京都杉並区×××  
谷 美保子（十四）  
東京都杉並区×××  
平山 葉子（十四）  
横浜市中区×××  
◇：電話開通  
磯貝 文江（十五） ×××  
◇：森下千秋先生（顧問） 都築先生の  
後任として四月一日より旭丘高校の音楽  
科を担当される。前任校は津島高校。  
◇：谷美保子さん（十四） 上京の途次、  
四月六日名古屋へ、二泊して八日朝東京  
へ立った。六日には谷さんを迎えて十四  
期の会が行なわれ、平山、池永、矢野、  
伊藤さんが集まった。  
◇：岡嶋孝君（十三） 大学進学を断念  
して、家業をつぐために専門学校へはいる  
が、六日夜岡嶋君を送る十三期のつどい  
が開かれ、安田、高橋、桜井、川村、志  
水さんが参加した。岡嶋君は七日朝上京  
した。  
尚、岡嶋君の住所はつぎのとおり。  
東京都杉並区×××

## 都築・森下先生を囲んで ヴォーカライズのつどい

A K Cヴォーカライズでは、明和高校戸転任された都築健太郎先生、新しく赴任された森下千秋先生の歓送迎会をつぎのとおり行なうことになりました。久々に会員集まり、両先生のお話を伺い、夕食をともにして、楽しい夕べにしたいと存じます。一人でも多くの方のご参会をお待ち申し上げます。

### 記

とき 昭和37年四月29日(日)

午後四時～七時

ところ 栄町の「プランタン」集会室  
かいひ 金五百円

れんらく 出・欠の連絡は、同封の

CHORUS用はがきで、四月26

日までにお知らせください

なお、三十七年度のヴォーカライズ総会は、この会で代行させていただきます。

昭和三十七年四月二十日

A K Cヴォーカライズ

◇：伊藤瑜美子さん(九) 旭丘二年中途で菊里高校音楽科に転校 東京芸術大学ピアノ科を卒業、名古屋音楽界へ帰った。四月七日昼のC K新人演奏会にはシヨパンの練習曲「こがらし」、同十二日夜の一九六二年新人演奏会ではリストの「メフイスト円舞曲第一番」を演奏、昔日の面影の残る力量感ある演奏ぶりだった。

◇：加藤幽香子さん(五) 出産予定も近づいた三月中旬に急性盲腸にかかり、手術することに踏み切った。退院後は実家で静養している。

今月は二枚のはがきを同封してあります。一枚は役員選挙用、もう一枚は会員名簿作成資料、CHORUS、上記都築先生送別会の出欠連絡その他を兼用する、いずれも重要なものです。発行日の関係から、締め切り日まで余裕がありませんので、折り返し至急ご送付ねがいます。なお、ごうで遅れても、はがきは必ずご返送ください。

【会費納入者】29号既報分以後計48名 若林延昌(五) 渡辺恵津子(七) 上前昌三郎、竹内栄子(九) 水野公子(十二) 磯貝文江(十五)

会計報告は次号(63号)紙上に掲載します。

## 編集部ただし書き

一九六一年度「会員便覧」の見方

イ(順序)各記ごと五十音順に配列、点線区切りは役員選挙ブロックを示す(実は記入なし)。  
ロ(地区)東は関東地区在住者、大は関西地区在住者、いずれも就学のためにその地にいる人を含んでいる。

ハ(プロフィール)掲載号のナンバーを記入してあるので、空白の人は未紹介。

ニ(会員・役員)・がその年の会員を示し、一は未加入、ノは休会あるいは退会していた。役員としては◎は会長、○は副会長、△委員ないし支部委員をあらわす。

ホ(CHORUS)年間五回のはがきが載っている号のナンバーを記入してある。すなわちコーラス欄の索引をかねている。○は紙上には出なかったが、はがきの返送されたことを示している。

## 私の好きな詩「歌ひと」

推薦者・浅井幸三(五)

20号でも書いたが、私の場合は、好きな詩というより、好きな詩人ということになる。もし詩をよみたいという気になったら、こういった詩人の詩集から…という意味でもある。八木重吉の前に、私とその影響を受けたのがこの立原道造である。私の過去の詩をよんだり、あるいは私の性格、私のすごした生活、心の歴史などを少しでも知っている人なら、私がなぜこの詩にひかれたのか、すぐわかってくれるだろう。

## CHORUS



3月11日～4月1日  
時間的なズレは  
ご了承下さい  
おおむね到着順による

溝上 崇子 (七)

ぐつとぐつと、ぬかみそくさくさくなって  
きました。四年ぶりでふとり出しまし  
た。でもまだ四年前とくらべると二kg  
余たりません。

受験生(中学の)お相手できたたびれ  
果て、何週間分歌まとめて眠ったら、  
それ以来毎日十時間くらい眠らないと  
調子が出なくなつて弱っています。で  
もその休養十分だったおかげか、主人  
も生徒たちもみな流感でしたけど、私  
だけ無事に助かりました。

鈴木 道郎 (十二)

・「夢のプラン」がどんどん「夢のプラ  
ン」化しています。免許はとれず、成  
績も思わしくなく、初恋の方もどうも  
…。

・三月三日から七日まで自動車で房総  
半島を一周しました。といつても旅行  
などというノンキなものではありません  
せん。ガソリン消費量だとか、走行距離、  
速度の計算、道路調査等、ラリーの訓

練と、車の応急修理法などを身につける  
ためです。時計と地図、メーター、計算  
器と取っくん忙しい五日間でした。

小出 幸子 (十二)

△近況▽ 二月十三日のテスト終りをもつ  
て休みになりました。十七日まで映画  
をみたり、女子のみのクラスコンパをし  
たり(このごろすっかり男子をポイコッ  
ト)。十七日(二十一日はこれもまた女子  
でスキーに出かけ、その後三月四日まで  
いろいろと。三月五日(八日は西宮市の  
知人宅に、昨九日やつとわが家に帰りま  
した。また明日(十一日) 上京、十六日  
ごろ帰り、月末に上京。四月五日(七日  
南伊豆で理大音楽部の合宿、その後太田  
へ帰るかもしれません。このごろほん  
とうによく動きます。まあ動けるうちに動  
いておくことにしています。

園部 靖子 (十)

△予定▽ 三月十六日午後二時卒業者名簿  
発表。もし名前が出てたとしたら：

二十二日 卒業礼拝

二十三日 卒業生のためのカンファレン  
ス

二十四日 十時半・卒業式

午後五時より帝国ホテルで祝会

名前がなければ：来年もまた学生でいら  
れます。めでたく卒業できたら、多分私  
も世にいうBGとやらになるでしょう。  
すべて十六日以後にきまるはなしです。  
ダントウ台にのぼるようです。

藤野 絢子 (十三)

ふと考えてみたら、ずいぶん長い間、  
コーラスをやっていないのです。のどが  
うずうずしてきて、またお仲間に入れて  
もらおうと思つたら、お休みしていらっ  
しやるとか。とても残念なことですネ。  
一日も早く再開して、楽しいグループに  
してください。

平山 葉子 (十四)

今度、いつのまにか？やつと卒業し、  
横浜のフェリスの音楽科を受験したとこ  
ろ、どうやら合格できました。これから  
はピアノの道に足を入れ、少し勉強らし  
い勉強をしたいと思っています。

増田 禮 (十三)

三月六日から十日まで河和(全忠寺ホステル)で県女大の合宿をしました。そこで旭丘音楽部の大先輩大橋ユウコさんに会い、思い出話に花を咲かせました。

三月十三日に学習院大の男声合唱団の名古屋公演に賛助出演しました。合宿での練習効果があつたかどうかは聴衆の皆さんの判断におまかせします。

ある人の批評、

「とてもきれいだつたワ」

「ホント！」

「みんなの顔がよ！」

合唱団にとつては、あまりうれしい批評とは言えませんワ！

藤井 容子 (六)

簡易託児所(オバアチャントコ)にベビイを預けて行こうや、とタクは言うんザマスけど…どうもネエ。残念しごくながら、今冬はスキーは戸棚で寝ています。

その代り、夏にはゼツタイ名古屋へ行かせていただきますヨと宣言してあります。

ヨロシク！

森本 進 (十)

〔御報告〕二月二十一日、二十三日の二日間、京都ですごしました。ボクは京都の町がたいへん好きで、ここに住んでる人がたいへんうらやましいのです。ある人にいわせるとメシがまずいのだそうですが、二日間に食べたメシは学校の食堂よりはましでした。だからあんまり文句はいりません。この二日間に行ったところは修学院離宮、御所、慈照寺、曼珠〔殊〕院、宇治の平等院、京都美術館ですが、フランス美術展はまったくおどろきました。(人の数に)美術の美の字も解さないボクですが、こんなにたくさんの人が見るのなら、きつとすばらしいのだろうと思いました。ただそれだけです。一緒にいったヤツラが複製品を買いますので、ボクも買わなきや悪いような気になって三枚買いました。満員電車の中を一生けんマイ持つて帰りましたけど、どこにもかざる気はなく、そのまま本箱のすみにおさまっています。損しちゃった。〔述懐?〕ヒマだとやたらに腹がへるとがわかりました。

〔喜ぶべきか悲しむべきかわからないこと〕ワルターの死。大指揮者の死はやっぱり残念ですけど、どうも死にませんとね、あまりレコードがたくさん出ないのですよ。きつとワルターの全集でも出す

んじやないかと思うとうれしいですけど、きつとお金がなくてこまるでしょうから、やっぱ悲しむことにするか。フルトベングラ、トスカニーニ、メンザルベルク、ワルターらのレコードがボカボカ出ても、悲しいかな、カタログを見てよるこぶよりほかはないのです。

磯貝 文江 (十五)

大いにのんびりしています。四月からは三年生になれそうなので、今のうちに遊んでおかないと一年間遊べないので。

なお、このコーラス欄をお借りして、永井さんにお礼を申し上げたいと思います。修学旅行中にすっかりお世話になりました。充さんを通してよろしくお伝え下さいませ。

世古伊都子 (六)

私も三月いっぱい、八年間勤めた滝定を退社することになりました。長い間勤めた古巣に後髪を引かれる思いですが、ヴォーカライズの皆様とのおつき合いはお別れではありませんので、勤めをやめても、心の糧となる会報がたのしみです。

石黒 鋒子(十二)

まず十五日までに投カンしなかつたことを正直に告白するとともに、すなおにあやまります。ごめんなさい。これにはいろいろとわけがありまして、つまり静かに筆をとるべく一刻の時間もないほど多忙(睡眠。食事。読書 etc.)で、今まよなかによつとそのひまを見つけた次第です。

さて何を書いていいのかわからず、こまっちゃつた。あまり私生活のことを公表しても申しわけないし、そうかといって学校はばかみたいに長々と春休みだし、まあつまりこんなようなことを書いておけばよろしいんでしょ？ 今はまじめになれつつあってできないんですよ。私の強調したいのは「表に書いたPRをよくおよみになって、ぜひ二つの演奏会にはおいでくださいね！」ってことです。オソマツ。

△編集部注「PR」については、発行期日の関係で掲載できなくなりました。

鈴木 茂(十二)  
心から愛せる人、愛してくれる人が、ほしくなりました。

松沢 暢夫(六)

いよいよ春です。春はうれしかったり、残念だったり。うれしいのはもちろん説明までもありません。残念なのはスキーがでなくなることも。もう今となってはずいぶん遠くまで行かなくてはなりませんから。

話は変わりますが、タンゴの歌詞を理解すべくスペイン語を勉強しようと思っ  
ています。といっても習いにいく時間は  
全くないので独学です。でもスペイン語  
はあまり一般的でなく、よい教材があり  
ません。どなたか教材のよいのを知って  
いられたら教えてください。

高橋 洋子(十二)

春休みも半分すぎてしまつて、といつてもまだ一月ぐらいありますが、十九日から二十四日まで混声の練習、二十六日から二十九日まで合宿で河和(知多半島)と、歌い通しの予定です。あまり、歌ばかり歌っていてバカになつてしまわないかと心配です。

太田 岸子(十五)

三月十一日から十四日まで修学旅行でした。私って修学旅行で雨に降られたことがないので。小学校、中学校、高等

学校、いずれも何班かに分かれていきま  
したが、私のいない班ではいつも降られ  
ているのです。旅行で雨に降られたくな  
い人は、私を連れていくといいですよ。

上前昌三郎(九)

プロフィール欄の記事を思い出しなが  
ら筆を進めています。AKCヴォーカライ  
ズの会合にはいつも出席する義理がたい  
ところがあるという。ごぶさたつづきの  
最近です。三月号における計画、館山寺  
へも行きたいと思いました。今までのご  
ぶさたをつぐなう意味でも。しかし四月  
二十四日は、学校勤めの私には日が悪す  
ぎました。次回からの会合には、数の上  
で一を占めることをご計画に加えてく  
ださい。

谷 美保子(十四)

いやないやな試験も終り、やつこのこ  
とで解放されました。三つ受けて二つお  
つこちて。でも一つだけなんとかすべり  
こんだからいいようなものです。これか  
らはやりたいことをやるだけやっちゃ  
うつもりです。



## 私の辞表

委員諸兄姉、会員の皆さんへ：

浅井 幸三

この一年間を省みて：私には、何もいうべきことはありません。黙っていても、わかってくれる人はわかっています、わかってしょうし、千万言を述べようと、わからない人にはわからないでしょうから……。だから、私は、この一年の不向きさについて、申しわけないとも、恥ずかしいとも思うけれど、弁解やわび言はいいたくないのです。もちろん、文句をいわれればすなおに受けます、批判もありがたくいただけきまず。でも、やはり、私はこれだけしかやれなかったし、やらなかったことは、とうてい打ち消すことのできない事実なのです。

私は、この紙上で、とくにこの一年いっしょに仕事をしてくれた委員の方：森本、鈴木道、水野公、神藤、高橋昭、伊藤、加藤久、そして永井の諸兄姉：にお礼とおわびをいいたいと思います。私は、あやまつたり、ありがとう、などというのは大きらいです。顔を合わせたら、きつとそんなことは口

にすることはできないでしょう。だからここに書きます。

私は、いままでの年よりはるかに多く、委員の皆さんに仕事を課し、その仕事ぶりを批判し、また委員としての自覚のなさを責めました。おとなげないことですから、やさしいと思い、バカにするなど腹を立てたときもあるでしょう。：悪かったなと思います。あなたたちが委員の仕事にすつかり熱意を失って、もし今度選ばれても、もうやりたくない、と思うであろうことも、私にはよくわかります。正直にいうと、私もいままで毎年そう思ってきたのです。私はこの一年、あなたたちに大きな望みをかけ、それゆえにいうだけのことはいわせてもらいました。

でも、やはりお礼をいうべきです。よく辛抱してやってきてくれたし、脱落せず、そして、ときには逆に私を引っ張りもしてくれたのですから……。

この一年間の私の至らなさで激しい口調を許してください。また、励まし、助けてくれたあなたたちに、委員の仲間同士としてでなく、友人として、心からありがとうと申し上げます。ひどくみじめだったこの一年だけに、私はこの好意をいつまでも忘れないでしょう。

会員の皆さんにお願いします。

三十七年度は、再選されても委員にならないという申し出を、私にされた委員もいます。それほどに委員の仕事はつらいし、きびしいのです。委員をして、孤独を感じない人はないでしょう。会員のみんなが、いったい、ほんとうに私たちとともに歩んでいてくれるのだろうか、だれもがそっぽを向いていて、文句だけをいうのじゃないだろうか……。そういう気持ちをぬぐえないのです。どうか、委員を助けて下さい。はがきは必ず出し、会費は早く納め、近況は知らせてほしいのです。つどいには何をおいても参加してください。月に一度、どこかで落ち合えるようになってほしいのです。：そうしてくれないと、たとえ、だれが委員になっても、また同じ破綻がきますし、ヴォーカライズは伸びないのみか、だんだんと衰退していくことでしょう。

どこへも辞表を出す先のない私ですから、ここで皆さんに向かって辞表を出させていただきます。「私をしばらく、ひとりにしてやってください。私は疲れ、そして気弱くなったのです。だから、みんなの後から歩かせてください。休ませてください」お願いします。



### 新婚旅行は逆コースを

鈴木 茂

○新婚旅行は逆コース、同性旅行はまともなコースをおすすめします…。まともなコース（交通公社推薦）を行くと、必ず同じ日程、コースを進むグループがあるものです。同じコースを進むうち、男性のグループと女性グループは仲よくなり、楽しく旅行をすごせます。新婚旅行にこのコースをとりますと、同じ人物と顔を合わせ、二人だけの旅行を十分に味わえない。逆コースをとれば、顔を合わせることもなく、ひやかされないでしょう。

○一等車にさえ席のないほどこんでいるときにすわる方法…。食堂車にかけ込んで最も時間のかかる料理を注文し、ゆつくりと時間をかけて食べるのです。食後は食堂車の入り口で食事の順序を待つかのように腰かけていけばよい。

○安く旅館に泊まる方法…。案内された部屋へ女中さんがやってきたら、夕食は外で食べてきたからいらぬとことわり、（無税となる）安いものを外で食べる。（五百円は違います）そして女中さんに別のチップ（百円でよい）

を与えて、サービスをおとされぬようにすればよい。四、五人でゆけば二千元は安くあがり、旅館もいやな顔をしないでしよう。

○こんなことを、九州旅行中に経験し、勉強しました。

### 忘れがちなしあわせ

藤野 絢子

道には、目に見えないものが落ちていく。それは「忘れがちなしあわせ」と呼んでもいい。たまの休日、歩いたり、立ちどまつたりする道ばたで、思いがけなく拾うしあわせ！木もれ日が「ほら！ここよ、ここにあるじゃないの」と教えてくれる。

この詩を、何かでよんだ記憶があるでしょう。たまらなく寂しくて、何かに強くすがりつきたくなって、「私の武蔵野」（そういうところをみつけたんです）をさまよったとき、私の拾ったしあわせは、孤独でした。

孤独のすばらしさ！すがりついたものは、「孤独」、そう、自分自身だったのです。

木もれ日が照らした、教えてくれたものは、そこにたたずむ私の影だったのです。孤独を親友にもった私は、毎日、とてもしあわせに暮らしています。

### プロフィール 36年度

#### 掲載者一覧表

：氏名・期・号・執筆者：

41	高橋 昭弘 (十五)	54号	△藤野V
42	岡嶋 孝 (十三)	54号	△藤野V
43	内藤 毅 (十五)	55号	△白木V
44	野村 圭子 (十三)	55号	△藤野V
45	白木 倭子 (十五)	56号	△内藤V
46	石黒 鋒子 (十二)	56号	△吉田V
47	加藤 厚子 (十二)	57号	△鈴木茂V
48	朝日 裕晶 (十四)	58号	△佐藤征V
49	磯貝 文江 (十五)	58号	△加藤久V
50	園部 靖子 (十)	59号	△森本・浅井V
51	森 泉 (十)	60号	△森本V

△注V写真は、いずれも永井充君が撮影、このところ、プロフィール掲載のペースが落ちていますが、来年度も継続する方針には変わりありません。

## 名古屋音楽界の話題

…S年四月版…

東京のオーケストラ騒動は

名古屋へもすぐ響く

§音楽協「トスカ」中止の背景§

音楽友の会四月A例会・歌劇「トスカ」が中止になった。すでに前売りしていたため、音楽協会は払い戻し事務にテンヤワンヤしていたが、その原因は自分でつくったようなものである。

四月十日に「読売日本交響楽団」が東京に生まれた。東京で七番目のオーケストラ結成の動きは、すでに前々からうわさされていたところで、母体になったのが読売新聞と日本テレビ、既成のオーケストラから引き抜きをやり、団員八十名のうち六十人近くがみなよそのオケから引っこ抜いたのだからあきれたものである。日本フィルから二十人、東響十二人、N響十人、東フィル七人、イムペリアルフィル八人というぐあい。このため、主要メンバーが抜かれたイムペリアルは三月末解散してしまった。「トスカ」のオケはイムペリアルだったから、必然的に中止になるわけである。

ところで、この読売日本オケの事務局長になったのが音楽協会事務局長の小林公氏（前日本フィル事務局長）、つまり、音協自身がイムペリアルをつぶして、例會を中止させた格好である。当然に音楽協会は新しい事務局長を決めることになるのだが、ともかく音楽協会はいま苦境にあるといえよう。

なお、音楽協会では九月に「トスカ」をやるといつている。もし実現すると、労音の予定している「トスカ」が十月だから、この秋は「トスカ」合戦になる。

東京のオーケストラは結局差し引きゼロで六つ。そのバックとなつている放送会社と名古屋の提携放送は

NHK交響楽団 NHKⅡ(NHK)

東京交響楽団 東京放送Ⅱ中部日本放送

日本フィルハーモニー

フジテレビⅡ東海テレビ

読売日本交響楽団

日本テレビⅡ名古屋テレビ

東京フィルハーモニー

(NHKと本数契約)

ABC交響楽団 (とくになし)

名古屋で大きくとなると

友の会 日本フィル、読売日本

労音 ABC、京都市、大阪フィル

の分布となり、東フィルはどちらにも出る。N響と東響は、NHK、CBCの主催以外は考えられず、日本フィルもこん

どの引き抜きでTHK一本(これまで春は友の会、秋はTHK)になる可能性もある。

§シャンソン歌手相次ぎ来演§

四月にユルメルを迎えた名古屋は、このところシャンソンの企画が目につく。まずことし初めての芸文例会(五月)に芦野宏、中原美紗緒があり、次いでイブ・モンタンが二日間の公演をする。(CBC側は赤字必至とみている) またイベット・ジローが六月に、芸文例会として公演をもつ。

ウイーン・コンツェルトハウス弦楽四重奏団の名古屋来演(六月八日)も決まった。こんどはクラリネットのルードリッヒ・フックスも加わり、クラリネット五重奏曲がきける。

§音楽とつながり深い映画のこと§

東京、大阪では一年前に上映されたバレエ映画「ロイヤル・バレエ」がやっと名古屋で見られる。(四月十八日〜二十七日・テアトル名古屋)フォンテンのバレエはぜひ見てほしいもので、すばらしい映画である。このあと同劇場では「ウエストサイド物語」の再映をする。



## 浜名湖の旅・報告記



率直に言つて、ガチャガチャと楽しい旅行でした。もちろん天気、行き先および行った人がよかつたから…。そしてその上宿賃が安くあがり…。など、全然期待していなかった私にとつてはまずはゴキゲンな春の一日でした。(K)

春の旅：と銘打った、ヴォーカライズ浜名湖の旅は、三月二十四、五日、参加者六人で行なつた。予想を裏切る参加者、出発までのいろいろいきさつなども、一歩名古屋を離れるとたんに元気になり、深夜のロマンス話、トランプ、宿の待遇？船に、歌に、そしてまた童心にかえつての遊び：などなど、けっこう騒いで、疲れて帰った。例によつて、以下はその報告記である。

川村 朋子 (十三)  
志水 照代 (十三)  
岡嶋 孝 (十三)  
安田 軍二 (十三)  
鈴木 茂 (十二)  
浅井 幸三 (五)

### ① 総論・穴埋め論

#### 委員ひとりじやくたびれる

あさい・こうぞう

ヴォーカライズのつどいも何度かやつたが、実行までにこんな気を使わせられたのは初めてだ。まず、鳥羽へ行くはずだったのが急に浜名湖になったのはともかく、宿が一週間前にだめとわかり、あわてて中日の組織？にものをいわせて代わりを捜したり、委員がバタバタ落ちて結局ぼくひとりになったり：文句を言い出せばキリがないくらい、あれこれ思い惑わされた。ついには、ある委員が「そんな思いまでして、意地で行くの？」と言つたので、「あたりまえだ。意地でも何でも決めた以上やる」と、カゼ気味で体調も悪ければ、仕事も残っている悪条件をおしてとび出していった。

行く気になつたのはいいけど、計画を立てた連中が一人もいないのだから、すべて行きあたりばつたり。弁天島では何をし、館山寺ではどうして遊ぶか、そんなことは、たつた一人委員会から加わつたぼくにもさっぱり見当がついていないのだからひどい。宿屋は愉快だった。まず入り口でいき

なり主人にきかれた。「学生さん並みの待遇でいいのですね」おりもおり、静大の入試があつて、受験生は安く泊める協定になつているという。中日浜松支局に「学生もいるから安い旅館を頼む」と言つておいたのが、いつの間にやら受験生にされてしまったらしい。あとでそれと気づいた旅館側ではひどくコボしていた。「ぎりぎりいっぱいやっているのですから」と女中さんも、帰るまで言つていた。二食付きで七百二十円ナリ：これが千五百円の部屋に通されての料金なのだから、当方は文句もいえない。しかもドテラを請求したら「学生さんはなしです」の返事にニヤリとなつた。四月一日以降は入湯料二十円がいるようになるという温泉（だそうな）につかつたのは、鈴木君とぼくだけ。一番先に入れてくれて、実にいい気持だった。若い人は、あまり温泉を好まないらしい(?)

浜名湖の船上で、コーラスならぬゴラスをやっているよと、前に立っていた名古屋から来たらしい若い女性たちが、あきれた顔つきでながめていた。あまりうまかつたからかな。

：さて、これから順を追つて話を進めることにしましょう。

## ② 一日目昼

名鉄  
新型特急と国鉄のんびり普通列車

おかしま・たかし

土曜日の午後で、名鉄電車の改札口はかなり混雑していた。柱のところまで皆集まって、もうほかにだれか来ないかとあたりをキョロキョロ見回したり、おしゃべりしたり。集まりがあまりよくなかったが、三時の豊橋行き特急に乗り込んだときには総勢六人。この特急、きれいな新型の電車で、パノラマカーとかいうのだそうだ。振動がほとんどなくて速いし、いい感じだ。家にいればさほど出たいとも思わないものを、こうして出ると、やはりそのうれしさはまた格別。旅行とは不思議な魅力を持ったものである。朝から曇っていた天気が午後になってから晴れてきて、うららかな春の日差しに遠くの間々が照り映え、多少こんでいる車内は暑く感じられるくらいだった。前の小さい子供がその横のおじさんとたわいもない問答をしていたが、知らず知らずそれに聞き入ってしまった。一度目は昔、小学校のころで、今はその

ときのことは、はつきりと覚えていない。豊橋で降りて国鉄の普通列車に乗り換えるのだが、待ち合わせの時間が相当あって、中の清掃が済むまでプラットホームに並んで待っていたが、普通列車は実のんびりしていて、その上にこまぬいからよい。急がないならこれで旅行するのもよいと思う。途中の駅で準急と急行にぬかされた。弁天島の駅に着いたときは日もだいぶん西に傾き始めたところで、海からの風が寒く感じられた。

## ③ 一日目夕

## ロマンチックな夜

かわむら・ともこ

玄関に椿と雪柳が美しくいけてあるとても古風な「いせや旅館」に着いたのはもう夕暮れ。窓をあければ：海のおいがプーン。そして夕方の海が静かにゆっくり変わりゆく。思わず大声で何か叫びたくなる気持ネ。ウラヤマシイデショ。にぶい私でさえも、灯台のひかりを見てたら旅の感がして、胸がキューンとなった：とは大げさな話。夕食はやはり海のごちそうと、六人の中で一番早くお生

まれになった方のふところから出たビールがおいしかったようです。でも二人のお兄様方は「子供相手じゃ飲んだ気がしない」って顔つきをしてたつけ。安田君、たしか三戒とかいってたのに、白い煙をはくようになったらしい。アアもう一年たったかなと、十三期生しみじみと思いました。一番よく食べたのは（言われる前にイットコ）私、一番小食なのは岡嶋君でした。

それからは夜風に吹かれて浜辺を散歩。カゼ気味で、すっかりガストーブと仲よしになった浅井さん一人を残して不気味なほどまっ暗な空と海、でもかすかに星が輝き、波がキラキラ光ってたつけ。われらの歩く砂浜と波の音だけの静かな夜、ときどき身を刺すような冷たい風が、オヤセさんにも、オイラのからだにも、公平に吹きぬける。校歌を例によつて歌いました。いつ、どこで歌ってもいいものネ。何しろとてもロマンチックな夜だった。きつとだれもが「こんな夜に恋人と歩いてみたいナア」なんて思ってたことでしょうね。やっぱ海はいいなあ…。

若いものだけを散歩に出してやる先輩の思いやり？ もつべきものはよき恋人、よき友、よき先輩です

④ 一日目夜

トランプと恋愛論と：

すずき・しげる

浜から戻ると、部屋にのこっていたA氏からさっそくお菓子の要求。六人はテーブルを囲んで、お菓子を口に、雑談を始める。二嬢が夜の海辺のすばらしさをA氏に伝えると、A氏は「若い者にはかなわない」と老人くさいことを言うので、笑いの渦が起きる。

やがて、おしゃべりに、お菓子に動きつづけていた口も静まり、ナポレオンゲームが始まった。トランプに強いといわれるA氏が神通力をなくして、不調を続ける間に、S君とT代さんのナポレオン、副官のペアが偶然にできあがって好調。連合軍を打破して快進撃を続けるが、連合軍の壁は厚く、にわかにはペアは敗退。歴史は繰り返された(?)

弁天島まで来て眠るのは惜しいと張り切った六人ではあったが、十二時近くになったころ、カゼ気味のO君がダウンしてフトンに入る。O君の休憩を機に、T代さんがオノロケ話をしようと、T代さんと小さな声で耳打ちする

のにつられて、S君が話し始めた。突然眠っていたはずのO君がフトンの中から大きな声でY君に話しかけたので、一同びっくりする。続いてA氏が何度目かの初恋論を語り出し、閉じかけていたまぶたが開き、緊張して聞き入った。しかし二嬢からは、参考になりましたと、上手に逃げられ、何も聞くことはできなかつた。

翌朝、お若い十三期の四人は、速く起きて海へとび出していった。としよりは寝ていると思つて…。

⑤ 二日目船

すばらしかった朝の海

しみず・てるよ

エメラルド色の海、きらきらとダイヤモンド(デパートのウインドーの中のそれ)よりも美しく輝く海、水しぶきをあげて雄々しくうちよせる波：昨夜の海とはがらりとかわった海：海はこの世の母、すべてを包み、やさしく、そして雄々しく。海はなんてすばらしいんでしよう！！ それに真つ白にひろく続く砂浜

(Y氏の談によると鳥取の砂丘の孫くらゐ)、そしてそのむこうに生き生きと伸びる松、これ以上澄むことができないと思えるような青い空、私たちを喜ばせる材料はそろいました。春の海に来て、これ以上の幸福はないほどでした。(宿でグーグースーのオニイサマ方にはオキノドクに思いましたが…)昨夜の疲れも心の中のムシヤクシヤ(人生はなぜこんなに障害が多いんでしょう!)も、みな吹き飛ばしてしまいかした。子供心にかえり貝がらをひろつたり、波とたわむれたり、ちよつとロマンチックになつたりして浜辺を歩きました。

時間が少なかったため海と別れ、町を少しブラツキ宿につくと待望の朝食！朝御飯がこれほどおいしいと思つたことはありません。みなパクパクムシヤムシヤ(これが言いたかつたんじやありませんよ!)「早起きは三文の得、オソ起きは五文の得」などと言わないで、あすからは早起しようと言心に誓いましたが、どうなることやら…。

鷺津から船で湖上をめぐり館山寺へ着いた。昼食は某食堂で…。Kさんはひとりごちそう？を注文したので、なかなかこない。たまりかねてYくんがボニーに早変わり。ここでもコック長の本領をみせた。

## ⑥ 二日目昼

## 暇つぶしだった館山寺

やすだ・ぐんじ

昼食をすませ、館山寺遊園地の正面入り口にきた。これからどうやって時間をつぶそうか、相談ということになった。ほかにどこも行くところもないので、二十円出して遊園地へ入った。全く何の変ったところもない遊園地で、子供の遊び道具だったラデパートの屋上へでも行った方がよほど気がきいていけるような気がする。少しおもしろくないと、変なもので何でもつまらなくなる。八十円ナリを出して、大草山の展望台までロープウェイで行く気もさらさらない。浜名湖の展望は、別に展望台でしかできぬわけでもなからう。ただし一つだけ気に入った乗り物があった。大観覧車という名前がついていたが、よく見る、大きな輪に人の乗る箱がたくさんついていて、それがゆっくりと回っているやつだ。このめまぐるしい世の中にこれほどのんびりしたところがあることを知って急にうれしくなり、断然乗り気になってしまった。もちろん大人も小人も十円であるのも

気に入った。しきりにあとの五人を誘惑したが、女性の方はいつこうに関心がなげいらしく、男性四人で乗ることになった。女性二人が「みんなかわいらしいネ」なんて悪口をたたいていたが、やっぱり男の子(?)の方が無邪気なんでしょう。だんだん上へ登ってくると、下で見ているとき思ったほどのんびりしたものではないことがわかってきた。真上と真下が見えないので、自分たちだけが宙に浮いているような感じだ。ついにO君が言ったつけ、「だいがこわいな」と。

それからヒマつぶしにボートに乗ることにした。三人ずつ二艘に乗った。ところから、ヤマハプラスチックのボートだ。真ん中が幅広くなっているの、O君と二人で一方ずつのオールをむちゃくちゃにこねまわしていたら、後にいたSさんに水をかけてしまい、ただでさえむっつりしていたのに、いっそうごきげんが斜めになってしまった。弁天島ではたいへん楽しかったけれども、館山寺にはヒマをつぶしに来たのかと思うと、バカらしくなってしまう。三時ごろ帰ることにして、館山寺からバスで浜松へ行き、普通列車で豊橋まで行って、五時二分発の名鉄特急で六時ごろ名古屋へ帰着したが、ずっと立ちんぼう。そのあと、駅前のお茶店で旅行報告の分

担を決めて解散した。

僕の分担は一番つまらなかつたところなので、いやな点ばかり目についてしまった。けれども、期待が大きすぎたことを考えれば、まずまずの旅だったのだらう。人数が少なかつたのは何としても残念だった。大ぜいだったなら、きつとずっと楽しかつたらうに。

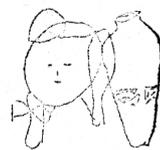
Hamanako の Tabi  
こぼれ話

◇…この旅行のプランに一生懸命だった森本副会長は、出発の前日に盲腸の手術を言い渡されてガツカリ。「行くんだ、行くんだ」とダダッ子ぶりを發揮して、お母さんをしてこずらせたが、「旅先でみんなの迷惑になるから」とさとされて、シュンとなり、病院行きに方向転換、くやしがることしきり。

◇…「ユックリ一周する乗りもの」に乗った四人の紳士は、この旅行中で一番うれしそうな顔をしていた…とは女性側の観察。「この顔をヴォーカライズのみんなに見せられないのが残念。ほんとにかわいらしかったのに…」。カメラは持つてくるものネ」と川村さんは慨嘆していた。

◇…志水さんと同じ会社の若き女性も館山寺へ来るといつていたから、もし会ったら紹介してあげるといわれて喜んでいた男性組、運よく会ったら数人のボーイフレンドに囲まれて女王様然としているので、「チェッ、あのくらの人なら紹介してもらわなくても…」

## 修学旅行記



加藤久美子

私達が鷺羽山についたのは夕方だった。バスから降りると、まだ少し冷たい風がほおや手足に気持ちよい感触を与えている。その中を私たちは海の見える方にかけてした。

濃紺色の海は、まっ赤な夕日を浮かべ、ま緑の松影を深く深く沈めている。ほどよい間隔をもって漂っている島々は、あたかも夢の世界をさまよい歩いているようだ。島々におおいかぶさっている夕焼けの中へ、一羽のまっ黒なからすが飛びこんできたとき、私はハッとわれに返ったような気がした。まもなくバスに乗り込んで、鷺羽山のホテルへと向った。太陽がまっ赤に燃えて山へ沈もうとした時、だれかが感激してトンキョウな声をはりあげた。「オオわが太陽!」「オオソレミオ」

一口にあって、鷺羽山ほど詩情にあふれたすばらしいところはないと思っただ。特に夕景がすばらしい。

## 二日目

私たちは琴平へ行った。私のイメージとはまるで異なっていたので、すごく興奮した感じだった。きたない町・感じの悪い店・ずうずうしいおばさま・おまけに赤線地帯まであつて、夜散歩することすら許されなかった。旅館のサービスも一番悪い。狭い部屋に押しこまれて、あやしげな光沢のあるハムを食べさせられた夕食。敷きぶとんはまっ黒でカビまではえている。かけぶとんはたくさんなかった。カゼをひいた人も出てくる始末。こんなに悪口を書いたら金毘羅様にさぞおこられるだろうと思っただけ、真実だからいたしかたない。「金毘羅様、ごめんなさいね」

## 三日目

多度津から広島まで七時間余り、私たちのクラスは、三等船室の窓一つないところに押し込められてしまった。小さな電球が一つついていてだけ。床はすごくゆれて、立つて歩くこともできないほど。大部分の人は赤いジュウタンのしきつめられた船底にざこ寝。それでも呑気な私たち数人は甲板に出て合唱した。はじめのうちはどうにもきける合唱だったが、三時間、四時間たつと、いともあわれな悲鳴にしか聞こえない。ちようどそ

のところ、船室から景気のいいマーチが流れてきた。皆はそれに負けないように、ますます出ない声をヒューヒューはりあげてどなりだした。私は聞くにたえなかつたので、船室に帰って、ひとしきり人生論（これは少し大げさかな）について話し合った。

広島に着いて、広島を見学して再び港へ着いたときは、すでに日は沈みかけていた。その港にいた一隻の船に新婚さんがいるのを大野先生が発見した。私たちがじろじろ見たりカメラを向けたりするので、花嫁さんは船が発するやいなや、見送りの人もそつちのけで、船の中へ消えてしまった。

広島へ向う船に乗って少したつと、日はすっかり暮れてしまった。暗い海や島を甲板からボンヤリとながめていたら、ひどい孤独感におそわれて、なんともいえない気持になった。雄大な海に比較した人間の小ささ、命の短さ、そんなことを考えていたら、生きるのがすごくつまらなくて、死んでしまいたい気がした。私はいつのまにか涙ぐんでしまった。そこへ西依さんが来たので、二人で合唱をした。どんなにへんな声を出しても、すぐやみにのまれてしまうので平気だった。広島へついたとき、まっ暗だったので何もわからなかったが、ポツカリ



AKCヴォーカライズ・機関紙 **Vocalize** 1961年度・索引

……発行状況・シリーズもの……

号数	発行日	ページ	編集	CHORUS	プロフィール	[インタビュー]	みんなの歌
第54号	36年5月25日(木)16P		浅井・伊藤	33人	高橋昭弘・岡嶋 孝		
第55号	6月15日(木)12P		森本・水野	17人	内藤 毅・野村圭子	[足立孝子]	アデュー
第56号	7月15日(土)12P		鈴木・高橋	9人	白木倭子・石黒鋒子	[川村志水藤野]	アルディラ
第57号	8月10日(木)10P		浅井	8人	加藤厚子	[加藤幽香子]	忘れな草
第58号	9月20日(水)16P		浅井	20人	朝日裕晶・磯貝文江	[永井 充]	幌馬車
第59号	37年2月10日(土)12P		浅井	20人	園部靖子		街角で
第60号	3月25日(木) 8P		浅井・森本		森 泉		早 春
第61号	4月 日 16P		浅井・鈴木		<AKC発表会・会員ずいひつ特集>		
第62号	4月20日(金)20P		浅井	20人	<1961年度反省号>		

署名原稿その他主要記事一覧

私の好きな詩・巻頭詩	日の暮れ (高橋昭弘)	54号
古径 (水野合子)	55号	
潮音 (加藤厚子)	56号	
愛について (神藤敏子)	57号	
初恋 (加藤久美子)	58号	
上を向いて歩こう (志水照代)	59号	
田螺どん田螺どん (編集部)	60号	
母のうた (鈴木道郎)	61号	
歌ひとつ (浅井幸三)	62号	
会員アンケート		
61年度を思う	31人	54号
物価高騰の影響	7人	56号
夏を克服する法	5人	57号
62年夢のプラン	17人	59号
61年三大ニュース	10人	59号
休刊をめぐって	8人	59号
[合唱団に参加して]	藤野絢子	54号
[仲良くしよう]	浅井幸三	54号
[真昼の随想]	浅井幸三	57号
[編集者の意見]	浅井幸三	58号
[白樺湖キャンプ報告]		58号
・そのテンマツ	森本 進	
・寝る子は育つ	永井 充	
・コック長の弁	安田軍二	
・七人の侍	浅井幸三	
・意義があつた	高橋昭弘	
休刊をめぐって	浅井幸三	59号
[「十四期生におくる」]	浅井幸三	60号
名古屋の音楽界	……	60号
[AKC発表会特集]		61号
・台本・人・演出	福田常彦	
・文化祭の思い出	内藤 毅	
・オペラについて	鈴木道郎	
・発表会をきいて	高橋昭弘	
[いとぎき]	園部靖子	61号
[ボクと本]	森本 進	61号
[佐久島のこと]	高橋昭弘	61号
[音楽と想い出]	中尾桂二	61号
[ワンワン談義]	渡辺義彦	61号
[大根役者廃業]	浅井幸三	61号
[62年度を反省して]		62号
・私の辞表	浅井幸三	
・雑 感	鈴木道郎	
・イヤ〜な気持	森本 進	
[浜名湖の旅報告]		62号
・委員一人じゃ	浅井幸三	
・名鉄と国鉄	岡嶋 孝	
・ロマンチックな夜	川村朋子	
・トランプと恋愛論	鈴木 茂	
・すばらしかった朝の海	志水照代	
・暇つぶしだった館山寺	安田軍二	
[修学旅行の記]	加藤久美子	62号
[「同」]	磯貝 文江	62号
[新婚旅行は逆コースを]	鈴木 茂	62号
[忘れがちなしあわせ]	藤野絢子	62号
名古屋音楽界の話題	……	62号

つ ど い	1. みんなのつどい	36年4月15日	旭丘高校音楽室	参加者18名(卒16,在2)
	2. 東京地区のつどい	5月14日	玉川園せせらぎ亭	6名(卒6,在0)
	3. 宇賀溪ハイキング	6月18日	宇賀溪	10名(卒8,在2)
	4. 白樺湖の旅(二泊)	8月12日~15日	白樺湖泊	7名(卒7,在0)
	5. 浜名湖の旅(一泊)	37年3月24日~25日	弁天島泊	6名(卒6,在0)

1962 5 10 (木)

# VOCALIZE

No 63

AKCヴォーカライズ機関紙 発行責任者 森本 進

## 回想

ヘルマンIIヘッセ

斜面にエーリカが咲いている。  
エニシダが茶色のほおきのように  
見つめている。

五月の森がどんなに軟い緑だったか、  
今日まだ だれが覚えていよう？

どんなにツグミの歌と

カッコウの叫びがひびいたか、  
今日まだだれが覚えていよう？

あんなに魅惑的にひびいたものが  
もう忘れられ、歌いつくされた。

森の中の夏の夕べの祭り、

かなたの山の上の満月、

だれがそれを書きとめ

記憶にとどめているか。

何もかも

もう散りぢりになってしまった。

間もなく君のことも、ぼくのことも

知る人も語る人もなくなるだろう。

ここには他の人々が住み

私たちは

だれにも惜しまれないだろう  
私たちはよい明星と  
初霧を待とう。

神さまのしろしめす広い庭で

私たちは喜んで咲き、しばもう。

Rückgedenken

(高橋健二 訳)

### Vocalize 63号目次

なつかしきたぬ公……………2

―旭丘を去られる都築先生―

都築・森下両先生の歓送迎会のこと

都築先生に寄せる会員のことば

コーラス……………6

―四月下旬～五月上旬

イヤイヤながら

会長に就任するの弁……………11

(もりもとすすむ)

ずいそう

長池のボウフラ……………12

(もりもとすすむ)

編集部ただし書……………5

―今月の詩―

―記念写真の失敗と特別プロフィールの中止

について―

インベンション……………14

―編集後記―

「今月の音楽会」「ニュース」「プロフィール」

「インタビュー」はいずれも休載

## 旭丘を去られる都築先生

## なつかしきたぬ公

ながらく旭丘で教鞭をとってこられた都築先生が、この四月から明和高校にかわられたことはみなさんすでに御存知のとおりです。先生と共にあゆんできた私達としては大変残念なことです。明和へかわられても私達とのつながりがきえるわけではありません。先生の今後の御活躍をみんなでのりましよう。

都築先生の送別会と森下千秋先生の歓迎会は四月二十九日栄町プラントンの集会室で行なわれました。当日は旭丘の同窓会とかさなりましたが二十五名が出席、両先生をかこんで話はずみ、和気あいあいのうちに無事会を終ることができました。当日出席した人は次のとおりです。

加藤清、浅井幸三、毛利豊、永井充、安藤允子、森泉、森本進、千本木宣子、鈴木道郎、横橋貞雄、神藤敏子、加藤千鶴子、安田軍二、川村朋子、志水照代、藤野絢子、水野公子、桜井茂徳、内藤毅、足立靖子、磯貝文江、太田岸子、加藤久美子、白木倭子、宮部杏子

例によって(?)主催者側にヘマが多く、会の進行にかなり円滑さをかき、おまけに集まった連中にオメデタイのが多くて会の主旨がどこにあるのかわからないような具合になりましたが、それはそれでけっこう楽しく、一人一人が都築先生の想い出をかたったり、森下先生に注文を出したり、寄せられたハガキを注だりしてにぎやかなひとときでした。都築先生は一人一人のことばや、ハガキがよまれる度にうなづいたり、にが笑いをしたりされていましたが、やはりどことなくさみしそうな感じがしました。

一方の森下先生については卒業生はほとんど知らないために、森下千秋という名前からこれはきつと若く美しい先生にちがいないと想像した人までいました。実際にはかなり想像とかけはなれ、ベテランの男性でありました。ヴォーカライズのもかなりの関心をよせられ、今後は私達のためにいろいろ御尽力いただくこととなります。どうぞよろしく。

当日出席された方にはすでに御紹介済であります。回収されたハガキに書いて

てありました都築先生についての思い出、先生におくることばを次に書きましよう。順序はでたらめです。

(五) 毛利 豊

○ 腹鼓の音 ますますさえんことを祈る。

(五) 浅井 幸三

○ AKCのシンボル(飾りもの)がなくなるのはさみしいものです。お得意の釣りの話、碁の話、器楽室や音楽室、講堂(体育館)のことなど先生の自慢話になつかしい。ぼくはいたってできの悪い教え子で、音楽的には何もお返しできませんでしたが、三年のとき聴講生のぼくの通知表に「5」をつけて下さった恩誼はいまだに忘れません。(もっともほかの生徒からは文句をいわれました)おかげでぼくはみんなより二単位多くとって卒業しましたつけ。

(五) 若林 延昌

○ 先生!明和高校での御活躍を期待しています。

○ 落ちつきましたら、一度あそびに行ってもいいですか?

(六) 原 まき子  
○ 先生の楽しかった時間を折にふれて思い出します。高校時代の思い出とともに…

(七) 溝上 崇子  
○ ある日めずらしく練習に顔を出された先生が、いつの間にか居眠りをお始めになりました。そこでみんなで「ショーショーショジョジョ」を歌いました。どうもすみませんでした。

(七) 横山 二三子  
○ 今までお世話になるばかりでなにもできませんでしたが、これからよろしく。

○ どうぞ御身体を御大切に、いつまでも御元気で。

(八) 安藤 允子  
○ 私が音楽に喜びを見い出すときはいつでも先生の思い出がこころによりがえってきます。どうぞいつまでも御元気で「つり」と「歌」の先生であられます様に。

(九) 金谷 京子  
○ 先生には姉弟二人でお世話になりました。その弟も今は一橋大学生です。今後も御元気で御活躍下さい。

(九) 竹内 栄子  
○ 発声練習の時高い音になり生徒が声を出さなくなると、「こんな音はなんでもないよ」とおっしゃってピアノに向かって大きなお口で歌って下さいました、苦しげに…。そんな顔をみるのが楽しみでした。

○ いつまでも御元気で音楽を愛する人達のため御活躍下さいませ。

(十一) 渡辺 義彦  
○ いまだ尚かつ、タヌキ先生がこわい。物の分った人の目はこわい。

(十一) 佐藤 治江  
○ 一年生の頃、先生に教えていただいたピアノが、その後どんなに私の生活を明るくしてくれたことでしょう。当時は別に有難いとも思わず、先生が宿直室で碁をさしていられるのをごくあたりまえの顔をしてブーブーいったものでしたが、あの音楽室が本当になつかしく思い出されます。

(十二) 鈴木 茂  
○ 都築先生リタヌキ 先生の思い出は非常に多いのですがタヌキなる愛称がままらさきに思い浮かびます。古ダヌキにならないように健康で若々しくあって下さい。

(十二) 神藤 敏子  
○ はじめてのピアノレッスンの時大声でどなられました。とてもこわくてしばらくの間ビクビクしていました。

○ 今後もいままでと同じようにお願いいたします。

(十三) 水野 公子  
○ 先生には大変お世話になりました。先生にはだめだといわれながらもやっとながら目的が達せられ、今では私のようなものでもソプラノのパートリーダーをするようになりました。できるだけの力を発揮したいと思っています。先生いつまでもお元気で。

(十四) 大島 修  
○ 旭丘と共にすごされた先生を旭丘から失うことは大変残念です。いつまでも御元気で活躍されんことを御祈りします。

(十四) 池谷 芳子  
○ 又もや旭の先生でなければならぬ先生が明和につれていかれるなんて…憤がいしています。いつまでも旭丘へ遊びに来て(行つて?) 下さい。とにかく残念至極です。

(十四) 谷 美保子  
○ 母と子二代にわたっておしえていただいて本当にありがとうございました。旭の音楽の時間のたのしさは忘れません。母も兄もよろしくと申しております。

(十五) 磯貝 文江  
○ 私が旭丘に入って最初に見たのが都築先生でした。あれが音楽の先生と聞き、あだ名がタヌキであるときいて最初からばかされたようです。でもどこかきびしくて、それでいてやさしさのこもった先生という印象です。できることならズット旭丘にいてもらいたかった。先生がズットヴォーカライズの顧問をしていただけならいいな！

(十五) 太田 岸子  
○ 二年間のピアノレッスンどうもありがとうございました。時々旭丘もどうぞいて下さい。いつまでも御元気で。

(十五) 加藤久美子  
○ ある女生徒いわく、「目をキュッとほそめて、ニッと笑った顔。とってもかわいいわ。ほんとにタヌキに似てるわね」

(十) 森本 進  
○ ぼくは高校一年の時、入学と同時に音楽部に入るつもりだったのですが、先輩連のいうところによれば、あそこは女生徒ばかりしかいないとのこと。それでは中学と同じでおもしろくないからやめたとあきらめて、おもしろい顔をしたナシコイ(小さな)先生のみえる音楽の授業を受けるだけでしたが、そのころが六月頃だったと思います。先生として加藤清さん(四)がみえた頃、都築先生は音楽部の宣伝を始められました。男子が少なくてこまっているから、やりたい人があつたら申し出るようにとのこと。そこで授業が終わってから先生のところへ出かけておうかがいをたてました。  
「先生、音楽部って女子ばかりだったって聞いてたんですけど、男子っているんですか」

「いますよ。そうだなあ、たしかなところ七、八人はいるんじゃないかな。でもたりないことはたりないんだ」  
こうしてぼくと森泉君(十)は加藤清さんに紹介され、音楽部へ入ったのです。八人もいるんだつたらぼく達が入れば十人になる、これならそれほどまずくもあるまいと思っただけです。ところが事実

小説よりも奇なりかどうか知りませんが、いくら毎日気をつけてキョロキョロみまわしても七人も八人もの侍はおりません。よくよくしらべてみたら、二年と三年に一人づついるだけでした、七、八人というのはちつともたしかな数字ではありませんでした。その時につくづく思いました。「なる程タヌキとはうまくつけやがった。あれや顔だけじゃないや、もつと用心すればよかった」と。これは都築先生のニツクネームに感心したお話です。

○：またある時、ぼくが用事で職員室にいくと先生方が商人の持つてきたジャンバーをかこんでワイワイいつてみえました。のぞいてみるとわが親愛なる都築先生は、例の動物の毛なみそつくりの色をしたジャンバーをかかえてご満悦です。その時ある先生がおっしゃいました。「都築先生は御自分で立派なのを一枚身につけておられるのに、まだ一枚いりませんか」  
その時の続き先生の何ともいえない楽しそうな顔と、笑い声、いまでもぼくははつきりと思いつて出すことができます。自分につけられたニツクネームをほんとに喜んでたのしんでいられるようで、ぼくは少なからず感心したのです。

### ☆記念写真の失敗と プロフィールの中止について

今回の送別会では記念撮影をおこないましたが、係の不幸で写っておりませんでした。参加者全員がせまいプラントンの集会室の片すみにならび、あれこれと注文をつけてウェイトレスにシャッターをきってもらったまではよかったです。なんとフィルムがまわっておらず、フィルムのないところで写したという珍事で、せっかくの写真はオジャンとなりました。幸い永井充君（八）がろくろく飲み食いもせず写してまわったスナップ写真がありますので、それで代行することになりました。なお当日の会費にはこの記念写真代が含まれておりますので、係で協議しました結果、これは一応おかしらさせていただきます。ただしこれをいちいちおかしすることは事務的にめんどろでありますので、今年度分の会費の一部とさせていただきますので御諒承下さい。詳細は次号でお知らせします。

また今月は都築先生と森下先生のプロフィールを予定しておりましたが、依頼しました原稿がどうにも編集部が集まらず、やむをえず中止ということに

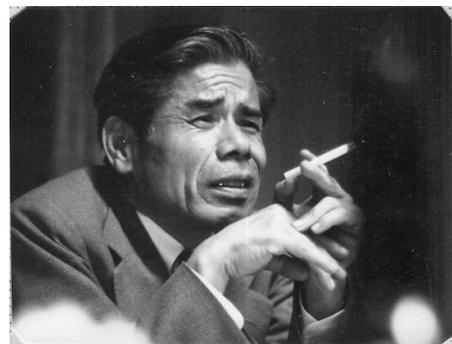


しました。都築先生のことにつきましまして、今月号にもみられるようにみなさんが少しづつ書いて下さいましたから一応のうめあわせにはなりましたが、新しくみえました森下先生については、何も知らない方がほとんどでありますので、近いうちに何らかの形で御紹介したいと思っております。

今月号に同封された二枚の写真は当日永井カメラマン撮影によるもの、都築御大の御尊顔と森下先生の演説をみんなが拝聴しているところです。よくよくごらんになってチヨウダイナ。

<会場スナップ>

- 都築先生
- 加藤清さん（四）
- 森下先生
- 毛利豊君（五）
- 内藤毅君（十五）
- 浅井幸三君（五）
- 藤野絢子さん（十三）
- 足立靖子さん（十五）
- 志水照代さん（十三）

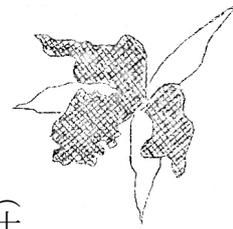


<都築先生お得意（？）のポーズ>

### 編集部ただしがき 今月の詩 回想（ヘルマンIIヘッセ）

森本 進

私は妙にヘッセが好きで、彼の作品を中学生のころからよみあさっております。この詩は一九三七年に出た「新詩集」の中の一編、高校二年のときこの詩集をよんだのですが、なぜかこの詩が一番よく印象に残っています。それは私自身がよく幼かった頃をなつかしむからかもしれませぬ。そしてまたときには将来のことを想像し、じきに友人たちにもわせられ、自分のすみかのあたりもかわるだろうと思うからかもしれません。広々とした田園風景に変わるといいなと思うのですが…。



CHORUS

4月下旬  
~5月上旬

(十二) 鈴木 茂

- ：四月二十日(金)二十一日(土)↓比良連峰完全縦走
- ：四月二十三日↓同大文化団体ソフトボール大会
- ：四月二十四日↓国際見本市見学
- ：四月二十九日↓鞍馬大原ピクニック
- ：五月三日(日)六日↓大峰山脈登山
- ：五月十三日↓安土城址、彦根城、総和山城址、大垣城見学
- ：六月九日↓早稲田大学混声合唱団と同志社学生混声合唱団との合同演奏会を東京共立講堂にて行います。東京の皆さんよろしく。

(十三) 藤野 絢

○：近い近いって喜んでいたお勤め先が、五月から今池の貸ビルに転居！全くがっかりです。予想外の発展に現在の事務所(三階建)がせまくなったのが原因だそうです。会社を思えば喜ばしいことですが、どうも複雑な気持ち

でいます。

(十五) 太田 岸子

近況：三年に進級、担任ボン  
予定：五月二十六日中区役所ホールに於て演奏会、曲目 リスト作曲 ハンガリアンラプソディ第二番 トーマ作曲 ミニョンのポロネーズ

(五) 浅井 幸三

○：いつもながら雑事に追われています。やりたいこと、やらねばならぬことはずいぶんあるのに、毎日それをながめて夕メ息をつくだけです。いきま。

○：ひところは映画館へ行って眠る習慣(?)でしたが、このごろはその映画館へすら出かける暇がなく、もっぱら音楽会(高い金を払って)で安眠することにきめました。コンセルトヘボウをききなごらいい気持ちになっていたら、突如ひびきわたるシンバルの音にびっくりして目がさめました。安眠妨害もはなはだしい。でもいつてみれば音楽会というのはからだのコンディションによって感銘が左右されるものです。「Vocalize」などのために四、五時間しか眠れない悪条件で、眠いのを無理して音楽会へ出かけること自体がすでに間違っているのでしょうか。

○：毎年同じことの繰り返し、文句を言

い、がっかりしながら六年間の会長生活をすごしてきました。「かわいそうに、ずいぶんやせて：少し休みなさい」といつて解放してもらえるものと期待しています。

(十) 園部 靖子

○：四月二十日(金)よりビジネスガールになりました。まだ今日で五日。満員電車にのりおくれそうになりながら丸の内まで通っています。目下見習い中、何がなにやらさっぱりわかりません。(あたりまえだゾってどこから声がかかりそうですね)とらぬタスキの皮算用で五月二十四日にいただけるお給料で何しようかななんて考えてます。朝ねすごさないようにするだけで一生けんめいです。どなたか最高に要領よくなる方法を教えてくださいませんか。

(七) 横山二三子

近況：毎日家事に追われてすきな旅行もできず、暖かい春の一日をただうらめしそうにながめているのみです。そのうちに時間のある限り歩き廻ってみようと予定だけは立ててあります。実現できましたら御報告します

(十四) 伊藤真知子

○：春ですね。お花見なら学大へどうぞ。もっとも今年はもうだめですが。

○：哲学の先生がいいことを教えて下さいました。「いつも清らかな気持ちを持つているためには、よく勉強し、よく遊び、よくねむりなさい」と…。私は時々清らかな気持ちを持つことができるように、後の二つを実行するつもりです。

○：ヴォーカライズ合唱団、どうなったのですか。大学に入ったらぜひ入ろうと思っていたのに残念でしたか？ありません。皆でもう一度復活し、すばらしい合唱団にしましょう。

(十五) 毛利 豊

○：あさだけは何時も変わらず七時に起床、夜は接待にて帰宅時間すこぶる不規則、ある時は五時三十分、又ある時は午前三時：悲しき者よ……：という具合、昼間は何時もネムイ、ネムイ

(十五) 宮部 杏子

○ ハジメマシテ、ドウゾヨロシクいつも五円モツタイナイモツタイナイと思ひながらもツイツイ出しそびれてしまいます。なぜって字が下手で文が下手、そして頭が弱い、三拍子そろって

てしまつては書きたくても書けないのが本当でしょ。悪く思わないで下さい。これからはなるべく五円分有効に使いたいと思います。

(十三) 川村 朋子

○：ついにBG二年生になつてしまいました。一年間をふりかえつてあまりにもおとなしすぎた(自分で思うのだから間違ひなし)ので今年は大いにあばれようと思つてます。(地震にならない程度に)それでさっそく一泊で御在所へ行つてきました。最高にゴキゲンな山登りでした。久しぶりで気が大きくなりましたが、いつまで続くやら、近頃また体が重くなつたのでテニスをやり始めました。誰かお相手願えません？

(九) 竹内 栄子

○：先日新三菱京都製作所の音楽部を招き、交歓会をしたのですが、京都は音楽が盛んなようです。京都大学から女性を借りにくるそうで、コーラスでのみ京都大学に籍を置く人がある程、女性が不足しているようです。うらやましいですね。これから就職される方々は新三菱へ入って音楽部で活躍してみたいかがですか？来年は京都へ遠征する予定です。会社のP・Rになつてしまいました。

所長から金一封でもできましたらAKCヴォーカライズに…。

(十五) 磯貝 文江

○：三年生になりました。おかげさまで。担任は大野先生、クラスは307です。重いかばんを持って時計とにらめっこして四階までのぼる時、ああ三年のクラスは一階にすべきだと思つきます。○：予定は一応大学を受けるともりです。でも進学先について父母の意見と少々くいちがつて…。イヤーナ感じの毎日が続いています。こんな時どうすればいいのかな。

(十四) 谷 美保子

○：大学生生活にもなれ、寮にもなれ、いつもの生活にもどろつつあります。でも実際、大学に入つてこんなに勉強しなければならぬなんて考えてもみませんでした。高校のつづきみたいです。

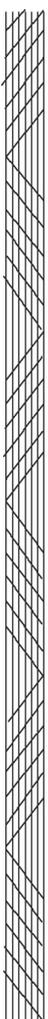
○：先日美智子妃殿下が東女にいらして、四回もながめすかしました。頭がポーンとしてしまいました。



(九) 金谷 京子  
 ○：三倍の競争率の難関(?)を突破して尚美学園の講師におさまりました。週二回先生のまねごとなどしています。また私に似合わず、池の坊の生花などにも手を出し始めている近頃です。

(十三) 近藤 譲子  
 ○：オケ(オーケストラ部)に入部しました。遊び半分の気持で入ったのですが、とても上手な方ばかりなので心配になってしまいました。今オケが練習している曲はハイドンの「びっくり交響曲」です。今度から私も第二バイオリンとして練習に加わる予定ですが、指がすっかり堅くなってしまったので、はたしてひけるかどうか、疑わしいかぎりです。

(十五) 白木 倭子  
 ○：とつてもねむいんです。でもまだ三年になって一度も寝ていません(驚かないで！授業中のことですから)皆さんはたいした進歩だっただめて下さいます。うれしい！  
 ○：どなたか肥える方法と、大きくなる方法を教えてちょうだい。



(十二) 石黒 鋒子  
 ○：最近の心境  
 “Though nothing can bring back, the hour  
 Of splendour in the grass, glory in the flower.  
 We will grieve not, rather find  
 Strength in what remains behind”  
 ...W. Wordsworth

(十一) 渡辺 義彦  
 ○：在校生諸君、阪大へこい。阪大は文科系と教養は大阪を遠くはなれた石橋にある。この周囲は景色もよく、捨てがたい味がある。すぐに東京東京と憧れるのは田舎者の悪弊だ。大阪へ来い。阪大へ入れ。阪大混声に入れ。名大混声あたりの腰抜けとはちっと気合がちがう。今年はベートーベンの第九をオケと共演する計画もある。去年の秋はイタリアオペラの「アイーダ」に男子全員がエキストラででた。とにかく大阪へ来い。俺一人では旭丘の名がもたぬ。

(十二) 加藤 厚子  
 ○：クラブ、寮の仕事など、いそがしくて連休も帰省できず残念です。二十才と

もなると人生の転機を迎えたような気がします。良い話し相手、相談相手の出現を待っています。

(十三) 安田 軍二  
 近況：ガツカリ 五月のゴールデンウィークは日数が稀少なのでゴールデンなんて名がついているんだな。ああ夏休みよ！  
 予定：よくもまああきずに毎日「勉強」が予定にはいつているもんだ！

(七) 溝上 崇子  
 ○：貧乏暇なしとはよく云ったもので、家の中はほりだらけのままとびまわっています。もう少したまっていいだろうと思うのですが、財布はいつも空っぽです。

○：コンセルトヘボウ・ヴィルトウジ、ディローマ・サロメとお金がかかって困ります。でも結婚後イタリアオペラ以来の音楽会です。  
 ○：今年ドビュッシーの生誕百年になるので、この秋いくつかの記念音楽会が開かれます。私達フランス歌曲研究会もそのため今からその準備を始めています。  
 ○：この間からフランス歌曲研究会は割によくテレビにでていきます。見てくれた人はいませんか。

(十五) 加藤久美子

○：春は皆ボケていますね。この間ある部員の方に一号室にとじこめられてしまいました。どうせとじこめるなら休講じゃない時にとじこめてくれればいいのに。

○：

このごろだんだん太ってきたので悩んでいましたが、失恋じゃない失恋をして少しやせたのでいい気持です。

(十四) 池谷 芳子

○：寮と校舎の往復にだけ足を使い、運動不足もはなはだしきものがあります。そこではりきって運動クラブへ入ろうとしたら、上級生におどかされて今困っているところです。外へ出たら一体何処に居るのか分らなくなるのでチンマリとキャンパスの中におさまっています。第一先立つものも心細くて○：だから名古屋に居た時より世事にうとくなつて、田舎にでも引越した様な気がします。ヴォーカライズのはじめは初めです。これからは真面目にハガキを出すことにします。何だか変な文章でゴメンナサイ。

(十三) 水野 公子

○：私達学大合唱団は先生からは「授業の延長と考えよ」といわれてきましたが、今年からは私達学生の手で合唱ができるようになりました。今は楽しい合唱を十二分に味わっております。

○：昨年一年間で三年生の人の名前を覚えてしまったら、今度は新一年生の名前を覚えると言う目まぐるしさ。早く岡崎へ行かなくても良くならないかなあ（私達あまり話し合う機会がないの）

(六) 原 まき子

○：三月の末に私達のためのお花の展覧会を盛大に開いて戴き、新しくお弟子さんを取る様になりました。今のところあまり自信はありませんが、日本古来の伝統を美しく守るため、家元のゼミ等に参加して居ります。御年配の方ばかりなので少々気がひけますが、新しい先生としての道を歩むように努力して居ります。今までは助手といった形でしたからお免状はあっても一般の方には御披露してませんでしたので、やっと公表して戴き、多忙な日々を送っております。新しく弟子入りをなさる方がおありでしたら、いつからでもお引受致します。

(十四) 山崎満寿江

○：長い間御無沙汰いたしました。私は学習院大学国文科に通っています。学習院は目白の森にかこまれた学校です。中央にピラミッド型の講堂、堀部安兵衛が血にそまった刀を洗ったと伝えられる血洗いの池。（水はふつうの池と同じ色。赤くはない）馬術部がそのまわりを朝早く練習でまわるそうです。とにかく静かなところですよ。国文科は八〇名、うち黒三点、熊本の八代、宮崎、高知の出身の方々です。

○：ところで四月二十九日、私たち学習院生にとつては、ふつうの休日ではありません。九時から天皇誕生日の式、初等科は父兄同伴、中等科から大学生までは校庭で、まず君が代を二度くりかえし、阿部院長のお話、ばん才三唱、院歌をうたい、出席をとり（体育の単位に加わる）終了、この間四十分、御想像下さい。ではまた、ごきげんよう。

○：私たちは朝会つても、さようならの時も「ごきげんよう」というあいさつです。私もさつそく使ったわけです。いろいろ学校のことなどはおしらせするつもりです。

## (十三) 増田 禮

○：授業がはじまつたら急にいそがしくなつて、全然自分の時間がありませぬ。二年になるとやっぱ一寸エライです。勉強だけならなんとでもなりませぬけれど、その他いろいろ雑事に追われ、毎日毎日が機械的に過ぎていってしまい残念です。大学のコーラス部には今度AKC出身の矢野さんが入団され喜んでいきます。旭丘出身者は私達の団ではすべてソプラノに集まりました。今後ソプラノがぐつときれいになるだろうと思っています。

## (十) 森本 進

○：生まれて初めて入院しました。ぼくのような細い体からごく一部分であれ、切りとってしまうというのはチートバカリ残酷とちがいますかね。入院した当日は痛いからそれほどはありませんでしたけど、二日目からはたいくつでこまりました。十日も入院してなければならぬとはなさけないことになつたものだとなげいたものです。でもたくさんお見舞にきてくれましたから、大分もうかりました。でもあまり食べてはいけないので、みるだけということになりました。これまたなさけないことではありませんかね。

○：三月三十日の夕かんにぼくの名前が載りました。ベッドの中で一生けんめい名前をさがしました。そして守山西中学というイカレタ学校にぼくの名前をみつけた時、ぼくはがっかりしました。守山中で一番評判のわるい学校なのです。

○：四月五日、初めて学校へタクシーで出かけました。学校はどこにあるかわからないし、満足に歩けもしないので車を利用したのです。学校についても職員室がどこにあるかわかりませんからキョロキョロしていますと、ま新しい服をきた新一年生らしき生徒が、「先生おはようございます」といいますから、「職員室はどこだ」とはきけませんでした。しかたなくあてづっぽうに歩いていきましたら、先生らしき人に会つたのでききましたらようやく職員室の所在はわかりました。しかしぼくがきいた人は先生でなくてPTA関係の方でした。大失敗！

とでのぼりましたけど、ふらふらして生徒にわられてしまい、おもしろくありませんでした。

○：しばらくの間は「盲腸は大丈夫か」とか「あまり無理するとよくないよ」、「もつとゆつくり休んでればよかつたのに、ぼくなんかは一月具合が悪かつたぜ」、「森本さんそんな仕事はまだ無理だ、ぼくにまかすとけよ」といろいろみなさん大事にして下さいました。ありがたいことではありませんか。でもこれはあまり長つづきせず、「森本さん、この仕事たのむぜ」、「森本さん、原紙一枚きつてくれへんか」、「補欠たのむぜ」という具合になつてしまいました。でも職員室でぼさつとしてゐるよりは何かしてた方がましですが…。

コーラス欄に書かれましたことの中、あまりにも私的なものや、個人通信は載せてありませんし、編集部に対する意見なども、この欄にのせるのはどうかと思いましたが、み合せることにしました。関係者の方にはよろしく御諒承下さいませようお願いします。

イヤイヤながら

## 会長に就任するの弁

タスケテチョウダイナ  
もりもとすすむ

「Vocalize」62号に浅井幸三氏の「私の辞表」と称するものが出て、その辞表がうまく受理されたとみえまして、今回の選挙では浅井さんが会長からはずれ、ぼくがかわって会長に選ばれたと言うものすごいことになりました。大事件であります。

ぼくは以前から考えていたのですが、教員になったら教職に直接関係のない仕事は一切やめて教育に専念するつもりでした。ぼくは大学生活の間にまがりなりに教育職についての自覚と心がまえをつくりました。たとえそれが机上の空論でとても実現しそうにないことであろうが、ともかくも努力しようと思っていたのです。そのためには一番負担の大きいヴォーカライズの委員はまずやめた方がいいし、またぼくのような役に立たない人間がいつまでも副会長なんかであるべきではないと思います、浅井さんの会長再選をみこして、会長あてに辞表を提出、再選されても委員はひきうけられない旨を申し出ま

した。ところがとんでもないことにぼくが会長にえらばれていました。結局は浅井前会長からオコゴトをいただいただけでぼくはひっこまなければなりません。まさか投票率のはなはだしく悪い選挙をもう一度やりなおすこともできないでしょう。

ぼくはやれるのにやれないという人間ではないつもりです。いたって負けずぎらいの人間ですからできるかぎりのことは自分でするので、今度の場合はどうもぼくにはできそうにありません。前会長のようにすぐれた能力も手腕も何もありませんし、会員全部の顔さえも知りません。何をどのように企画して、誰にどういうことをたのんでどうしたらいいのか、さっぱりわかりません。自分では何もできないくせにぼくは神経質ですから気にすることは人一倍なのです。いつもヴォーカライズのことばかり考えて、始めて奉職したばかりのぼくがうまく教えることができるかはなほ疑問なのです。教育職とはどんなものかみなさん簡単にわかっていただけなのは残念です。井の中のかわずのごときもので自分の仕事ばかりが大変な仕事のように思えるのかもしれない。たしかに一般の会社の方々もいそがしいでしょう。だけど、もうやめましょう。ぼくはこんなグチばかり

りならべるためにこのページをとったのではありませんでした。

今年の方針を御紹介します。さきにも書きましたようにぼくにはとても全部をきりまわす能力もひまもありませんから、浅井副会長を始めとする有能な委員諸氏に大いに協力してもらわねばなりません。委員の皆さんはもつと積極的にぼくを助けて下さい。委員が四苦八苦して原稿をひねり出してデッチ上げたような「Vocalize」はてんでバカけています。この機関紙は何も委員がすきこのんで作っているものではありません。会員みんなの機関紙であるよう依頼された原稿は必ず期日までに書き、ハガキは必ずかえして下さい。

つどいは今年も何回か行う計画ですがこれについてはみなさんを疑いたくありません。アンケートをとれば「やりなさい、やりなさい」とみなさんがいうくせに、いざとなると出ないという人があまりにも多いのではありませんか。計画する方の身にもなって下さい。合唱団についてもこれと同じことがいえるでしょう。今年はそのことがないように、つどいや合唱団がうまく運営されるよう、皆さんの御協力をお願いします。

ずいそう(？)らくがき(？)

# 長池のぼうふら

もりもとすずむ

## 守

山市は名古屋から瀬戸へ通ずる通称瀬戸街道(県道)にそって細長く発達した町です。この町の歴史的な発展についてはぼくはよく知りませんが、ただ今、市役所の方で「守山市誌」を作っておりますから、おっつけ明らかにされるものと思っています。なんでも守山城という城があつて、そこに仕えた重臣が二十名いたとか(軽臣かもしれないが)そしてそれらの侍が屋敷をならべて建てたので、ここを二十軒家とよんだといひます。守山にはこうした屋敷名をとつた地名がいくつもあります。山屋敷というところがあればサラヤシキというすごいものがあります。残念ながら更屋敷と書かれ皿の字ではありません。

## 我

が西中学の地名は長池です。ここは瀬戸街道から一キロほどはなれた田んぼのまん中、ぼつんと一軒家のようにさびしく立っています。ここには灌漑のための水路がいくすじも通っていますが、雨がふるとすぐこれ

が一杯になつてあふれ出し、細いあぜ道は水浸しになつてうまつてしまふのです。ここを通るにはレインシューズなんかでは間にあいません。長いゴム長が必要です。こんなことを職員室で話してしましたら、ある先生がおっしゃいました。「森本さん、それくらいのことでおどろいてちゃあかんぜ。以前だつたら一日雨がふりつづけば、運動場中水だらけとなりの鳥羽見(小学校、西中と約五百メートルはなれています)まで水つづきになんたんだぜ。ここはなあ陸だと思つたらあかんのや。ここは長池ちゆう池だぜ。」

まさかぼくは池の中へほおりこまれようとは思つていませんでした。なさけないことですが今はこの池の住人になつてうきしむぼうふら仲間なのです。なぜぼうふらかつておっしゃるのですか？このいわれはちよつとややこしいのでここに書くわけにはいかなのですが、チヨンガーはみんなぼうふらと言うことになつており、「ぼうふら会」と称してマージャン大会をしたり(これもうきしむみ

があるでしょう)、野球大会をしたり、ビヤガーデンに出張したりするのです。

## 西

中がここにやプールはいらぬ。雨の三日もふればよい。これはぼくと同じ新任の人が作つた西中首頭の一節、さきの先生のはなしではありませんが、ほんとに三日もふりつづけば大変なことになります。最近中央線の守山駅建設のため道路整備がおこなわれ同時にかなり広い側溝がつけられましたから以前ほどのことはなくなつたのだそうですが、この間ずいぶん雨がふつた時に市役所の方から緊急事態の用意をするようにとの連絡がありました。この時は増員して新任の三人が宿直をしましたが、けっこう楽しがつて職員室の黒板に翌日のプランをたてました。(翌日は定期試験日でした)

第一時限 水泳テスト 於長池

第二時限 同

第三時限 魚とり ウナギ、ナマズ、エビガニのいづれかをつかまえること。オタマジャクシはだめ。

第四時限 田植え(運動場)

昼食 ウナギのかばやき

ほんとうは緊急事態ですから、雨のふり具合によつて生徒の登校をとりやめる連

絡や、避難所の用意などをしなくてはならないのですが、そんなことはそちらのけでこんなことを書いて遊んでいたからひどいものです。(もつともその夜のうちに雨はやんでしまっていたのですけどね) 幸か不幸か運動場は田んぼにならないですみましたし、ウナギのかばやきは食いそこねました。もつともこの辺にいるようなウナギはたべてもちつともうまくないそうです。

**ぼ**

くはこの学校に奉職することがきまったときは少なからずがっかりしました。なぜって生徒すじがよくないことでは守山中はおるか愛知県中で評判の学校だからです。でも二ヶ月たった今、ぼくは毎日が楽しくてしようがありません。こんなすてきな学校はないなとまで思うようになりました。学力水準はずいぶん落ちますけどみんなどっかにいいところがあります。手に負えないようなワンパクボウズでも、男か女かわからないような言動をとるオテンバムスメでも、誰れでもぼくは大すきです。授業中には「このクソボウズめ」と思わせるような生徒が、定期試験のとき首席であったり、知能指数が低く一時間おちついてすわっていることも満足にできず、いつもコセ

コセしているような生徒でも、ぼくが机の修理をしているところへやってきて

「先生、オレ手伝ってやるわ」といって二時間も三時間もあきずに仕事をし、あげくのはてに。「なんだ、もう直すやつないのか。つまらねえな。」というのですからおもしろいものです。また男の子をほおきをもって追いかけてたり、男顔まけのものすごい言葉をつかっているような女の子が、涙を一杯うかべてしおらしいことを訴えてくることもあって、ぼくを感動させるのです。「やつぱり女の子だなあ」と思って妙に感心したものです。ぼくは遊ぶことなら何でもすきですから生徒と一緒にアホらしいことをよくします。ヒバリの巣をさがしにいたり、エビガニをつかまえにいたり、つれもない魚つりをしたり、なかなかいそがしいのです。この辺にはエビガニやカエルならいくらでもあります。理科の時間によくカエルの解剖をするんだそうですが、ちつともへりません。あぜ道を通ると小さなカエルが何匹も田んぼにとびこんでいきます。エビガニはゆでれば食べられるんだそうですが、ぼくはそれほどイカモノ食いではありませんからまだ食べたことはありません。生徒が「先生、これ食べやあ」といってバケツに一杯持ってきたときにはその始末にほんとにこまり

ました。

**あ**

そんでばかりいるように思われてはすこぶる有能なるぼくの名がすたつてしましますから、すこし授業のおはなしをしましょう。ぼくは社会科の先生ですが、地理というヤツは一番にがてです。歴史は専攻しましたし、政、経、社も興味のあるところなのですが、地理は中学校以来ほとんど何もやってないのです。ところが時間割でゆくと地理が四クラス、歴史が二クラスということになっていて、歴史からイヤになります。毎日教材の研究をしてから教壇にたなげればならないのは当然ですが、それがほとんど参考書や指導書のうけうりみたいな気がしてなりません。山脈と山地のちがいはなんてのはてんでしらんかったからひどいものです。地理というものはやはり現地へ行ってみてこなくちゃだめだなあと思つて、職員室で「九州や北海道へ研修旅行にいきたいね。いつも見てきたようなウソばかり教えているんですからね。研修費を出して下さいよ」と主任の先生に話しますと、「ウン、それや研修するべきだね、研修費は出るんだぜ、千円」というおはなし、ちなみに北海道の研修旅行のパンフレットによると二万七千円かかるのです。あとの二万六千円ほどは

どないしましょ。こういうわけですから現地研修はあきらめて当分みてきたようなウソをつくことにしました。(ウソばかりついていいるんとはちがうぞ) **た** いていの先生にはニックネームがあるものです。ぼくも中学から高校にかけて先生にあだ名を付けたり、それをよんだりして喜こんだものですが、今度につけられる身になりました。モルモットだとかモヤシだとかキリギリスだとか無茶くちやいますけど、百済ポンチというやつが一番けっさくです。これは一体どういう意味がよくわからなかったのですが、百済観音とイカレポンチをくつつけたんだとか。百済観音は御存知のような細い体つきをしています。あれが二年生の教科書のみひらきに色づりの写真でついていたのです。その時ぼくが「これは誰に似てるかな」といったら、生徒達が「先生だ、先生にそっくり！」といいだしたのです。そしてぼくの授業があまりイカレているからポンチだけをくつつけたのだというのです。事実ぼくは相当にへソまがりな授業をしますし、脱線したらそのままつぶしつぶしまつってとまりません。国鉄でしたら三河島以上の事故になります。特に二年生の歴史の時間に脱線が多く、

生徒は大事なことをわすれて変なことばかり覚えてしまったようでこまりました。シーザーの名言「賽は投げられたり」とか「ブルータスおまえもか」とかが教室中に大はやりになったり、「クレオパトラとアントニウス」の話や「玄宗皇帝と楊貴妃」の話になると水をうったように静かに聞いてるんだからイヤになります。普通に授業をしている時はいつもそんなに静かではないのです。どんなに知能指数の低い生徒でも「世界の三大美女」といえばたいいてい知ってますし、「三角関係」というイヤらしいことを覚えてさかんにこれを使ったがるのでこまります。ぼくの授業はこういうアホらしいことばかりを教えるための時間のようで成績の方は最低、もうじき他の先生方から「君は一体何を教えているんだね？かんじんなことは何も生徒達は理解しとらんじやないか」といわれそう。でもまあ生徒がよろこんでるから……しかし愛らしい女の子がある時ぼくにすぐくまじめな顔をして、「先生！先生みたいにアホみたいな事ばっかりいってても先生になれるの？」ときいた時にはまったく往生しましたね。

(了)

## Invention

○：本年度第一号の「Vocalize」をおおくりします。この第一号よりずっと前に第二号がでていきますから、今ごろオメオメと出墨してはオメ玉をくうかもしれませんが、なにとぞごかんべんの程を。

○：これ程おくれるはずはなかったのですが、予定した都築・森下両先生のプロフィール原稿がちつともあつまらず、それかといつてそのかわりとなる記事もなく、結局は編集者が一人で勝手なことを書いてしまい、私紙のようなものになってしまいました。はなはだ申しわけないのですが、あなたがち私達編集者の責任とはいえないのではありませんか？ 虫がよすぎるかな。

○：この号の発行日が五月十日になっています。今このらんを書いているのが八月十日、丁度三ヶ月たっています。これを印刷して、封筒のあて名を書いて投函するのにもまた十日くらいかかりそう。編集長が毎日クタクタになるまで野球部の練習につきあわせ、印刷するファイトが出てこないのです。でもまあ、八月中にはおてもとにつくとおもいます。

○：暑さの折、みなさま体に気をつけてコレラにならないようにして下さい。

(森本・内藤)

1962.6.10 (日)

# VOCALIZE

No. 64

AKCヴォーカライズ機関紙 発行責任者 森本 進

## 惜別の歌

島崎 藤村

遠き別れに たへかねて  
この高殿に のぼるかな  
悲しむなかれ 我が姉よ  
旅の衣を ととのへよ

別れと言へば 昔より  
この人の世の 常なるを  
流るゝ水を ながむれば  
夢はづかしき 涙かな

君がさやけき 目の色も  
君くれなゐの くちびるも  
君が緑の 黒髪も  
また何時か見ん この別れ

注 一部かなづかいを変えました。

Vocalize <64号>

- ◇93年度会員名簿(デジタル無し) …別刷
- ◇必読・お知らせのページ ……4
- ◇「タヌケル・タヌケス・タヌケム・タヌケン」(松沢) ……6
- ◇会員インタビュー 森本進君(十) ……8
- ◇みんなの歌「トウナイト」 ……10
- ◇プロフィール太田岸子さん(十五) ……11
- ◇プロフィール加藤千鶴子さん(十一) ……12

## 演奏会案内

名古屋・六月中旬〜七月中旬分

- ◇クラシック ◆ポピュラー
- ◇小林健次ヴァイオリン演奏会  
12日6:30 市公会堂(友の会)
- ◇辻久子ヴァイオリン演奏会  
13日6:30 市公会堂(労音B)
- ◇ドジュツシー生誕百年記念演奏会 P井上  
二葉、MS中島美鶴 16日6:30 CBCホール
- ◆イベット・ジロー・シャンソンリサイタル  
19日6:30 文化講堂
- ◆雪村つづみリサイタル 23日6:30 24日  
11:00, 2:30 市公会堂(労音C)
- ◆鈴木章治とリズムエース演奏会  
25日6:30 市公会堂
- ◇幸声会(混声合唱団)演奏会  
28日6:30 文化講堂
- ◆トロオ・ロスパンチョスさよなら公演  
東京キューバンボーイズ、坂本スミ子、トリオ・  
ロス・チカノス 30日5:30, 6:30 市公会堂
- ◆高英男シャンソンリサイタル  
3日6:30 市公会堂
- ◇中央合唱団演奏会 8日6:30, 9日6:30  
市公会堂(労音B)
- ◆モアナ・ハワイアンズ・ショー  
12日6:30 市公会堂(友の会B)
- ◆弘田三枝子リサイタル 14日6:30,  
15日11:00, 2:30 市公会堂(労音C)
- ◇日本フィルハーモニー交響楽団演奏会  
16日6:30 市公会堂(友の会A)
- ◇東京交響楽団アサヒビル・コンサート  
17日6:30 市公会堂

会長に森本進君(十)

…在名の女性委員は半減：  
昭和三十七年度役員きまる

昭和三十七年度のAKCヴォーカライズ役員選挙(四月二十九日締切による郵送方式)の結果、つぎのとおり新役員が決まった。話題の中心は、森本新会長の誕生と東京・大阪両支部が複数役員制になったことだが、新しい顔が少ないのはさびしい。Ⅱ下段は担当Ⅱ

- 会長 森本 進(十)
  - 副会長 浅井 幸三(五) 総務
  - 同 鈴木 道郎(十二) つどい
  - 委員 水野 俊彦(六) ……未定
  - 同 永井 充(八) 会計
  - 同 神藤 敏子(十二) 組織
  - 同 高橋 昭弘(十三) 合唱団
  - 同 伊藤真知子(十四) 合唱団
  - 同 内藤 毅(十五) 旭丘
  - 東京支部 溝上 京子(七)
  - 同 園部 靖子(十)
  - 大阪支部 松沢 暢夫(六)
  - 同 中尾 桂二(七)
- 投票率は四割八厘(締切後到着分を加えると四割八分四厘)と例によって低調だった。

「会長・副会長選挙得票Ⅱブロック別Ⅱ」

白票	投票者数										ブロック								
	森本進(十)	浅井幸三(五)	鈴木道郎(十二)	永井充(八)	水野俊彦(六)	安田軍二(十三)	神藤敏子(十四)	伊藤真知子(十四)	若林延昌(五)	横橋貞雄(十二)		鈴木寛(六)	水野令子(八)	上前昌三郎(九)	千本木宣子(十)	上田勤(十二)	高橋昭弘(十二)	林茂樹(十三)	
3						1	1	1		1	1	1						A	
										3			1					B	
																		C	
													1					D	
																		E	
3	1	1	1							4	4	4	4	4	6	7	7	F	
3									1	3	2	4	5	7	東京				
2										2	3	2	2	4	大阪				
11	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	4	5	5	8	10	16	20	計

「ブロック委員選挙得票」

東		京		△		A		△	
谷美保子(十四)	岡島孝(十三)	金谷京子(九)	園部靖子(十)	△溝上崇子(七)	白票	若林延昌(五)	鈴木寛(六)	佐々知子(七)	水野俊彦(六)
1	1	1	2	2	2	1	1	1	1

D		B		△	
安田軍二(十三)	志水照代(十三)	△高橋昭弘(十三)	白票	森本進(十)	上前昌三郎(九)
2	2	1	1	1	1

F		E		C	
△松沢暢夫(六)	加藤久美子(十五)	△内藤毅(十五)	白票	伊藤真知子(十四)	鈴木道郎(十二)
2	2	1	1	2	1

大		△		△	
△中尾桂二(七)	△松沢暢夫(六)	△神藤敏子(十二)	横橋貞雄(十二)	鈴木道郎(十二)	伊藤真知子(十四)
2	2	1	1	1	1

注…各ブロック委員選挙で、得票が同数のときは、会長、副会長選挙の得票順位によって当選者を決定することになっている

ブロック	会員	投票	率	締切後到着
A	13-4	.308		
B	11-3	.273	①	.364
C	7-1	.143	①	.286
D	11-4	.364	①	.455
E	4-2	.500		
F	8-6	.750	①	.875
東京	14-7	.500	①	.571
大阪	8-4	.500	①	.625
計	76-31	.408	⑥	.484

おことわり：  
時間的に余裕がなかったため、今回の投票にあたって多くの皆さまにご迷惑をおかけしました。残念ながら、規定により四月三十日以降消印分は、有効票として取り扱えませんのでご了承ください。



この欄はA K C関係者みんなの近況を知らせ合うためのものです。だれのことでも、どんなことでも、ぜひお知らせ下さい。

◇…桜井茂徳君(十三) 本年度よりヴォーカライズ会員に加わった。桜井君はA K Cには在部しなかったが、旭丘の出身者。昨年度はヴォーカライズ合唱団のメンバーとして最も出席率のよい団員だったので、ご存じの方も多し、正式に会員として加入されたもの。昭和十七年十二月三十一日生まれ、中津川第一中学出身。現在名古屋大学一年。

名古屋市中川区明徳町×××  
◇…水野令子さん(八) 四月二十二日、寺田浩氏とご結婚。

守山市大森××× 電話×××  
◇…泉谷美紗子さん(十二) 〓奈良女子大学〓四月に〓家族ともども左記へ〓転居、今後は自宅から通学される。

奈良市六条西の町×××  
◇…62号に掲載できなかった会員の新しい勤務先、通学先はつぎのとおり。  
金谷 京子(九) 尚美音楽学園  
大橋 佑子(十) 東洋棉花

岡部 靖子(十) 新三菱重工業  
岡島 孝(十三) 間野美容学校  
山崎満寿枝(十四) 学習院大学  
◇…世古伊都子さん(六) 五月一日〓結婚、新姓伊藤。

名古屋市中区南鍛冶屋町×××  
◇…大原春彦君・総子さん(六) 日本道路公団大阪支社勤務の春彦君が、白浜道路工事事務所へ転勤となったため、四月より左記へ転居した。

和歌山県田辺市×××  
◇…加藤聡君(六)・浅井幸三君(五) 六月十日の労音総会および第一回幹事会で、名古屋労音の運営委員に再選された。加藤君は企画、浅井君は宣伝の担当となる。  
◇…旭丘高校では、六月五日から五日間、本年度第一回の学力テストが行なわれた。三年生には、このあと二十、二十一両日に第一回模擬試験がある。

〔昭和36年度会費納入者〕62号既報後〓  
鈴木寛、安田良江、松沢暢夫(六)、横山二三子(七)、金谷京子(九)、藤野絢子(十三)

〓以上、計54名〓 未納者21名あり  
会計報告は7ページに掲載してあります。

### 私の好きな詩

島崎藤村「惜別の歌」

藤野 絢子

平凡な、いかにもセンチメンタルな詩です。しかし二度三度つぶやいてみてください。こんなにも切々と胸に響くのはなぜでしょう。私たちが生きていたら、一度は、何かの形で対面しなければならぬ「別れ」について、こんなふうにはマンチックなものであったならば、人生はもっともっと詩情豊かになるのではないかしら。とくに第三節が印象強く、自信満々にうたいあげた藤村が目には浮びます。この節は、ぜひ声を出してうたいたいところですね。

市に着いては多少の興味はありますが短い語句からいろいろなことを見つけ出すのは、なかなか苦手で、解せないものが多いです。しかしこの詩とは深く考えることもなく仲よしになれ、そんな意味で、数少ない記憶される詩の一つです。

〔編集部・注〕藤村にこんな詩があると、寡聞にして知らず、最近この詩につけたという曲の流行にびっくり。詩を原本にあたって調べることでできませんでした。

ことしもキャンプを：

AKCヴォーカライズでは、昨年の白樺湖キャンプに次いで、ことしの夏もぜひ高原へ行こうと、いまその具体案を練っています。詳細は次号に発表するとして、とりあえず日程をお知らせし、多数の皆さんのご参加をお待ちします。とくに東京、大阪地区の会員の方たちも、この日程にあわせて共同のつどいとして参加してくださるよう希望します。(二泊四日の日程です)

記

とき 七月26日(木) 夜行で出発

27日(金) 28日(土) 泊

29日(日) 夕刻帰着

ところ 上高地あるいは志賀高原

ひよう 三千円〜四千円程度(?)

れんらく 本号同封のがきで参加

の可否、日程、候補地などにつ

いてご意見をおきかせください。

以上

AKCヴォーカライズ

労音サークル結成のお知らせ

一時は二十人をこえる会員を有したAKCヴォーカライズ労音サークルが、六月から再発足することになりました。いままでも中部日本新聞サークルに依存していたのを、旧来のように「AKCヴォーカライズ」名で分離独立させるもので、音楽鑑賞を愛好する皆さんの参加を希望します。すでに他サークルで会員となっている方も、転入していただいでけっこうです。なお、代表者には安田軍二君(十三)が決まりました。

ヴォーカライズ合唱団練習再開

AKCヴォーカライズ合唱団は、昨年度の練習日程変更などから、一時活動を停止していましたが、定時制の音楽室使用日が変わったため、ふたたび練習日を木曜日に戻して、六月より練習を再開しました。会員の皆さん方、とくに現在どこの合唱団にも属していない方は、この合唱団で大いにお歌いくださいませよう、誘い合つてのご参加をお待ちしております。またAKC関係者でなくとも加入できますから、お友だちにご紹介ください。

必ず読んでください・オ知ラセノペえじデス

練習日時	毎週木曜日 PM6〜8時
練習会場	旭丘高校音楽室(四階)
合唱団費	月五十円
指揮者	未定(決定までは会員の交代指揮で練習します)
参加資格	特になし、だれでも加入できます
担当委員	高橋 昭弘(十三) 伊藤真知子(十四)

すでに配布済みの楽譜は毎週必ずご持参ください。

入会金	五十円
会費	月二百円(三系列のうち一つを自由選択)
例会予定	変更になることもある
七月A	ステファン・チガンチェフ(バス)
B	中央合唱団
C	弘田三枝子
八月A B	大阪フィルハーモニーオケ
C	労音フェスティバル
九月A	東京混声合唱団
B	江藤俊哉(ヴァイオリン)
C	白木秀雄(クインテット)
十月A	原智恵子(ピアノ)
B	楽団カチューシャ

## 会長退任の弁



浅井 幸三

またしても、私的なあいさつに一ページをさいてもらうのは、たいへん心苦しいことですが、66号の「私の辞表」を受理していただいたことについて、一言お礼と説明を述べさせていただきます。

私は、ずっと以前に「次の会長は森本君であろう」と予言したことがあります。その予想どおり、ことしは森本君が会長に決まり、私は副会長として協力する立ち場になりました。これは、私にとって思わぬ贈りものでした。無責任なことばかもしれないが、私は正直ホッとしたのです。重荷が一コ取り除かれたからです。

私はこれまで六期にわたって会長をやってきました。その間に、多くの後輩の諸君と知り合い、私のためにいろいろ力を与えてくださる友人を得て、曲がりなりにもヴォーカライズのために、微力を注いできました。ただ私は

「あいつは好きでやっているのだ」とか「暇があるのだからやらせておけばいい」とか、陰で言われていたことも知っています。そのたびに、気短かな男である私は、何度ヴォーカライズを投げ出そうとしたかしれません。よく思い返して、こう長く続けたものだ、いまでは不思議にさえ思えるのです。

ヴォーカライズのために働く会長はじめ委員は、決して物好きでもなければ暇をもてあます人間でもありません。この点をよく認識していただかなければなりません。あなたが眠る時間、遊ぶ時間のうちのいくらかを、委員たちはヴォーカライズのためにさいているのです。「彼は私より暇だ」という見方は、思い上がりもはなはだしい、人をバカにした言い方です。およそ物事を断るのに忙しいからという理由は、ヴォーカライズでは通用させたくないものです。忙しいか暇であるかは主観の問題ともいえませんが、「暇だから委員をやれる」という受け取り方をされたのでは、たまりません。

そうしたいきさつがあるだけに、少なくとも自分の時間がみんなより多いといえない私は、ことしはどうでもやめさせてもらおうつもりでいました。しかし全面的に手を引くことは、卑怯だと思われようし、いさぎよしともしないので、こと

しは副会長にとどまる程度でがまんし、だんだん若手の皆さんに、バトンを譲るつもりにしています。…そして、私でなくてもできるのだということが、皆さんにわかっていただけるであろうと思うのです。

ことしは、副会長として、三ヶ月に一度の割りに「Vocalize」の編集に当ります。例のごとく物心両面にわたって、皆さんのご助力をねがうことになりました。会長時代同様のご交誼とご助力をおねがいします。そして、新会長の森本君に、私に与えられた以上のお力添えくださいますように…。

最後にごく個人的な立ち場から私に対して「会長をやめるな」と励ましてくださった方々に、深くお礼申し上げます。あなた方が私に示してくださった信頼と友情のおことばを、私はとてもありがたういただきました。私のようなものには過ぎたお志でもありました。ご期待にそえなかつたことをお許しください。とかく、人の好意におぼれがちな私ですので、きつといつまでもあなた方の好意を忘れないでしよう。ありがとうございました。会長をクビにしてもらったので、私は健康になるよう努めてみます。

タヌケル・タヌケム・タヌケン  
タヌケス・タヌケム・タヌケン

まじざわ・のぶお

都築先生が明和へ転出されたとのこと。旭丘からまた一人、名物先生が消えたと思うとまことに心さびしい。

思えば今から十一年前の四月、入学式当日校庭にはり出された名簿を見ると、私は「一〇六組、担任都築健太郎教官」というクラスに入っていた。式を終り教室に入って、さて、どんな先生が現われるであろうかと期待を持って待っていると、しばらくして。期待に反した、ある種の面相を有する小さな男が入ってきた。この男こそわれらの都築先生だったのである。われわれ悪童達はたちまちにして先生に「歌笑（かしょう）」というあだ名をつけた。知らない人が多いかもしれないが、三遊亭歌笑といえ、名にしおう御面相を持った落語家である。

時間割の発表があると、私はもう一つ落胆した。先生は音楽の先生だったのである。今まで私が教えてもらった音楽の先生は、まことにもってイヤナ

ヤツばかりであった。小学校：当時は国民学校といったのだが：のときが、男のくせにヒステリックな先生で、とても評判の悪い先生だった。信州への疎開から帰ったの先生が、ものすごくカンシヤク持ちですぐどなる、まったくおそろしい先生であった。中学に入ると女の先生になったが、これまた相当のヒスで、われわれをおこらぬ代わりに担任の先生に言いつけるといふ厄介な存在だったのである。すなわち音楽の先生である「歌笑」先生もニアリーイコールにちがいないと見てとったのである。

ところがどうして、この先生、音楽の先生らしくない（？）なかなかよい先生である。つき合つて（？）みると、カンロクないようでありながら、なんとカンロクをよく備えたりっぱな先生である。音楽の先生のくせに、おこるなんてことを知らないような先生であった。

間もなく、私はAKCに入った。われらの歌笑先生は当然のことながらこの顧問であった。ここでこの先生は「健太郎さん」「タヌキ」などと呼ばれていることを知った。師に向かつて：さんなどと友だちみたいと呼ぶのは不心得である、私はこの呼び方を好かなかつたが、考えようによっては歌笑などと呼ぶ方がよほど不心得だったかもしれぬ。それにタヌ

キという呼び名もあまりよくないと思つた。われわれのつけた歌笑という名の方がよほど気がきいていると思つた。（だつてそうでしょう。先生はタヌキなんかにちよつとも似ていません。タヌキつてとてもかわいらしいですよ）しかし伝統あるこの名が、われわれのつけた新興の名前にその地位をゆずるはずがなかった。結局、歌笑という名はすたれてしまった。われわれ悪童達はタヌキという名をすなおに受け入れはしたが、これを利用して次への発展を期することを忘れなかった。ちよつと習つたばかりのドイツ語の冠詞、デル・デス・デム・デン。ディー・デル・デル・ディー：：というのをもじつて、タヌケル・タヌケス・タヌケム・タヌケン、タヌキー・タヌケル：とやり出したりした。つまり、先生のとこが悪童連の頭の中にいつもあつたという証明にほかならぬと思う。

こんなこともある。先生は生徒から贈られたタヌキの置物を大切に机の上に飾つておられた。その数がいくつかあつたところを見ると、相当の人が先生にプレゼントしたものと思う。私のも一つある。手渡したときの先生は「いやなことするナア」と言いながら、なかなかうれしそうであった。修学旅行や遠足に出た生徒が、自分のために買ってきてくれた気持

をかみしめておられたにちがいない。「タヌキ」などと言われたらいやがるのが普通なのに、先生は一つもいやな顔をされず、そのあだ名に甘んじておられた。こんなところに先生を人気者にするゆえんがひそめられていたのかもしれない。先生は明和に移られてからも、きつとこれらのタヌキを机の上にかざっておかれるにちがいない。そしてまた新しいのもふえていくことだろう。

先生は明和に移られて、どんなところで教べんをとっておられるだろう。旭丘に新しい音楽室ができたときである。私が遊びに行ったとき、先生はわざわざ四階のその部屋まで私を案内して見せてくださった。新しい教室、大きな姿見があり、水道の出る準備室等がとても先生のお気に入り、自慢そうに見せてくださった。そしてこの部屋は、他の先生方や生徒たちからはタヌキ御殿と呼ばれていた。この部屋にあんなに喜んでおられた先生は、どんなお気持ちで明和に移られたであろうか。私は先生がともかわいそうに思えてしかたがない。けれども、今はきつと別のタヌキ御殿で、ちよつと上を向いていかにも得意な顔をして教べんをとっておられるにちがいないと思

う。先生、いつまでもお元気で、そして、いつまでも旭丘の悪童連をお忘れなく。さようなら。

36 年度会計報告

[収入]	
会費・卒業生 (300×38)	11,400
会費・在校生 (200×16)	3,200
計	14,600
[支出]	
Vocalize 発行費 (9 回)	3,390
同 郵送費	6,230
Chorus 用はがき	2,260
つどい補助金	2,060
つどい連絡費	100
歌集第二号発行費	110
計	14,150

[備考]	
(収入-支出) 残高	450
会費未収金 卒業生 20	6,000
同 在校生 1	200
計	6,650

(注) 未収金は回収後 37 年度会計へ繰り入れることになるが、このうちからプロフィール写真代補助あるいは各種企画引き当て金が支出されることになる。

1962.6.10  
浅井幸三

37 年度予算

[収入]	
会費	
卒業生 (69)	20,700
在校生 (8)	1,600
計	22,300
[支出]	
Vocalize 発行費	3,000
同 発送費	10,000
Chorus はがき	5,000
つどい開催費	3,000
各種印刷物ほか	1,300
計	22,300

36 年度よりの繰り越しを含まず

委員会だより

◇…月刊「Vocalize」は、編集分担制になりました。担当者(委員)はつぎのとおり。

- ・63号 (5月20日) 森本、内藤、水野
- ・64号 (6月10日) 浅井、神藤、永井
- ・65号 (7月1日) 鈴木、伊藤、水野
- ・66号 (8月1日) 森本、高橋、神藤
- ・67号 (9月1日) 鈴木、永井、内藤
- ・68号 (10月1日) 浅井、高橋、水野
- ・69号 (11月1日) 森本、伊藤、永井
- ・70号 (12月1日) 鈴木、伊藤、高橋
- ・71号 (1月1日) 浅井、伊藤、内藤

◇…つまり、次号は鈴木道郎君と伊藤真知子さんが担当するわけ。よろしくご協力ください。

◇…本年度第二回定例委員会は、六月十九日(火) 四六時三十分より浅井副会長宅で開く。

## 会員インタビュー ⑤

## 森本 進・新会長にきく

「女の生徒にきらわれちゃってね…」

本年度のヴォーカライズ会長に選ばれた森本進君は、この四月に中学教師として社会に巣立ったばかりの好青年だ。なれない仕事をもったうえに、会長という精神的重圧をも加えられて、大いに迷惑がっているこのごろ。しかし「決まった以上は、できるだけのことはやる」と言いきる森本新会長は、長く続いたヴォーカライズの浅井カライを一拭し、よりすぐれたものに改めていってくれるだろう。

このインタビューは、六月五日夜、浅井副会長宅で行われたものである。

きき手 神藤 敏子 (十二)

高橋 洋子 (十二)

安田 軍二 (十三)

(文責) 浅井 幸三 (五)

## 森本 進 (十)

昭和十四年四月四日生まれ、桜丘中、旭丘高、愛学大を卒業して三十七年四月守山西中教員となる。ヴォーカライズでは三十三年に委員、三十四年以後三年連続して副会長に選ばれ、三十七年は会長になった。

## 会長としての方針と抱負

森本君は遅刻が多くなった。やはり忙しいのだろう。きき手だけがそろってしまつてわいわいやつていけると、やつとフラツと現われた。おまけに話がとても堅いし、すなおに質問に応じてくれないというので「協力的じゃない」ときき手に文句をいわれたりもする。

― 会長になって、今後どういう方針で…。

「去年みたいに、浅井さんがひとりやっていたわけでしょう。ことしはそういうぐあいに行かぬの、絶対だね。ぼくが企画から編集から全部指示して…というふうにはできぬ。だから一月一月分担当を決めて、その月で責任をもつてやつてもらおう。そういうふうにやつてもらわないと、ぼくはとてども手が回りません」

この人の話しことばのゾンザイになつたことと聞いたらあきれるばかり。まさに速記者泣かせだ。しかしここでは適当に直して載せる。もっとも彼に言わせると、こういうことばでないと言

徒どうまくやっていけないらしい。

― ことしのプランは？

「編集を分担制でやること。それからことしこそ合唱団がつぶれないように一生懸命やつてもらいたい。会員の皆さん、とくに上の方の人が、たくさんきてくださるよう…。指導者をなんとかしなきゃいかぬわけだね。十六期以後がちゃんぎれているから、ここをなんとかふやしたいと思う。つどいは年に六回くらい…山へ行くこと、秋のピクニック、冬のクリスマスなどの、そして東京と大阪…はやる計画をしている」

## 中学教師・新人の哀歎

先生になった森本君は、すごい熱意を示している。この話のほうは、会長の弁よりも好きだし、楽しいらしい。

― 先生を志したのは？

「学芸大学へ行くときから先生になるつもりはあった。うちは両親とも先生で、別にそれにあこがれたわけじゃないけれど子どもが好きなんだ、ものすごく。はじめは中学校は希望しませんでした。小学校のつもりだった。だけど住めば都だね、中学校の方が全然すてきに感じるもので、小学校へ行く気はないね。小学校

へかえられるというなら悲観する」  
 「学生のところ考えていたことと先生  
 になつてからどう違う？」

「学生の場合すぐ理想を掲げるわけだ  
 ね。教育は人間教育だとか、なるべく  
 ならしからないで教育ができれば  
 いかぬとか……。ところが現実に行つて  
 みると、そんなものはから回りだね。  
 話せばわかるなんていつていたら、と  
 つてもうまくいかない。先生に向かっ  
 て、やるならやつてみるという生徒が  
 いるんだね。だから目には目をだ。向  
 こうが暴力ならこつちも暴力でいかな  
 ければいかぬね。二ヶ月たつたわけ  
 でしょう。もう五、六人ぶんなぐつてい  
 る」

「なぐつたあとの感想は？」  
 「ものすごく気持が悪い。自分が悪い  
 と思うからね、やつぱり。ぼくは元来  
 気が短かい。きょうも教務主任に、そ  
 のくらのことでおこつていてはこの  
 学校では勤まらぬ。あんたは寿命が短  
 くなる、といわれてね」  
 「こわい先生ですか？」

「ぼくはものすごくこわいという評判  
 なんだ。どうしても、若いと何でも腹  
 がたつでしよう。女の子からてんでき  
 らわれちゃって、もういかんと思つて  
 ね。(そうかしらん……と、きき手一回)

あれだけきらわれたらいいとこだな。ク  
 ラブ活動の時間が一時間ある。ぼくは卓  
 球をみることになっている。行つてみた  
 ら遊んでばかりいる。「おまえたち何をや  
 つとる。準備体操もしないで卓球をやる  
 やつがおるか」と、だいぶしかった。そ  
 のあとで、二年の女の子が一緒にきて「先  
 生クラブかわります」みんな逃げていつ  
 てしまった。きょうも、ほかの先生に「女  
 の子にきらわれた」といつたら、「いや、  
 森本さん、そんなことはない。あんたみ  
 たいな若い人はそんなことはない。大き  
 らいの大の字がつくときは反対だ」なん  
 だつて。大の字がつけば望みがあるとい  
 うんだ」

いま一年生に地理を教えている森本君  
 は、専攻が歴史だけによわっているら  
 しい。もつとも男の子には人気がよく  
 て、エビガニやヒバリを一緒にとり  
 行つたとか。「うちの学校の生徒はヒバ  
 リの巣を取りに行くやつがおる」と集  
 会で注意されて、生徒のところへ行つ  
 て「内緒にしておけよ」といつた悪い  
 先生でもある。

### ある恋の物語…そのゴク一部…

「森下さんの初恋は？」

「中学三年のとき。東京からかわつてき  
 た生徒だった。旭丘一年のときにまたか  
 わつていつてしまったけど、それから二  
 年間文通をやりました。中学三年のとき  
 にもめてね。職員会問題にまでなつたら  
 しい。修学旅行のときもいつも一緒にお  
 つたから、ほかの組の生徒がやいてね、  
 密告して、それでおこられちゃつた。別  
 にとりたててきれいなわけじゃないけれ  
 ども……。だんだん手紙がくる間隔が広  
 なつていつて、ついにこなくなる」

つぎの相手が高校一年、同じクラスの  
 女生徒。一緒にクラブに入ろうと思つ  
 たら、女の子はいらぬといつて断ら  
 れたという。ある日下校の歳、向こう  
 が追いかけてきて一緒に帰ろうといつ  
 たのがその出会い。「森本さんはいつも  
 受け身じゃない？ 向こうからばかり  
 で」と、きき手にひやかされていたが、  
 一年に一人の割合で恋愛談義を聞いて  
 いたらたいへんだ。ともあれ今はデー  
 トの相手を捜しているとか。「生徒の中  
 から、きれいで、かわいくて、よくい  
 うことをきく」女の子を捜すのらしい。

## みんなの歌

## Tonight

L. Bernstein 作曲  
音羽たかし 訳詞

Moderato  
トゥナイト

トゥ ナイト トゥ ナイト こ よ い こそ は ふ たり だけ  
To -night, to -night, It all be-gan to -night, I saw you and the

の よ る よ ー トゥ ナイト トゥ ナイト こ の ひ と と  
world went a -way; - To -night, to -night, There's on -ly you to-

き ほ し も あ ゆ み を と め て ー あ い し あ う ふ た ー  
night, what you are, what you do, what you say; - To -day, all day I had the

り に よ る は え い え ん の と き を き ざ む ー つ  
feel-ing A mira-cle would happen, I know now I was right, - For

き し ろ き ふ たり だけ の あ い の ー よ  
here you are And what was just a world is a star to

る ー トゥ る ー ー トゥ ー  
night - To night - - -

いまさら説明するまでもありますまい。オスカーを大量にかっさらって評判になったミュージカル映画「ウェストサイド物語」のテーマである。この作曲家レナード・バーンステインも、いうまでもない指揮者兼作曲家兼ピアニスト……といった器用人、いかにもアメリカらしいふんいきを持った曲だが、この譜の歌詞のつけ方がはたして正確かどうか、それは編集子のあずかりしらぬところである。

昭和37年後半期・音協・労音・例会予定表					
	音楽友の会		名古屋労音		
	A	B	A	B	C
7月	日本フィルハーモニー	モアナ・ハワイアンズ・ショー	ステファン・チガンチェフ (バス)	中央合唱団	弘田三枝子
8月	立川澄人 (バリトン) クール・アベユ	朝丘雪路	大阪フィルハーモニー		労音フェスティバル
9月	藤原歌劇団「トスカ」		東京混声合唱団	江藤俊哉 (ヴァイオリン)	白木秀雄クインテット
10月	読売日本交響楽団	ハバナ・キューバン ボーイズ	原 智恵子 (ピアノ)	楽団カチューシャ	アイ・ジョージ
11月	グラント・ハーブ・ コンサート	ボニー・ジャックス	二期会「トスカ」	ダーク・ダックス (Aプロ) (Bプロ)	
12月	東京芸術大学「第九」		NHK弦楽四重奏団	新制作座	ディキシー

プロフィール

すばらしい木琴奏者・キーボー

おた きしこ

太田 岸子さん

(十五期)

太田岸子さん…。多分知っていらつしやるでしょう？ え？ 知らない人がいるの？ この、私たちヴォーカライズに、すばらしい木琴の奏者がいるのよ。柴田浩昭のトップ弟子。数日前、中区役所ホールで行われたカナリヤ会の演奏会で最後を飾ったのも彼女。そのときの曲目は「ミニヨンのポロネーズ」「ハンガリア狂詩曲第二番」ほんとうにすばらしい演奏でした。今でも、ときどきあのうっとりとしたふんいきがおそってきます。

去年の文化祭のとき、彼女が演奏したのは「ウイリアムテル幻想曲」「白鳥の踊り」でした。エネルギーに満ちあふれた活力おうせいな旭丘健児たちも、やっぱり美しい音にはひかれるのでしようね。私たちAKCの発表会で、あらしのような拍手を浴び再三再四アンコールされたのは彼女の演奏のみです。

彼女と同じクラスになったことはありませんので、クラブにおいての彼女しか知りませんが、出席もまあまあだったと思います。サボる日もポツンポツンとあ



つたようでしたけど…(これ内緒)  
彼女のアダ名は「キーボー」。このアダ名のいわれを残念ながら知りませんが、察するところ、みかんの食べすぎで手の指先が黄色くなっていたところからきたのか、あるいは岸子という名前からきたのだと思います。でも、これ、彼女に合っていないようです。だって「キーボー」なんていうと、お猿さんを連想してしまいうでしょう。全く違うの。高貴で(これは少しほめすぎ)おとなしく、落ちついて考え深く、典型的なまじめ型。人間的に完成とまではいかなくとも、八〇%くらい完成されたという感じです(普通の人間だったら五〇%)。そんなところからくるのか、ときにはとてもおねえさんぽく感じられます。彼女ってとってまたよりになりますよ。

## プロフィール

スポーツ・宗教・アルコール

加藤 千鶴子さん  
(十二期)

在校当時、オペレッタを上演したことがある。そのリハーサル（ドンチョウを下げステージでやっていった）の最中、演出者といささか意見衝突。ものも言わず、幕をハダに開いて飛び出していった。最も、ミサイルみたいに出ていったきり帰ってこないというのは、さらさらない。台風の去ったあとは、気も心も晴れ晴れとする快晴が訪れる。二十分もしたら、またケロッとした顔で戻ってきて皆と一緒にやっていった。こういうさっぱりした人なのである。

入部したのが一年の秋。その前は軟庭部にいたそう。音楽部になれてくると、出席日数の黒星が白星を上回ってきた。それもそのはず、ソフトボール部に入って、一生懸命練習に励んでいたのだから。正式のクラブをさしおいて他で精を出すのは、これまた妙な話である。スポーツは万能で、ソフトボール、卓球、庭球、バスケと種々雑多。その他ダンスを運動だとすれば、これまた達人。

宗教の権威者でもある。宗教といっても、仏教は禅宗曹洞宗。これを「少女小説的センチメンタリズム」なんてきめつけるのは、大きな間違いだ。質実剛健、一種粗暴なものになじんできた宗教と、現在みる彼女の柔和温厚な女性らしさとは、かなりの間隙がみられる。しかし、現に彼女がそれに引きつけられるとすれば、何か共通点があるはずだ。とにかく、話を聞いて、宗教人特有の底の深さがあることは、間違いのないことである。アルコールも、少々たしなむそうである。まだ自分の限界を知らない由。しかし「一体どのくらい飲めるんだろ」なんて幼稚な疑問は、極力避けないとあぶない。友人さえもわからないのだから。それこそ破産させられる可能性もないではない。一言でいえば、禅宗的きびしさ



と活動家ぶりを、女性的柔和さでおおいい隠している現代的第三の女性である。

○：「最近の Vocalize つつ、ちよつと変じやないかい。61号の前に62号が出たかと思うと、こゝろは63号より先に64号が発行されるなんて……」と、不思議がつている方もいるんじゃないかな。ここが、編集分担制の微妙なところ。とにかく、三十七年度のトップバッターがどうかしてしまつたので、二番バッターから先に出墨して、ルールからいうとアウトなんです……

○：そのかわり、CHORUS はがきはないし、依頼原稿はプロフィールを除くと三分三厘（すなわち三人のうちの一人）の打率しかないという、いたって不運な当番になってしまいました。それでも、三ヶ月に一回という順序になれば、精神的にも肉体的にも負担は軽くなるはずであとの二回は一読者になれるのです。ちよつとイイですね、この気分は。

○：「編集なんて、忙しくて、くたびれて、あまりうれしくないわね。あまり働かないほうの委員がこれだから、チーフになつたらどんなにエライか、会員の皆さんにも察してもらいたいでしょう？」

（Z）

今月の編集は浅井（五）神藤（十二）でした。

1967.11.1 (木)

# VOCALIZE

No. 66

AKCヴォーカライズ機関紙

編集者 浅井幸三

## 蜻蛉に寄す

中原 中也

あんまり晴れてる 秋の空  
赤い蜻蛉(とんぼ)が 飛んでゐる  
淡い夕陽を 浴びながら  
僕は野原に 立つてゐる

遠くに工場の 煙突が  
夕陽にかすんで みえてゐる  
大きな溜息 一つついて  
僕は蹲(しゃが)んで 石を拾ふ

その石くれの 冷たさが  
漸く途中で ぬくもると  
僕は放(ほか)して 今度は草を  
夕陽を浴びてる 草を抜く

抜かれた草は 土の上で  
ほのかほのかに 萎えてゆく  
遠くに工場の 煙突は  
夕陽に霞んで みえてゐる

## 11月の演奏会

名古屋

◇クラシック ◆ポピュラー ■ステージ

- ◆NHK名古屋放送音楽会・軽音楽の夕べ  
1日 6:30 文化講堂
- 石井□子、西田佐知子、平海たか子、他
- ◇名古屋交響楽団定期演奏会 2日 6:30  
文化講堂 指揮 外山雄三、P三浦みどり  
ソプラノ 伊藤京子
- ◇ソチエタ・コレルリ合奏団演奏会 7日 6:30  
市公会堂(友の会A) チェロ・シルヴァーン  
ズツカリーニ、ピアノ・ミ・シラズツカリーニ
- ◇名古屋シテイコーラス「南太平洋」演奏会  
11日 6:30 市公会堂
- ◇海野良夫ヴァイオリン演奏会  
12日 6:30 市公会堂
- ◇スメタナ弦楽四重奏団演奏会  
13日 6:30 文化講堂
- ◇江藤俊哉ヴァイオリン演奏会  
13,14日 6:30 市公会堂(労音AB)
- ◆カルメン・キャバレロとその楽団公演  
19日 6:30 市公会堂
- ◇江原滋樹(テノール)独唱会  
19日 6:30 中小企業センター
- ◇ベルリン室内交響楽団演奏会 20日 6:30  
文化講堂 指揮 ハンス・フォン・ベンダ
- ◆ダークダックス・リサイタル 20,21,22,28  
日 6:30・23日 6:30 市公会堂(労音C)
- ◇永長次郎(フルート)本多忠三(ヴァイオリン)  
リサイタル 22日 6:30 中小企業センター
- 西独国立歌劇場専属ベルリンバレエ団公演  
23日 6:30 市公会堂



この欄はAKC関係者みんなの近況を知らせ合うためのものです。だれのことでも、どんなことでも、ぜひお知らせ下さい。

- ◇…水野俊彦君(六) 田中蓉子さん(六)の結婚式は、十月七日午前十一時三十分からホテル・ニューナゴヤであげられた。仲間たちが心配していた「永すぎた春」もこれでめでたく区切りがつけられたわけ。すでにご承知のとおりAKC出身者同士のおめでたは四組目。
- 愛知県鳴海町×××
- ◇…神藤敏子さん(十二) 八月二十八日、盲腸炎のため名古屋日赤第一医院に入院、ただちに手術した。経過は良好で九月五日退院。
- ◇…森本進君(十) 九月十三日授業後、キャッチボール中に、はずみで右腕を骨折、自宅で療養する身となった。医師の診断によると全治四十日。任務分担をしたばかりのヴォーカライズにとつては大ショック、ふたたび暗礁に乗り上げた形となったが、森本君自身にも、まさしく厄年の観。
- ◇…石黒鋒子さん(十二) 自宅の電話番号が変わった。×××

◇…安藤陽子さん(七) このほど左記へ転居された。

名古屋市西区葭原町×××

◇…藤野絢子さん(十三) 八月いつぱいで勤めり大和ハウスIIをやめ、九月から洋裁学校に通っている。

**AKCニュース**

◇…旭丘高校音楽部は、第十五回発表会を十月十日午前十一時十分から一時間半、同十一日午前九時から一時間の二日にわたって開いた。第十四回学校祭の一環としての行事で、会場はいずれも鯉光館。ことしはオペレッタは行なわず、プログラムもほとんどが合唱で組まれた。◇…詳細は次号にてお知らせします◇

◇…またAKCでは本年もNHK唱歌コンクールに参加したが、名古屋地区予選で上位入賞できなかった。同コンクールの参加は昨年に次いで二度目のこと。

Vocalize <66号>

- ◇私の好きな詩(推薦 森本進) …… 1
- ◇ニュース 短信ひとつまみ …… 2
- ◇「十年後の会のこと」 …… 3
- ◇CHORUS(会員のはがき) …… 4
- ◇東京ヨチヨチ歩き三題(横橋貞雄) …… 8
- ◇アンケート夏と冬はどちらが好き? …… 10
- ◇プロフィール池谷芳子さん(十四) …… 11
- ◇プロフィール重樹くん(十三) …… 12

十年後の会・なごやかにひらく

◇…AKC出身者による「十年後に会う会」(五、六期生中心)は、約束の十年目の会合を八月二十六日午後、旭丘高校で開いた。折あしくこの日未明に近畿、東海地方を襲った台風のため、大阪から参加が予定されていた藤井容子さんが来られなくなり、一同をがっかりさせた。このあと会場を中区日出町「和伴」に移し、くつろいだひとときをすごした。

「参加者」加藤清(四) 加藤幽香子、若林延昌、毛利豊、浅井幸三(五) 水野俊彦、田中蓉子(六) 特別参加永井充(八)

△写真、前列右より水野、田中、加藤幽、浅井、後列右より加藤清、毛利、若林▽

もう、10年が過ぎました



ある、昔の「つながり」

十年後の会

のこと



「ごくごくあっさり言ってしまうなら、  
「十年」なんて、なんでもない歳月で  
ある。当時十八歳だった仲間が二十八  
歳になり、相も変わらぬ顔をつき合わ  
せて「やあ、お久しぶり」とかなんと  
か言いはするものの、毎年、正月と夏  
には定例会合をもっている連中にして  
みれば、とんとピンとこない「十年」  
だった。

でも、俗に「十年一昔」という。こ  
の相場は、終戦後のすさまじいまでの  
インフレ時代や、最近のスピード時代  
の、ずっとずっと以前にできたものだ  
から、いまでは「三年」が「一昔」に  
当たるのだという説すら出ている。そ  
うしてみると、昭和二十七年の夏、当  
時の「一号室人種」どもが、「十年後に  
またここで会おう」と約束し、お人よ  
しまるだして、昭和三十七年八月二十  
六日の午後、のこのことへんぴなる旭  
丘へ集まってくることにすら、いまや奇  
跡に近いできごとといってもいいかも

しれない。  
そういえば、スネカジリのお坊ちゃん、  
お嬢ちゃんにも、やはり少なからぬ変化  
はあった。  
すっかり奥様業がイタにつき、子ども  
まで設けたお嬢さんたちのあるのはもち  
ろんとしても、よもやこのメンバーの中  
から二組もの夫婦が生まれようなどと、  
あのころ考えた人が一人でもあったらう  
か。

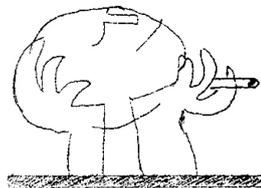
久しぶりに訪れた旭丘の校内をまわり  
ながら：「一号室もずいぶんきたなく、  
そしていたんだものだ」と嘆き、「音楽室  
(いまは生徒会室) ってこんなに暗く、  
うすよごれていたかな」と感心したりす  
るのも、これまた無理もないところだ。  
新しい音楽室へはいっても、まるで他人  
の城のようにしか思えない古ダヌキたち  
でもある。そうそう：中には「あらっ、  
名古屋城が見える。学校からお城なんて  
見えたかしら」と大声を張り上げたもの  
すらあったのだから：。(十年前には名古  
屋城は存在しなかったから、見えなかつ  
たのである) テレビ塔だって、そのころ  
は見ようにも見られなかった時代である。  
お互い年を取ったものだ：と、このとき、  
はじめて時代の流れを痛感したものだっ  
た。

「もう『十年後に会う会』なんて名前

は変えなきゃならぬな。こんどは二十年  
後にでも集まろうか」という声：。「だけ  
ど、やっぱり毎年会って、いつ見ても変  
わりばえのしない顔だな、って、またい  
うだろうね」と答える声、十年前、この  
学校でともに歌い、音楽を分け合った仲  
間たちは、ヴォーカライズをつくり、連  
絡を保ち合って、みごとにその約束を果  
たしたのであった。「こんど集まるときは、  
みんなが顔をそろえ、夫婦、子ども連れ  
でありたいものだ」：この日、集まった  
ものの胸のうちには、きつとこんな思い  
がわきあがっていたことだろう。(Z)

- ▲十年後の会・メンバーV順不同II旧姓
- 加藤 清 (四) CBC
  - 加藤幽香子 (五) II景山II
  - 毛利 豊 (五)
  - 若林 延昌 (五) 日清製粉
  - 浅井 幸三 (五) 若林商会
  - 近藤磨理子 (五) II西野II 中日新聞
  - 関根 夏美 (五) II伊藤II
  - 高橋 啓子 (五) II棚村II
  - 松沢 暢夫 (六) 神戸 川崎重工
  - 水野 俊彦 (六) 明和高校
  - 水野 蓉子 (六) II田中II
  - 藤井 容子 (六) II増田II池田
  - 原 まき子 (六) 西宮
  - 足立 孝子 (六) 国立病院

## Chorus



8月下旬分  
一順不同一

加藤 厚子(十二)

慣れない山登りがたたつて足をはらせて一週間も変な歩き方をしています。だが、やっと治りました。これにこりずに来年は穂高に登ろうと張り切っています。

夏休みも終りに近づいた今は、宿題のしてないのがそぞろ身にしてみても、本を探しに古本屋を歩き回っています。

志水 照代(十三)

この夏こそはどこかへ行こう行こうと思っっているうちに秋になってしまいました。楽しみにしていた夏ヤセも冷房の中では効き目がなくてガツカリ。秋こそはと思ひ、遊ぶ計画に懸命。またBGはどうしてこんなに薄給か、と社会問題にまでとりくんでいます。

加藤久美子(十五)

今高校三年生。受験を目前に控えている私です。クラブにはこのところずうっと出席していません。クラブから全くはなれてしまいました。(これは私だけではありません)ヴォーカライズの方々にもお会いできなくなりました。クラブではみんなとコースが違うので孤立してしまいました。すべてををぎとられて、今はさびしくてさびしくて。ただピアノだけが友だちの、むなしい毎日を送っています。

石黒 鋒子(十二)

近況||今年の夏は旅に出て、旅に自信を得、旅を愛するようになりました。旅で粗食に耐えてきたので、家へ帰るとモリモリモリモリ!

予定||新学期にかけてソロソロ宿題をやり始めようかと思っています。

・おとなしくしようかと思ひます。

・あまりおしゃべりしないようにします。

・眠ることをもう少しすくなくしようと思ひます。

・たべることをもう少しつつしみます。

宣伝||右 乞う御期待  
演説||我遊びたい!

我あばれたい!  
我しゃべりたい!

我ねむりたい!  
我食べたい!

白木 倭子(十五)

夏休みもあと三日。計画通りできたのも最初の三日。たいへんなことになりました。冬の次に春の来るのがうらめしい、冬の次にはもう一回夏がきて、一日が私だけ三十六時間にならないかナーって、虫のいいこと考えてます。そうしたら二十四時間の人並み以上に遊んで、あと十二時間勉強します。どなたか時間の余っている方高く買います。

池谷 芳子(十四)

八月二十日から二十七日まで硬式庭球の合宿に行きました。志賀高原の丸池です。黒くなるだけは一人前に。でもテニスの腕前の方はどうも。運神のないのが全く悲しい思ひでした。生まれてはじめて合宿というものを経験したのです。雰囲気は楽しくて良いものですね。折角そこまで行ったんだから、どこか回ってこようと思つたのですが、はるか名古屋から宿題が招いていたので、涙をのんで一直線に帰ってきました。

園部 靖子(十)

暑い夏もおかげでバテずにすみそうです。そのかわり：海にも山にも行けませんでした。東京というところは実に不便なところですが、海にも山にも遠すぎて。毎日相も変わらず働いております。外資導入だとか所得税法だとか頭のいたくなるような本をよまされたりして、冷房ですずしいのがせめてものなぐさめでアリマス。

フランスししゅうをはじめました。まだ一ヶ月ほどにしかありませんけれども。もっぱら自分のものしかできません。ブラウスとかエプロンとか…。うんと腕を上げたら：注文取りにうかがうかもしれませんよ。いつのことかわかりませんが。

平山 葉子(十四)

大学生なのだから宿題の心配などせぬようにと思っていたのに、またまた宿題にせめられています。多くもないのに、フーフーいって…。せっぱつまらないと始められないのが私の性分とあきらめています。

水野 公子(十三)

今年の夏ははじめてキャンプ生活を楽しまました。場所は富士見台。土地の人いわく不土見台だとのこと。ついに富士山はあおげませんでした。バイトで得た丸いものを何の気なしにつかっているうちに夏休みに入り、大旅行は行けずじまいでした。一年生のときには京都、大阪、神戸、能登と飛び回っていましたが、ちよつと腰を落ち着けています。そのうちに沖縄までと思ってもみましたが、はかない考え。あきらめてアー・ベーツェーでも勉強します。

磯貝 文江(十五)

もっぱら勉強にはげんでいます。(あまり当てになりません)ので、体重がまた少なくなりました。ふとる方法をご存知の方おしえてください。予定通りには進みませんが、自分でできるかぎりがんばってみるつもりです。あと半年しかありませんから…。

鈴木 道郎(十二)

・八月二十八日午後四時をもって、名古屋もまた騒がしくなりました。つまり実習から帰ったのです。  
・新潟の予定が急に変更になり、伊良湖

岬から浜名湖までの海岸測量に出かけました。歩行距離 80km 強、だいたい渥美半島の太平洋岸を一往復半したことになります。

・現場にいるときは、毎日顔を合せている奴が黒いのでなんとも思いませんでしたが、名古屋に帰って、街を歩いている人の顔の白さに比べて、自分のあまりに黒いのがどうも気にかかって、自分の間外出は避けようと思うこのごろです。

・とにかく今は、きたるべき試験のことで頭がいっぱい。しばらくシンミョウに勉強でもしましょうか。

藤野 絢子(十三)

きょう(八月二十六日)は久しぶりに労音に行きました。台風一過でさわやかな午後、ビッコをひきながらの観賞でした。というのには、土曜日、そう、気もそぞろな昼下がり、会社の階段で思いきりくじいてしまつて、イタイ！ 負傷をおしての観賞でしたのに、粗雑な演奏に少々気落ちしたのが、いつわらざるところです。

松沢 暢夫(六)  
 八月四日に神戸を出て北アに行ってきました。重い荷物をかついでエッコラエッコラのぼるときは、もう今回限りだ、と思うのですが、今年もまた行ってしまうました。おそらく来年も行くことでしょう。今回は高山側から槍双六方面に行き、また高山側にもどりました。このコースはいわば裏道で、とても歩いていました。ガサガサと人ばかりいたのは、表道と出会う槍ヶ岳山頂だけでした。槍ヶ岳の上では、だれかが苦勞してかつぎあげたおみやげを買って、また苦勞してかつぎおろしました。何たるムダでしょうか。これを作っているフモトのどこかで買えばお互いに楽なのに。最後の日はおひるすぎに穂高温泉というところにおいて、野天風呂で汗を流し、とてもよい気持でした。ここは川全体がお湯で、しかも焼岳をながめながら温泉につかれるのです。ソウカイなることこの上なく、筆舌につくし難しであります。ソウカイ? などといっているだけで、一度行ってごらん。

永井 充(八)  
 仕事は一段落。山、八方尾根から黒

部峡谷、海、佐久島。八月前半まで十分遊ぶ。  
 何かわからんけど、フアイトあるのみ!

谷 美保子(十四)

近況 まったくつまらない。なぜかっつて言いますと、大学一年の夏休みがこうも楽しくないなんて。原因は自分にあるかもしれないね。やったことといえば、ヴァイオリンの宿題をなんとか一通り、感情なしでひけるようになったこと。小曲ながら六曲もやっつてしまいました。  
 宣伝 兄に教えてもらって、少しばかりダンスを覚えました。おのぞみならお相手いたしますよ。

二井真智子(十四)

ガチャガチャ、ミシンを踏んで洋服を作っています。夏休みの宿題をやっているわけです。へたなへたな洋服ですが、そのうちきつと上手になるだろう? と信じています。そしてりっぱなデザイナーになれることを夢みながら、ミシンを踏んでいきます。

鈴木 茂(十二)  
 心配していました。とても心配してました。でも Vocalize が届きまして、ほっとしました。

(現況) 八月二十七日〜九月三日野尻湖キャンプ。

高橋 昭弘(十三)

夏休みもいよいよあと一週間ほどになりましたので、ぼつぼつ勉強でもしようかなど考え始めています。などとノンキなことをいっていますが、実はもつと深刻なのであって、ガリガリと勉強しないと三年生になれそうもないらしいんです。らしいなどと、人ごとみたいなこというんですから、やっぱりノンキなんです。今年夏休みはまたたくまに過ぎてしまった気がします。七月中は合宿等の準備、八月に入って根の上で合宿のキャンプ五日間、妙高で大学合唱協会の合宿五日間、敦賀で男声の合宿一週間と休むヒマもなくて、今もまだバテぎみの状態。これからチョイト寝ようと思えますので、この辺で。

横橋 貞雄(十二)

泳げなかったのは残念。今夏、水に浸かったのは三回。これは小生世にウブ声

をあげて以来の最少記録であった。父の勤務の都合上あちこち転居してまわったが、多かれ少なかれ水には関係があった。われ幼少のみぎりは、人類共通するがごとき水につきり：これはまづ本人の記憶にはないのではないか。仮におぼろにも記憶にあれば、偉大なる早熟者かあるいは地理学の隠れた貢献者としてたたえられてよい。小生のごとき凡人には、まづもって記憶どころの騒ぎではない。すべて日ごろからのたゆまぬ観察によって捜し求めたものである。

最近の海は大腸菌、コレラ菌等の、いかかわしき細菌が海中散歩しているのに比し、あの当時の水分にはそんな不純物は混入されていなかったのではないかと思う。実に清潔であった。

話がいささか低下した。要は水になじんできたこの私が、今夏はいかに陸上生活に時間をさいた家を、些少とも理解していただければよいわけです。

どちらにしても、プールの近くに家を持ちながら、今年のはわが悪癖「鉄砲玉」のため、簡易プールの家として利用されなかったのはいとも残念。来年はいっしょくたにしておいてください。

夏になって、誕生日がきて：その日の朝、岐阜県は御母衣ダムに近い平瀬の宿で目をさました。隣に寝ていたのは、愛する人：だとかかったのですがヴォーカライズのY君。彼は「おめでとう」ともいつてくれなかったので、がっかりしました。

八月にはいつてから、ある人にこういわれました。「うちで誕生日の相談をしたら、『ああそうすると、またあの変わったはがきがくるわね』といて楽しみをしていたのに、ちよっともこないわね。どうした？」そこで半月もたつてから、あわててその記念はがきを出すことにしました。これを出さないことには、一ツ年令がふえたと認めてもらえないようです。

えっ？ 二十八歳の記念印刷物どうなつたかって？ すみません、延期です。あしからず。

浅井 幸三(五)

#### おわび 編集部

この「Vocalize」66号は、十一月一日発行の予定で各種の原稿を扱っていましたが、ある事情で発行が遅延し、ムダな記事の生じたことをおわびします。森本君の「私の好きな詩」紹介文も、つごうで掲載できません。

名古屋シティ・コーラス

ミュージカル「南太平洋」を公演

：皆さんのご参加を期待します

AKCヴォーカライズとは親戚づきあい？の名古屋シティ・コーラスでは、この秋の公演として、ミュージカル「南太平洋」に取り組むことになりました。AKC出身者では、加藤雄樹(三) 加藤清(四) 若林延昌(五) 神藤敏子(十二)らの皆さんが加わっていますので、ヴォーカライズとしてもこの公演を支援したいと存じます。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。同封のCHORUS用はがきにて必要枚数をお申し込みください。

ミュージカル南太平洋 演奏会

とき 十一月十一日(日) pm6:30

ところ 名古屋市公会堂

指揮 横井 園生

ソプラノ 松原千枝子

アルト 高階 由美

テノール 江原 滋樹

バリトン 洞谷 吉男

名古屋シティコーラス

名古屋ポップス管弦楽団

入場料 A席三〇〇円 B席二五〇円

## 東京ヨチヨチ歩き二題



横橋貞雄

在京中（八月五日〜二十八日）の思いついたこと、やったこと、つれづれなるままに書きました。

## 爪の恐怖

某日、バス（東急）から降りる際、つい何げなく切符を差し出した（僕は、交通機関を利用するときは、常に停留所の少し手前で車掌に切符を手渡し、「ここで降りるぞよ」と声なき声をもって意思表示することにしてゐる）。まだ進行中のため、振動で切符が相手の手に渡らない。それでもお互いにベストを尽くして、渡す、受け取る行為を敢行していたのである。遂に成就（その間数秒）。しかし、親指第一関節と爪の間がピリピリする。よくよく見ると、あたかも鋭利な刃物でかすられたごとく、血がにじんでいる。初め、どこで負傷したかわからず、荷物を調べたり、

ポケットを探したり：ポケットの中には十円銅貨二、三枚。これだけの些少の銅貨なら、肝を冷やされたり、心臓の縮む思いをすることはあっても、指をケガさせるほどの刃物とは考えられない。そのうち停留所に着いて、扉をあけてくれる車掌の爪を見て驚いた。七、八ミリのびた爪は、つや出しの液体を塗りたくり、しかもその先端部分はカミソリのごとく、みがかれていたのである。切符を受け取った方の五本の指を見て、どの指がおれを傷つけた障害犯指（人ではない）なのか？ これだけの傷では、身体の生理的機能に障害を与えるほどとは考えられないから、傷害罪は構成しないが、一定の料金を払って乗ってくれるお客様に対しての心理的不信感、実に多大なものがある。爪の効用は、単にひっかくものだけではなく、りっぱに刃物としても通用するものであるということを感じた次第。関係当局には、この類の不法凶器を断固として取り締まっていただかないといけない。

爪を長くのばした人よ！銃砲刀剣類等不法所持の罪名のもとに、暗い、湿った部屋に入れられないよう、十分注意する必要があるのである。

## 雨の不思議

帰途、一人夜道をテクテクと、灼熱の太陽にかわききったアスファルトを歩く。突然、糸のように細い霧雨が僕をとりまいた。「とうとうきたな」足の交互前進運動をローからハイに切り換えて馬力を出そうと思ったら、ザー、本格派の夕立ち。アワを食らって近くの軒下へ避難。入ったと思ったら、もう大粒なのはやんでいゝ。せめて駅まで行かぬと命にかかわる：（「お前だけが頼みだぞよ、これを聞いておくれ」とくると、ユサツクの悲歌になる）。そこで意を決して、勇猛果敢に、細い筋をぬうようにして韋駄天走り。もの十メートルも行かないうちに、滝のごとき水滴がアタックしてきた。これが不思議なのである。雨中まわり見るに、どうも降ってるのが、僕を中心とした半径二十メートルばかり。かなりのスピードで、この御身体も進行していたのであるから、それにくっついて雨も走っていたことになる（数秒間のことであつた）。これを局部的多雨というが、僕にも水滴を集中さすだけの引力を保持していたのかと思うと、楽しくなった。さりとて、日ごろの素行に対する何らかの責任であるとしたら、重大問題であり、僕は一生浮かばれません。

### ニコチンとチンジャラ

私のパチンコの歴史は、生誕以来数回（念を押しておかないと誤解される）。夜もふけ、時は十時半。ニコチンへの渴望にさいなまれていた。すでに、残るははかなき二円五十銭（いこい一本あたりの単価）。これをやっちゃまうと、あすの朝までがまんしなければならぬ。タバコの人体に与える影響は、害あつて全くの益なし、それを百も承知しながら、どうしてもやめられない。意志薄弱であるか？ だとすると、人類の青年大部分は、この症状を呈している。まあ学生の分際で、納税者としていくぶんなりともお国のためになればと、みすぼらしき愛国者の忠信だ、と思っておるのである。

残った一本を口にくわえ、（目や鼻にくわえろとしたら、それは天才のなせる業です）、異常に軽いサイフをポケットに、身も心もフワフワと、ニコチン売り場をさまよい歩いたのである。かかる店は閉店時間がおそいものであるが、きょうに限って、貧乏神の襲来とばかり、フタはすでにバタバタとしめられていた。ここであきらめたら大した者であるが、もはや専売公社を仇敵とみなす僕は、粗暴なる暗鬼と化して

いた。清姫が安珍を求めて苦難の行脚を続けたのに対し、このさまよえる小羊は、ニコチンを求めてさすらったのである。

五、六軒歩いて、絶望のうめきに会っているとき、輝かしきネオンの光。光と見ればところかまわず集まる夜の蝶蛾のごとく、誘い込まれていった。ここがチンジャラの、快い、胸に響く音色の源であることはいままでもない。十円銅貨より少し小柄な、貧弱なニッケルを一枚取り出して、二十分ばかり。出した玉の重圧に耐えきれなくなった台がミシミシ揺れ動く：ところまでは行かなかつたが、途中状態悪化、下降カーブを描き始め、だんだんわびしくなってきた。

男は引けぎわが肝心。資本は確保しなければいけない。残った玉を引換所を持っていくと、景品係が不審な顔をしてブツをくれた。要するに、この辺ではチツと持つていくのはおかしいらしい。しかし、パチンコ屋としては、こんなミミッチイ奴を計算に入れておかないと、思わぬ損害をこうむることになる。いこいニコと大型キヤラメル一コ。少しばかり浮いたことになる。気分爽快。このあとのニコチンの味は、比類なきうまさかげんであった。



### 船酔い促進剤

金はあるが腕はさっぱりという指揮者がいたが、だれも使ってくれないので、ウィーン・フィルハーモニーを雇って自前の演奏会を開いた。演奏開始の前に、その指揮者は「今夜は中継放送され、アメリカ行き船の中で私の母親がきくことになっていますから、どうか諸君りっぱに演奏してください」と頼んだ。しかし演奏が始まるや指揮者がへたくそなので、たちまちごちゃごちゃになつてしまつた。チェロの首席のブックスバウムは、演奏が終わると指揮者に向かつて「あなたのおかあさんは、さぞかし船酔いに苦しんでいらつしやることでしょうね」

### 音楽こぼれ話

ある金持ちがシヨパンに余興をさせようと晩餐会に招いた。食事が終わるか終わらぬかに主人は演奏を頼んだ。人前で演奏するのがきらいだったシヨパンが断ると、金持ちは怒つて「そのためにあなたにごちそうしたのじゃないか」といった。むつとしたシヨパンは「私は小食ですからあなたにご迷惑をかけるほど食べちゃいませんですよ」

## enquête



## アンケート

あなたは夏と秋「夏」とでは、どちらが好きですか。それはどういう理由からですか。

高橋 昭弘(十三) 夏になると冬が好きで、冬になると夏が好きです。理由：夏は暑くて、冬は寒いからです。

鈴木 茂(十二) 夏も冬もいいですね。生活の回転として、テンポとして、両季節とも味わい深いものがあるね。

二井真智子(十四) 冬の方が好き。夏は、夏まけするし、色は黒くなるし、夏休みの宿題においかけてまわされるから。ただ、夏休みだけは一年中で一番好きです。

石黒 鋒子(十二) 夏はへびやかかげが出るので嫌いですけど、冬も休みが少ないのできらいです。こうしてみると、二ヶ月余りの休みがあり、気が大きくなる夏の方がやや好きです。何しろ誕生日が夏ですからその点からいってもね。

加藤久美子(十五) 夏の方が好きです。ジリジリとくいているような暑さ、

全力を尽くして鳴き叫ぶセミの声、炎天下の土、石、皆生命力にみなぎっていて、情熱的でエネルギー感を感じだから。

志水 照代(十三) 夏が大好き。あの青い空と青い海、それに山。夏は活動的になりますから。

加藤 厚子(十二) 冬の方が好き。夏は暑くて、皮も脱いでしまいたいくらい。冬は木枯らしのムードがステキよ。谷 美保子(十四) どちらもどうとも思わない。

永井 充(八) 私は自然にはあまりさからわないことにしています。春夏秋冬、いずれも順番にきていただければ満足。でも台湾産には名古屋の冬はちよつとにがて。

松沢 暢夫(六) 冬がグッドグッドである。理由・1、スキーができる。2、暖房(厚着も含む)は冷房より簡単である。3、冬のボーナスは夏のより多い。4、冬休みの方が夏休みより長い。(夏は三日、冬は五日)。5、夏はアツイよ。

藤野 絢子(十三) 断然冬！心の汚れを飛ばしてくれる冷たい風、物憂い枯木林を歩くと、そこを抜ければ暖かいしあわせが待っている。そのしあわせを迎える準備の季節。そう、冬は

最高です。

磯貝 文江(十五) 「冬」が好きです。理由：雪景色がとっても好きです。それに夏よりはいくらかたくさん食べることができて、少しふとれるから。

水野 公子(十三) どちらも大きらい。冬は手が冷たくてピアノが引きにくい。夏はあつくて皮をもう一枚脱ぎたいほどの汗をかく。

平山 葉子(十四) 断然夏の方をとります。開放的です。

園部 靖子(十) 夏も冬も好きです、同じくらいに。夏には夏にしかできないのしみがたくさんありますし、冬は冬で。何とよくばりなのでしょう。白木 倭子(十五) 夏は水泳ができるし、冬はスキー、やっぱ両方好き。

冬の学校は大きらい。寒くなって、おまけに昼近くにもなればおなががすいてねむくて、飢えの寸前ですもの。ただし今年に限って夏の方がいい。だって冬が来たらずい春ですもの。何が何だかわからないかもしれないけど、どうぞ三年生のときをおもいだしてちょうだい)

佐藤 治江(十二) だんぜん冬が好き。冬にはお正月ありクリスマスあり。それにも増して、火を囲んで家族の寄りそう季節だからです。

編集部からのお知らせ

「Vocalize」65号（七月号）は、鈴木副会長の事情で遅れています。八月号は休刊とし、この号（66号）は九月号に相当するものです。

十月号（67号）は「AKC発表会」特集号として十一月中旬までに、十一月号（68号）はCHORUSはがきを中心に同月中に発行する予定です。

高橋 洋子（十二） どちらかといえ  
ば夏。夏休みの方が冬休みより長い  
からかしら。？

横橋 貞雄（十二） 良きところ、あ  
しきところ一点ずつあり。・夏良し夏  
のスポーツ（水泳）お金かからず（ウ  
ィンタースポーツは準備たいへん）。  
冬良し夏の暑さはその限界を人皮と  
するが、冬はあたかもバツファロー  
のごとくふくれることも可能。

浅井 幸三（五） 病気さえ出なけれ  
ば、どちらでもかまいません。暑い、  
寒い、それほど私を左右しないか  
らです。ただ、冬は秋の延長で病い  
がち、夏は前座で体調不十分…やっ  
ぱりどちらもよろしくありません。  
しいていえば、夏は誕生日がめぐっ  
てくるだけに責任を感じる季節では  
ありません。

プロフィール

器用で、センスの鋭い人

いけや よしこ

池谷 芳子さん

（十四期）

センスある着こなし、鈴をはったよう  
な目、玉をころがすように美しい声、だ  
れでも一度彼女に会ったら話しかけてみ  
たくなる。こんなすばらしい女性が池谷  
さんである。

器用でセンスの鋭い点では、彼女の右  
に出る者はいないだろう（もちろん左に  
出る者もない）彼女の手にかかると、小  
さな布の切れ端も、たちまちにして魔法  
をかけられたごとく、美しいブックカバ  
ーになったり、かわいらしいクッション  
に変わってしまう。

三十五年度の文化祭をごらんになった  
方は、ペーターが一目で「ヴィーナスの  
再来かと思われるような美しいお嬢さ  
ん」と、心を奪われてしまった伯爵令嬢  
を思い出されることでしょう。あのオペ  
レッタが、特別なできごとはいえないが、  
あそこまで観客に楽しんでもらい、やり  
がいのあるステージとなったことは、台  
本の要求にピッタリの、まったく適役の  
彼女の好演が大きな力になったことは疑  
いない。



旭丘高校時代は、勤勉家ぞろいの音楽  
部（？）の中でも特に勤勉家であり（現  
在のことはどうも…）いつもノンキな周  
囲に新しい刺激を与えていたものだ。遊  
ぶときは徹底的に遊び、勉強するときは  
人一倍ガンバル。これが彼女のモットー、  
…いかにも彼女らしいやり方である。  
現在は合唱から退いて、テニスをカッ  
コイ程度にやっておられるそうである。  
彼女がサッソウとコートに立った姿……  
考えただけでも壮観である。東京女子大  
の美智子嬢が生まれる日も遠くないだろ  
う。週刊誌、新聞に注意して待たれるの  
も、今すぐ彼女を訪れるのもけっこうだ  
ろう。将来が大いに期待される彼女であ  
る。

昭和十九年二月二十六日生まれ、学大  
附中出身で、現在東京女子大学生、同大  
学の寮にはいつている。

## プロフィール

勤勉な努力家

林 茂樹君  
(十三期)

はやし しげき

林 茂樹、ノッポ……いや、そんな形容にもあてはまらないほど、ヒョロ長くて、もう少しで百八十センチにどきそうなやつ。顔が細長いせいとか、まるつぶく見える眼鏡のうしろで笑った目が、ひどく人なつっこい。

彼の話しぶりは、全くのざつくばらん。彼はかざることがきらいらしく、そこいらのジャリと話しているみたい。これは彼が意外にテレ屋であることを証明しているものと思う。彼が音楽部の下級生からもらったわかれていたのも、この辺にカギがあるのだろう。

彼が入部してから間もなく、文化部対抗のバレーボール大会があった。第一戦のとき最初のサーブであった彼の手から打ち出されたボールは、全くすごい一言につきるものだった。たしか、彼のサーブだけで二十点近くとってしまったと記憶している。彼は桜丘中学でバレー部のキャプテンだったということがわかって、ようやく納得した。われらの音楽部が「ありや、バレー部かい」と皮肉られたほどの実力

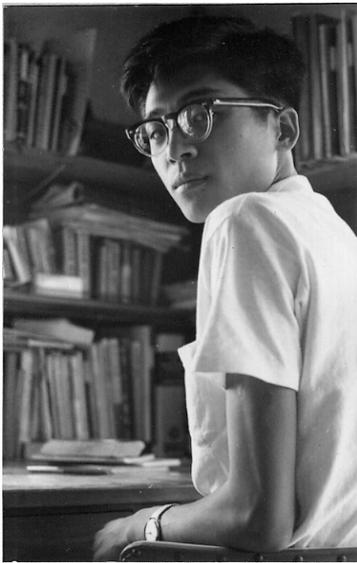
があったのも、彼のおかげといってもいい。

彼は部の活動にも非常に熱心だった。「クラブをサボったら、どんな気持ちになるかナ」と思っただけで欠席してみたそうだが、それほどの皆勤ぶり。

つまり彼は非常に勤勉な努力家である。が、風のうわさによれば、だいが、パチンコ、マージャンの方も勤勉で、なかなか幅広い教養を身につけているそうだが、

彼は現在、名大男声合唱団でベースをうたっている。そこでは彼は「名古屋弁の茂樹」とおっている。機会があったら、彼にしゃべらせてみてはいかがですか？

昭和十七年六月三十日生まれ。桜丘中学の出身。現在名古屋大学一年。



## Invention

○：編集者としてでなく、浅井幸三個人として、この小文を……。ぼくは、いまでもヴォーカライズに非常な愛着を持っています。六年以上というもの、ヴォーカライズは私の生活の中で大きなウェイトを占めていたからでもありませんし、依然としてこの集まりに期待をかけているゆえでもあります。

○：だから「Vocalize」が出ないことを最もさびしく思い、残念とするのも、当然私自身であります。編集分担制になったとたんに、昨年以上に停滞をきたしたヴォーカライズをみて、なんとかしなければならぬと、つねづね考えていました。○：AKC発表会に招かれて、ほんとうに久しぶりに旭丘へ行った日：十五期の女生徒諸君につかまって「早くVocalizeを出してよ」といわれたとき、困ったことも事実ですが、内心ある種のうれしさも覚えていました。やはり「Vocalize」を待っていてくれる人がいるのだ……と知って、もう一度、ヴォーカライズの仕事に帰ろうと心に決めたのです。正直なところ、ぼくは、どうしてこんなに女の子にヨワイのか、よくわかりません。